

授業科目	情報処理学						
担当者	木村 幸世						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

Microsoft Windows[®]および Microsoft Office[®]アプリケーションを使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な PC 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。

■ 到達目標

- ・ PC 上での文章入力、Windows 上のインターネットブラウザ利用の速やかな操作ができる。
- ・ PC (Windows) 上におけるファイル管理およびクラウド上の保存域の概念を理解し操作できる。
- ・ 文書作成ソフト (Microsoft Word) を使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。
- ・ 表計算ソフトを (Microsoft Excel) 使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。
- ・ プレゼンテーション資料作成ソフト (Microsoft PowerPoint) を使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。
- ・ セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。

■ 授業計画

- 第1回 PC サインイン初期設定
Windows10の画面設定と基本操作
ファイル管理 (フォルダとファイルの作成と Moodle からの取得、提出の練習)
情報倫理 (ネット・電子メール利用の基礎知識とマナー)
遠隔授業に備えた Moodle 上の教材確認と操作等の確認・案内
- 第2回 文書作成①
Word の画面構成と基本操作
Word 上での日本語入力
新規作成文書と既存の文書変更
ファイルの保存と管理
- 第3回 文書作成②
Word 文書の書式設定
表の作成
- 第4回 文書作成③
表現力のある文書作成 (ワードアート、画像の挿入、図形など) の設定
- 第5回 表計算①
Excel の画面構成
操作単位 (ブック、シート、セル) の把握とデータ入力
表の体裁と書式設定 (罫線、セルの色、セル内の文字の配置など)
計算式の用途と表示形式
基本関数 (合計・平均など)
オートフィルの利用

第6回	表計算② グラフ（表のデータを元にグラフ作成と編集） データベース機能の基本操作 実用関数の紹介と利用
第7回	プレゼンテーション① PowerPoint の画面構成 ファイル・スライド・プレースホルダ・オブジェクトの紹介 テキストの入力 オブジェクトの挿入と加工
第8回	プレゼンテーション② グラフや表の作成 プレゼンテーションの効果（アニメ、スライド切り替え、スライドショーの実行）
第9回	小テスト（Word・Excel・PowerPoint） 総合問題を作成して提出
第10回	Google アプリの利用① ドキュメントを利用して文書作成 スプレッドシートを利用して表作成 GoogleDrive の使用方法
第11回	Google アプリの利用② スライドを利用してプレゼンテーションを作成
第12回	Google スライドを利用したグループワーク① プレゼンテーションの共有 与えられたテーマについて共同作成
第13回	Google スライドを利用したグループワーク② 与えられたテーマについて共同作成
第14回	Google スライドを利用したグループワーク③ 与えられたテーマについて共同作成と共同発表（修了課題）
第15回	Google スライドを利用したグループワーク④ 共同発表（修了課題）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	科目試験は「グループワークによる共同発表」とする。（筆記試験ではない） 小テストは実技による課題提出で、期間内に1回実施する。 さらに、講義後の（操作済み）ファイル提出を5～7回実施し提出状況や内容を最終評価に加えるものとする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1. PC キーボードのタイピング練習を時間外の学習として必須とする。
期初に紹介する「オンライン上の練習サイト」上での「目標レベル」に到達するよう継続して練習すること。
2. 講義内で使用したファイルの保存先は、学校発行の Google アカウント（e-mail アドレスに付随）で利用できるクラウド上を原則とするが、外部メディア（USB メモリ等）に保存したい場合は自身で用意して持参すること。（各自が使用しやすいもので構わない。他科目との共用も可。各自で使用・管理できるものを持参）

■ 教科書

書 名：よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019
(ISBN：978-4-86510-399-1)
著者名：(株) 富士通ラーニングメディア
出版社：FOM 出版

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	医療情報学						
担当者	周藤俊治						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

現代の保健・医療・福祉の分野において欠かせない ICT の活用に必要な基礎知識として①デジタルデータがどのように発生しネットワーク上を流れているのか、②医療機関にどのようなシステムが導入・運用されているのか、③情報の収集や活用に関して講義を行なう。

■ 到達目標

- ①情報に関する計算ができる（情報量（A/D 変換）、転送速度）。
- ②保健医療情報システムの概要や、関連法規について説明できる。
- ③データのとりまとめ（代表値、散布度）や統計資料について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 情報学（Ⅰ） 情報とは
- 第2回 情報学（Ⅱ） 情報量の計算について
- 第3回 情報学（Ⅲ） ネットワーク技術について
- 第4回 情報学（Ⅳ） 情報セキュリティ
- 第5回 保健医療情報システム（Ⅰ） 医用画像について
- 第6回 保健医療情報システム（Ⅱ） 電子カルテについて
- 第7回 保健医療情報システム（Ⅲ） 施設内の情報システムについて
- 第8回 保健医療情報システム（Ⅳ） 施設間の情報システムについて
- 第9回 統計基礎（Ⅰ） 尺度・度数分布について
- 第10回 統計基礎（Ⅱ） 代表値について
- 第11回 統計基礎（Ⅲ） 散布度について
- 第12回 医療統計（Ⅰ） 病院の統計資料
- 第13回 医療統計（Ⅱ） 比と率と割合
- 第29回 医療統計（Ⅲ） 相対危険度
- 第30回 医療情報の倫理 医の倫理・情報の倫理・関連法規について

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<https://www.medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	医療情報学						
担当者	芦田信之						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解しその将来像を見据えて活動できる医療人となることを目的とし、情報の利活用のスキルを身につける。そのための方法として、コンピュータの歴史から今後 AI が導入されることをみこしたコンピュータサイエンスを学ぶ。また、データ処理技術や情報倫理を身につけることを目指す。

■ 到達目標

医療におけるコンピュータの利活用のスキルを身につける。情報倫理や情報検索などネットワーク社会への適応ができる。

■ 授業計画

- 第1回 講義を始める前に、医療情報学 医療情報とは 医療統計学、保健疫学との関係
- 第2回 医療情報 過去・現在・近未来 演習 Excel の活用
- 第3回 医療情報のキーワード 演習 住所録サンプルの利用
- 第4回 医療情報 臨床データの活用 医療統計
- 第5回 診断技術 正常と異常の判別
- 第6回 病院職員の健康診断データの活用
- 第7回 乳幼児健診データの活用
- 第8回 遠隔医療と医療情報学
- 第9回 医療倫理と医療情報、情報倫理
- 第10回 ニセ健康情報を見破る方法
- 第11回 代替医療・統合医療
- 第12回 予防医学と医療情報
- 第13回 臨床疫学・医療政策と医療情報
- 第14回 医療情報とリハビリテーション
- 第15回 3・4クォーターのまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業教材は本学の講義支援システム Moodle にて事前に提供するので、授業前に閲覧し、授業後には各回のまとめをおこなうこと

■ 教 科 書

書 名：統計学への招待 初版第2刷 ISBN 9784419065133
著者名：三品、岡田、奥、芦田
出版社：税務経理協会

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	統計学						
担当者	周藤俊治						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

取得したデータを集計し有効に活用するには、統計の基礎を理解するとともに取り扱う能力を身につけることが必要である。そこで、本講義ではPCを利用しデータを取り扱い、見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。

■ 到達目標

PCを用いて代表値や散布度などの指標を算出できる
PCを用いてわかりやすい表・グラフを作成できる
推定や検定の内容を理解し適切な検定法を選択できる

■ 授業計画

- 第1回 データの取得（1）
- 第2回 データの取得（2）
- 第3回 記述統計（Ⅰ）度数分布表
- 第4回 記述統計（Ⅱ）度数分布図
- 第5回 記述統計（Ⅲ）代表値
- 第6回 記述統計（Ⅳ）散布度
- 第7回 推定（Ⅰ）正規分布
- 第8回 推定（Ⅱ）中心極限定理
- 第9回 推定（Ⅲ）母数の推定（点推定）
- 第10回 推定（Ⅳ）母平均の区間推定
- 第11回 検定（Ⅰ）2群の差の検定（パラメトリック）
- 第12回 検定（Ⅱ）2群の差の検定（ノンパラメトリック）
- 第13回 検定（Ⅱ）カイ二乗検定
- 第14回 判断分析（Ⅰ）感度・特異度
- 第15回 判断分析（Ⅱ）ROC 曲線

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	70	%	
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	レポートは毎回の課題になります。最後に確認しますので整理しておいてください			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<https://www.medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

■ 留意事項

PC を用いて授業を行います

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	物理学						
担当者	三好由美						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	PT 必修 / OT 選択		

■ 授業目的・内容

人体の構造・機能・運動との関係についての専門分野を習得するために必要な知識である物理について、その基礎的な事項を確認し学ぶ。特に、力学（運動）など直接的に身体機能と運動機能の改善に関与する内容を扱う。

■ 到達目標

- ・生理学・運動学等の専門基礎分野を学ぶ上で必要な基本的自然科学の事項を理解し、説明できる能力を養う。
- ・多様な症状向けの確かな医療方針の改良、創造などができうる思考の基盤を修得する。

■ 授業計画

第1回	物体の運動とエネルギー	基本知識・計算の確認	単位の確認
第2回	物体の運動とエネルギー	三平方の定理	
第3回	物体の運動とエネルギー	力の合成と分解	
第4回	物体の運動とエネルギー	力の合成と分解	
第5回	物体の運動とエネルギー	運動の法則	
第6回	物体の運動とエネルギー	落下運動	
第7回	物体の運動とエネルギー	運動エネルギーと位置エネルギー	
第8回	物体の運動とエネルギー	力学的エネルギー保存	
第9回	様々な運動	曲線運動の速度と加速度	
第10回	様々な運動	剛体のつりあい	モーメント
第11回	様々な運動	運動量と力積	
第12回	様々な運動	運動量と保存	
第13回	電気	物質と電気抵抗	
第14回	電気	物質と電気抵抗	
第15回	まとめと振り返り		

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	講義内で振り返りのための演習時間（講義内容によって不定期になる）を取り、それを基に科目試験を実施する。授業への取組（演習問題の解答発表等）を20%として評価に入れる。 正当な理由がない無断の欠席・遅刻・早退については、評価の合計点数より減点する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義では演習を多く実施します。講義中に配布／使用したプリントの復習をしておくこと。

■ 教 科 書

書 名：使用しません。配布プリントを利用します。

■ 参 考 図 書

書 名：「基礎から学ぶ力学」，乾雅祝・畠中憲之・星野公三，培風館

著者名：「なっとくするベクトル」，小野寺嘉孝，講談社

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生物学						
担当者	三好由美						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

人体に関する基本的理解に基づく知識と科学的思考が不可欠である専門領域を学ぶにあたり、私たちヒトという存在が、自然界、生物の世界全体のなかではどのように位置づけられるのか、進化、発生、遺伝、人体の機構について、細胞レベル、分子レベルに至るまでを最新の学術的なトピックを織り交ぜ検証し、それぞれが有機的につながっていることを確認する。※トピックは情報刷新のため変更もある

■ 到達目標

- ・生物に共通するメカニズムを知ること、生物学の基礎的な概念や用語を身に着けることで、生命現象への深い理解と思考力を手に入れる。
- ・医療従事者の基本となる客観的・科学的な考察力を醸成し、未知を探究するための素地をつくる。
- ・生理学・解剖学の個別の授業の理解へとつながることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス 生物の特徴 ※生物の分類と進化
- 第2回 細胞の構造 ※細胞小器官・細胞骨格とモータータンパク質・細胞膜
- 第3回 遺伝情報と DNA ※染色体とゲノム トピック★ゲノム編集と遺伝子組み換え
- 第4回 細胞分裂 ※遺伝情報の分配とポリメラーゼの働き
トピック★癌細胞と免疫
- 第5回 遺伝情報とタンパク質の合成 ※真核生物のエピジェネティクス
- 第6回 遺伝現象 ※メンデル遺伝 ハーディワインベルグ 中立遺伝 特殊な遺伝 トピック★キリンの首はなぜ長い
- 第7回 体内環境 ※骨と筋肉
- 第8回 体内環境 ※肝臓と腎臓
- 第9回 体内環境 ※ホルモン 血糖値調節
トピック★糖尿病
- 第10回 免疫 ※白血球とリンパ球 細胞膜と受容体
トピック★コロナウイルス
- 第11回 エネルギーと代謝 ※呼吸基質 酵素の働き
- 第12回 内分泌系と自律神経
- 第13回 刺激の受容と反応
- 第14回 動物の行動
トピック★鳥たちの会話
- 第15回 振り返りとまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	講義内で振り返りのための演習時間（講義内容によって不定期になる）を取り、それを基に科目試験を実施する。授業への取組（演習問題の解答発表等）を 20%として評価に入れる。 正当な理由がない無断の欠席・遅刻・早退については、評価の合計点数より減点する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生物学を学ぶ上において講義後の復習が重要となります。用語チェックのためのプリントなど講義中に配布／使用したプリントの復習をしてください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：『カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書』全3冊
著者名：D・サダヴァ（著），石崎 泰樹（監修，翻訳），中村 千春（監修，翻訳），小松 佳代子（翻訳）
出版社：ブルーバックス

書 名：人の遺伝子と細胞
著者名：西村尚子
出版社：技術評論社

書 名：最新図説生物 二訂版
出版社：第一学習者

■ 留意事項

色鉛筆（12色）を必ず持参すること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生物学						
担当者	三好由美						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

人体に関する基本的理解に基づく知識と科学的思考が不可欠である専門領域を学ぶにあたり、私たちヒトという存在が、自然界、生物の世界全体のなかではどのように位置づけられるのか、進化、発生、遺伝、人体の機構について、細胞レベル、分子レベルに至るまでを最新の学術的なトピックを織り交ぜ検証し、それぞれが有機的につながっていることを確認する。※トピックは情報刷新のため変更もある

■ 到達目標

- ・生物に共通するメカニズムを知ること、生物学の基礎的な概念や用語を身に着けることで、生命現象への深い理解と思考力を手に入れる。
- ・医療従事者の基本となる客観的・科学的な考察力を醸成し、未知を探究するための素地をつくる。
- ・生理学・解剖学の個別の授業の理解へとつながることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス 生物の特徴 ※生物の分類と進化
- 第2回 細胞の構造 ※細胞小器官・細胞骨格とモータータンパク質・細胞膜
- 第3回 遺伝情報と DNA ※染色体とゲノム トピック★ゲノム編集と遺伝子組み換え
- 第4回 細胞分裂 ※遺伝情報の分配とポリメラーゼの働き
トピック★癌細胞と免疫
- 第5回 遺伝情報とタンパク質の合成 ※真核生物のエピジェネティクス
- 第6回 遺伝現象 ※メンデル遺伝 ハーディワインベルグ 中立遺伝 特殊な遺伝 トピック★キリンの首はなぜ長い
- 第7回 体内環境 ※骨と筋肉
- 第8回 体内環境 ※肝臓と腎臓
- 第9回 体内環境 ※ホルモン 血糖値調節
トピック★糖尿病
- 第10回 免疫 ※白血球とリンパ球 細胞膜と受容体
トピック★コロナウイルス
- 第11回 エネルギーと代謝 ※呼吸基質 酵素の働き
- 第12回 内分泌系と自律神経
- 第13回 刺激の受容と反応
- 第14回 動物の行動
トピック★鳥たちの会話
- 第15回 振り返りとまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	講義内で振り返りのための演習時間（講義内容によって不定期になる）を取り、それを基に科目試験を実施する。授業への取組（演習問題の解答発表等）を 20%として評価に入れる。 正当な理由がない無断の欠席・遅刻・早退については、評価の合計点数より減点する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生物学を学ぶ上において講義後の復習が重要となります。用語チェックのためのプリントなど講義中に配布／使用したプリントの復習をしてください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：『カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書』全3冊
著者名：D・サダヴァ（著），石崎 泰樹（監修，翻訳），中村 千春（監修，翻訳），小松 佳代子（翻訳）
出版社：ブルーバックス

■ 留意事項

色鉛筆（12色）を必ず持参すること
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	医療英語						
担当者	近藤 未奈						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、また、専門用語の単語の成り立ちを学ぶ。また、英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習し、ある程度の長さの英文や、英語論文の抄録を読む演習も適宜行い、理学療法士・作業療法士として必要不可欠な国際的な学術論文を科学的に理解する土台を養う。

■ 到達目標

医療英語に特有の語彙や表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意
医学英語の基本構造
- 第2回 接尾辞と接頭辞
- 第3回 英語文献を読むための必須文法項目（1）
- 第4回 身体部位の用語
- 第5回 骨の用語
- 第6回 英語文献を読むための必須文法項目（2）
- 第7回 筋肉の用語
- 第8回 神経の用語
- 第9回 英語文献を読むための必須文法項目（3）
- 第10回 英文読解（1） 症例を読む その1
- 第11回 英語論文の基礎知識（1） 論文・抄録の構造と読み方
- 第12回 英文読解（2） 論文の抄録（アブストラクト）を読む
- 第13回 英語論文の基礎知識（2） 英語データベースの利用方法
- 第14回 英文読解（3） カルテを読む
- 第15回 英文読解（4） 症例を読む その2

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	40	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	10	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	受講態度（演習問題の解答発表・その他授業に臨む態度）を 30% として評価します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

小テストは指定の教科書より出題します。出題内容や実施スケジュールなど、詳細については初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。

配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席してください。毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。英文読解の予習課題が出た場合は辞書や用語集でわからない語句の意味をあらかじめ調べ、適切な和訳を作成してくること。

■ 教科書

書 名：音声と例文でおぼえる基本医療単語1000

著者名：笹島茂, Chad Godfrey, 小島さつき

出版社：南雲堂

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	文学						
担当者	小林 信						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

日本の近現代の文学史を振り返りながら、明治期、大正期、昭和期（戦前・戦後）の代表的作家の作品を読み、その批判的精神を理解する。

■ 到達目標

日本の近現代の文学の代表的作家の作品を読むことを通して、その作家の生き方や人となり、批判的精神を理解し、今後の学生生活ならびに社会生活のなかで必要とされる「自立して生きる力」を養うことをめざす。

■ 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス（授業計画・形態の説明）
自己紹介（興味・関心のある作家、作品、分野など）調べ、発表したい作家を選び記述・発表。
- 第2回 日本の近現代文学史概説（文学思潮、作家、作品など）
- 第3回 （ex）石川啄木の文学について
時代背景や作品を通して作家像を解説
- 第4回 石川啄木の作品を読む「一握の砂，呼子と口笛，時代閉塞の現状」
（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論（意見の発表）
- 第5回 （1）森鷗外の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第6回 森鷗外の作品を読む「礼儀小言，当流比較言語学，遺言」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論。
- 第7回 （2）夏目漱石の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第8回 夏目漱石の作品を読む「現代日本の開化，イズムの功過，私の個人主義」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第9回 （3）芥川龍之介の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第10回 芥川龍之介の作品を読む「文芸的な、あまりに文芸的な、或旧友へ送る手記，或阿呆の一生，点鬼簿」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第11回 （4）永井荷風の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第12回 永井荷風の作品を読む「浮世絵の鑑賞，新婦朝者日記，断腸亭日乗」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第13回 （5）坂口安吾の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第14回 坂口安吾の作品を読む「墮落論，続墮落論，日本文化私観」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第15回 授業のまとめ（反省、課題、調べてみたい作家など）
各自の発表以外の作家1名についての感想（800字以内）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業に関係する作家の作品（事前に配布）を読んで授業に臨むこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

資料文等を精読してくること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	教育学						
担当者	川村光						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

教育とはどのようなものか、教育を行う指導者に求められるものはなにか、指導者が学生に教育を行う学校とはどのようなものか、さらには、社会と教育の関係はどのようなになっているのかということに関する基礎的な内容を学びます。また、スピーチを行うことを通して、人に対する伝え方について実践的に学修します。

■ 到達目標

1. 教育の特徴、指導者に求められる力量、学校の機能について説明できる。
2. 授業で取り上げた内容について、自分の意見を主体的に述べることができる。

■ 授業計画

- 第1回 教育学の授業に関するオリエンテーション
 第2回 話すことと聞くこと①（伝える技術の学修）
 第3回 話すことと聞くこと②（伝える技術の学修のまとめ）
 第4回 教育することのカンファレンス
 第5回 教育とは何か①（人の事例をもとに検討 その1）
 第6回 教育とは何か②（人の事例をもとに検討 その2）
 第7回 教育とは何か③（ボノボの事例をもとに検討）
 第8回 教育とは何か④（まとめ）
 第9回 教える者の仕事の特徴
 第10回 教えているときの思考過程
 第11回 家庭教育①（良妻賢母の登場）
 第12回 家庭教育②（三歳児神話）
 第13回 学校教育①（隠れたカリキュラム）
 第14回 学校教育②（学校の機能）
 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	70	%	
その他・備考	小課題：3%×10回（合計 30%）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：人にわかりやすく伝える方法と、人の話に耳を傾けるための方法について考えておくこと。また、必要に応じてそれらを表現できるように準備しておくこと。

復習：人に対してわかりやすく伝えることができたのか、人の話に耳を傾けることができたのかということについて振り返りを行うこと。また、必要に応じて振り返りを報告できるように準備しておくこと。

■ 教 科 書

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	法学概論						
担当者	松崎秀明						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

「理学療法士及び作業療法士法」を中心として、関係の深い医療法、医師法、保健師助産師看護師法あるいは個人情報保護法、福祉法規等に関して、判例や具体的事例を解り易く説明します。さらに近年、関連の深い介護保険制度や地域包括システムにも言及します。法律または患者の立場から医療事故、医療過誤の実際例を知り、インフォームド・コンセント、安全な医療を提供する意義と必要性を学びます。

■ 到達目標

- ・法律の基礎知識を習得し、法的思考法を理解できるようになる。
- ・関係法規に関する国家試験を正答できるようになる。
- ・安全な医療を提供する意義と必要性を知り、医療事故を防止していく方向を見つけ出せるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 法規の概念
- 第2回 医事法規① 理学療法士及び作業療法士法
- 第3回 医事法規② 医療法、医師法、保健師助産師看護師法
- 第4回 保健衛生法規 精神保健福祉法、精神保健福祉センター
- 第5回 福祉関係法規① 身体障害者福祉法、障害者基本法、身体障害者障害程度等級表、障害者総合支援法
- 第6回 国際生活機能分類（ICF）概論、ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション
- 第7回 福祉関係法規② 児童福祉法、老人福祉法
- 第8回 高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）
- 第9回 福祉関係法規③ 介護保険法、介護保険制度（要介護認定）
- 第10回 地域包括ケアシステム、地域包括支援センター
- 第11回 個人情報保護法、患者情報の取り扱い
- 第12回 インフォームド・コンセント、クリニカルパス、患者対応・医療面接
- 第13回 労働関係法規（労働基準法）、産業衛生概論
- 第14回 医療事故概論（医療事故はなぜ起こるのか、医療事故防止のために）
- 第15回 医療過誤訴訟の事例分析、模擬裁判

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	80	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：－1点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：－5点）とする。小テスト・レポートについては、翌週の授業でフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

聞き慣れない法律用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。国家試験との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間（国家試験過去問題を解くことが中心）を確保することが望ましいです。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：医療事故－看護の法と倫理の視点から－
著者名：石井トク
出版社：医学書院

■ 留意事項

国家試験で出題数が増加傾向にある重要な科目である。グループ学習を中心に議論の場を多く持ちたいと考えておりますので、欠席しないように心がけてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	国際社会と日本						
担当者	白井 博雄						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

国際社会の構造と現状を理解し、現代国際社会が当面する戦争と平和の問題、途上国問題、人権問題、地球環境問題などの全人類的課題を学ぶ。その課題の中で占める、日本の位置と役割について考察を行なう。

■ 到達目標

国際社会の主要な展開についての基本的知識の修得とともに、多角的な思考の学びを通して、医療人として必要な高い国際感覚を養うことを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 国際社会の成立
- 第2回 国際社会の発展
- 第3回 国際社会と主要なアクター
- 第4回 20世紀の国際社会
- 第5回 今日の国際社会
- 第6回 国際社会と日本の政治
- 第7回 国際社会と日本の国際協力
- 第8回 国際社会と日本の経済
- 第9回 グローバル化とその背景
- 第10回 グローバル化の動向（人材・サービス）
- 第11回 グローバル化の動向（金融・情報）
- 第12回 国際社会と安全保障
- 第13回 国際社会と人権
- 第14回 地球環境問題
- 第15回 国際社会と日本の位置付け

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	40	%	
小テスト	◎	60	%	
その他・備考	小テストについては、翌週以降の授業にてフィードバックを行なう。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日常的に国際問題への関心を持ち、新聞、テレビ等から国際社会に関わる情報を得るように努めること。

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考図書

適宜紹介する。

■ 留意事項

積極的に、関連事項を調べるように心がけること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	自然科学概論						
担当者	三好由美						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

医療・リハビリテーションを学ぶ上においては自然科学の複合的な知見に基づく追究が必須となります。本講義では、人体の構造・機能・運動などの関係を紐解いていく上で必要となる自然科学分野の特に化学領域について高校化学の基礎的な事項を改めて学習する。

■ 到達目標

- ・生理学・運動学等の各専門分野を学ぶ上で必要な化学の基礎知識の整理と理解をする。
- ・科学的素養を身につけ、その根拠を説明できる能力を養う。

■ 授業計画

- 第1回 物質の探求（元素・単体・混合物・化合物）※混合物・純物質・化合物・単体・
- 第2回 物質の探求（熱運動と物質の三態）※熱運動・絶対温度・セルシウス温度・状態変化
- 第3回 物質の構成粒子（原子の構造）※原子・原子核・陽子・中性子・電子・原子番号・質量数・同位体・同素体
- 第4回 物質の構成粒子（電子配置と周期表）※ボーアの電子模型・電子配置・元素の周期性・典型元素・遷移元素
- 第5回 物質と化学結合（イオンとイオン結合）※電離・陽イオン・陰イオン・イオン式・クーロン力
- 第6回 物質と化学結合（金属と金属結合 / 分子と共有結合）※分子・共有結合・分子式・構造式・分子間力
- 第7回 物質と化学反応式（アボガドロ数と物質質量）
- 第8回 物質と化学反応式（モル濃度）
- 第9回 物質と化学反応式（化学反応式）
- 第10回 物質と化学反応式（化学反応式）
- 第11回 化学反応（酸と塩基と中和）
- 第12回 化学反応（酸と塩基と中和）
- 第13回 化学反応（酸化と還元）
- 第14回 化学反応（酸化と還元）
- 第15回 総合演習

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	講義内容に基づいた振り返りの小テスト（確認チェック）を随時行い、科目試験、受講態度と合わせ総合的に評価する。受講態度（演習問題の解答発表等）を10%として評価に入れる。 正当な理由がない無断の欠席・遅刻・早退については、評価の合計点数より減点する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義では演習を多く実施します。講義中に配布 / 使用したプリントの復習をしてください。

■ 教 科 書

書 名：使用しません。配布プリントを利用します。

■ 参 考 図 書

書 名：化学図録

出版社：数研出版

■ 留 意 事 項

色鉛筆（12色）を必ず持参すること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	福祉住環境論						
担当者	曾我部 千鶴美（実務経験者）						
実務経験者の概要	建築設計事務を長年経験し、同分野に対する深い見識をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

OT・PTの職能の一つとして、日常生活活動の支援や退院前訪問指導等が考えられます。環境因子である住環境を改善することで、対象者の生活機能の維持向上を図ることができます。本講義では、福祉住環境整備に関する制度や施策、関連する職能との連携及び住環境改善を行うための建築的基礎知識および生活行為別にみた福祉住環境整備のポイント等を学びます。

■ 到達目標

- ・福祉住環境整備に関する法制度や社会状況を理解する。
- ・高齢者や障害者の住み慣れた地域における暮らしの状況を理解する。
- ・建築図面を読む。
- ・病気や障害の特性を理解し、福祉住環境改善の方法を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境
- 第2回 介護保険制度の概要
- 第3回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
- 第4回 障害のとりえ方と自立支援のあり方
- 第5回 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備
- 第6回 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方
- 第7回 建築物の構造と留意点・体の大きさと寸法
- 第8回 建築図面を読む
- 第9回 福祉住環境整備の共通基本技術
- 第10回 生活行為別 福祉住環境整備・・・外出・屋内移動
- 第11回 生活行為別 福祉住環境整備・・・排泄
- 第12回 生活行為別 福祉住環境整備・・・入浴
- 第13回 生活行為別 福祉住環境整備・・・更衣、調理、就寝等
- 第14回 事例に基づく住環境整備課題
- 第15回 最終確認課題

■ 評価方法

最終課題	◎	60	%	
授業ごと確認プリント	◎	40	%	
小テスト				
その他・備考	毎授業後理解度を確認するプリント（資格試験でよく出る問題を中心とした内容）の提出（40％）、授業の内容を正しく理解できたかを確認する最終課題（60％）で判定する。 出席状況（無断欠席や遅刻はマイナス評価）の結果を総合的に評価する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

専門用語が多く出てくるので、授業前に教科書の該当ページを読んでおくことと講義後の出題率の高い試験問題を抽出した振り返りプリントで復習することが重要となります。
テキストは最新版を購入すること。

■ 教科書

書 名：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト（改定6版）
著者名：東京商工会議所
出版社：東京商工会議所

■ 参考図書

■ 留意事項

例年、授業初回までにテキストが購入できていない生徒が複数人います。選択授業のため冊数の確定が難しいとは思いますが、よろしくお願いいたします。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生命倫理						
担 当 者	豊泉俊大						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

「医の倫理」の思想的系譜を概観し、基本の考えを説明する。
「医の倫理」をめぐる諸問題を紹介し、論点および問題の諸相を確認する。

■ 到達目標

- ・現代にいたるまでの「医の倫理」の流れ、基本の考えを把握する。
- ・理学療法士、作業療法士の倫理綱領を把握する。
- ・「医の倫理」をめぐる諸問題について、その論点を把握する。
- ・医療における「自律」概念の重要性を把握したうえで、それを正確に理解する。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス／成績評価、講義一般について
第2回 研究の倫理：レポートの決まりごと／倫理の倫理：倫理はひとそれぞれ？
第3回 医の倫理小史 i ／「ヒポクラテスの誓い」から「リスボン宣言」まで
第4回 医の倫理小史 ii ／理学療法、作業療法のルーツ
第5回 インフォームドコンセントをめぐる倫理問題
第6回 小児医療・高齢者医療をめぐる倫理問題
第7回 終末期医療をめぐる倫理問題
第8回 「自律」に欠かせない「ケア」

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎		52%	
小テスト				
その他・備考	リアクションペーパー（毎講義）：48%（6点×8回）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義内容をきちんと理解するよう努めてください。分からないことがあれば、遠慮なくなんでも聞いてください。むしろ、講義内容をきちんと理解しなければ、レポート課題を作成することは不可能ですので、分からないことがあれば、どんな些細なことでも必ず聞いてください。予習、復習ともに、特別にしなければならないことはありませんが、レポート課題作成には、文献を読んで自分で自分自身で考えることが要求されます。講義内で関心をもった文献は図書館で借りるなどして、自らすすんで読むようにしてください。下記参考文献（少なくともどれか一冊）は、図書館で借りて講義受講前に読んでおくてください。

■ 教科書

なし

■ 参考図書

書 名：マンガで学ぶ生命倫理 わたしたちに課せられた「いのち」の宿題

著者名：児玉聡 マンガ：なつたか

出版社：化学同人

書 名：はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか

著者名：小林亜津子

出版社：ちくまプリマー新書

書 名：いのちを”つくって”もいいですか？ 生命科学のジレンマを考える哲学講義”

著者名：島蘭進

出版社：NHK 出版

■ 留意事項

毎講義で課すりアクションペーパーが成績評価において大きな割合を占めますので、講義に出席して、リアクションペーパーを提出しさえすれば、単位取得にそれほど困難はないはずですが、レポート課題は厳しく採点します。レポート課題は講義を聞いていないと作成できないようになっていますので、講義は真面目に参加してください。私語、スマホいじり、内職は禁止です（減点）。レポート課題について、第二回講義で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ						
担当者	春海 淳子（実務経験者）						
実務経験者の概要	臨床心理士として、心理査定業務行っており、実務経験（心理査定業務等）を活かした授業を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

現状の自分の傾向を把握する。その上で、コミュニケーションの基本について体験しながら学ぶ

■ 到達目標

現状の自分を知り理解する。そして、リハビリテーションの現場でコミュニケーションをとるためのスキルについて理解し、身に着ける努力をする。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・人間のこころとは？
- 第2回 自分自身について知ってみよう
- 第3回 コミュニケーションとは？
- 第4回 言語コミュニケーション
- 第5回 非言語コミュニケーション
- 第6回 対人認知と対人魅力
- 第7回 自己呈示、集団の力
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	84	%	
レポート	◎	16	%	
小テスト				
その他・備考	各講義終了時に授業についての疑問点や感想を書く、レスポンスシートをレポートとします。・・・16%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

コミュニケーションは日々の積み重ねです。一日の内、挨拶をする際の自分や、相手に声をかける自分を意識し、明るく元気に心を掛けてみましょう。それらがこの講義の復習になります。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド
 著者名：山口 美和
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論
 著者名：内山 靖・藤井 浩美・立石 雅子 編
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

演習は積極的に行う事。臨床では、対象の方を選ぶことはできないので、自身が苦手とするタイプの人とでも明るくコミュニケーションができるようになる練習として、演習に取り組みましょう。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ						
担当者	春海 淳子（実務経験者）						
実務経験者の概要	臨床心理士として、心理査定業務行っており、実務経験（心理査定業務等）を活かした授業を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

対象者の深い気持ちや希望を正しく受け止めるために、「傾聴」の意味と作用を演習で学ぶ。また、現在の自分の表現の仕方を振り返り、相手に伝わる伝え方について演習を通して考える。様々なリハビリテーション場面における1対1の人間関係と、コミュニケーションの基本姿勢を学ぶ。

■ 到達目標

「傾聴」のためのスキルを知る。
相手に声が届くように、声をかけることができるようになる。

■ 授業計画

第1回 コミュニケーション・リハビリテーションⅠの振り返り
第2回 伝える力① 対象別の伝え方、説得的コミュニケーション
第3回 伝える力② アサーション
第4回 みる力
第5回 きく力① 傾聴とは
第6回 きく力② 何をきくのか？
第7回 きく力③ さまざまな状況でのコミュニケーション
第8回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	84	%	
レポート	◎	16	%	
小テスト				
その他・備考	各講義終了時に授業についての疑問点や感想を書く、レスポンスシートをレポートとします。・・・16%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

コミュニケーションは日々の積み重ねです。一日の内、挨拶をする際の自分や、相手に声をかける自分を意識し、明るく元気に心を掛けてみましょう。それらがこの講義の復習になります。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド
著者名：山口 美和
出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論
著者名：内山 靖・藤井 浩美・立石 雅子 編
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

授業の最後に感想シートの配布・提出の時間があります。質問や感想を積極的に発信してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ						
担 当 者	大西環（実務経験者）・井上直哉（実務経験者）井口知也（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	大西環、井上直哉（言語聴覚士として病院などに勤務しコミュニケーション障害の患者を担当した） 井口知也（作業療法士として病院などで失語症を有する障害者に介入した） 上記、各担当者の経験をもとに授業を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

- ・失語症とはどのような言語障害であるかを理解し、コミュニケーションの取り方について学ぶ。
- ・講義のほか一部会話演習を行う。（感染状況等によって変更の可能性あり）

■ 到達目標

- ・失語症が他の言語障害とどのように異なるのか、概略を説明できるようになる。
- ・有効なコミュニケーション方法を知り、自ら工夫しコミュニケーションを図れるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 言語障害について 失語症とその他の言語障害との違い 失語症の定義 大西環（実務経験者）
- 第2回 失語症の特徴と症状 話す・聞く 大西環（実務経験者）
- 第3回 失語症の特徴と症状 読む・書く 大西環（実務経験者）
- 第4回 失語症のタイプ分類 大西環（実務経験者）
- 第5回 失語症検査の概要 大西環（実務経験者）
- 第6回 失語症の理解とコミュニケーションの工夫 大西環（実務経験者）
- 第7回 失語症の方とのコミュニケーション 大西環・井口知也（実務経験者）
- 第8回 まとめと試験対策 大西環（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・教科書を中心に進めます。失語症の単元を事前に読み、授業後は復習をしてください。
- 作業療法実践との関係が密接な科目であるので、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましい。
- 講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。 次回の授業までに指定された予習課題と範囲を 30 分程度予習しておき、授業で実施した内容を 30 分程度繰り返し、復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：絵でわかる言語障害
著者名：毛束真知子
出版社：学研メディカル秀潤社

■ 参考図書

書 名：笑顔のかたち 1
出版社：食とコミュニケーション出版会

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	医療コミュニケーション学（面接技法）						
担当者	島 雅人						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

これまで受講してきたコミュニケーションに関連する講義や演習をもとに、医療現場で用いるコミュニケーションスキルの基礎を身につけることを目的とします。特に、理学療法士が対象者様と信頼関係を構築するために必要な要素、対象者様の主訴や要望を理解し障害像を把握する要素について講義と演習を実施します。

■ 到達目標

1. 医療現場におけるコミュニケーションスキルの重要性が理解できる。
2. 患者様に受け入れられるためのコミュニケーションスキルを知り、模擬患者で実践できる
3. 患者様の障害像を把握するために必要なコミュニケーションスキルを知り、模擬患者で実践できる

■ 授業計画

- 第1回 コミュニケーションスキルと患者満足度
 第2回 患者様に選ばれるために必要なコミュニケーションスキルとは
 第3回 コミュニケーションスキルの実際：導入、共感的コミュニケーション
 第4回 コミュニケーションスキルの実際：傾聴と情報収集
 第5回 コミュニケーションスキルの実際：説明する
 第6回 コミュニケーションスキルの実際：理学療法に必要な情報の収集
 第7回 模擬症例を用いたコミュニケーションの演習
 第8回 医療コミュニケーションスキルの確認（OSCE）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	評価方法：医療面接技術の確認８０％、振り返り課題（レポート）２０％ 医療面接技術の確認については、その場でフィードバックを行う 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする（遅刻 -5, 欠席 -10）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

コミュニケーションスキルは、講義を聞くだけでは身につけることができません。講義内容を理解し、講義内で実施する演習にしっかりと取り組むとともに、授業時間外においても繰り返し練習する事が必要です。毎回講義で学んだ事や実施したことは、復習・実技の練習を少なくとも30分程度実施してください。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

医療におけるコミュニケーションは、友人同士のコミュニケーションあるいは一般社会におけるコミュニケーションよりも高度な技法が求められます。まずは、コミュニケーションに関連するこれまでの講義を見直し、基本的なコミュニケーションスキルを理解しておいてください。また、実習そして医療・介護・福祉の現場に就職した際も、常にコミュニケーションスキルを高め続けなければなりません。そのための基礎的な知識と技術を学びますので、確実に身につけられるよう実技練習を含めた学修を実施してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	国語表現学（レポート作成法）						
担当者	岡崎 昌宏						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	PT 必修 / OT 選択		

■ 授業目的・内容

レポートの作成など、大学では、自身の考えを練り、それを正確に、過不足なく表現する能力が一層求められる。そしてそれは、社会の様々な場面でも必要となる能力である。この授業では、正確な表現のために必要な知識や技術を習得するとともに、レポートの作成方法を実践的に学ぶ。また、優れた文章を読み、表現技術への意識を高める。

■ 到達目標

自身の考えを整理し、それをレポートなどの形で正確に表現できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 概説—正確な表現の重要性
- 第2回 文章を書くための知識（1）—表記など
- 第3回 文章を書くための知識（2）—原稿用紙の使い方、段落など
- 第4回 正確な文章のために（1）—説明不足の文をなくす
- 第5回 正確な文章のために（2）—過度な説明、重複説明をなくす
- 第6回 正確な文章のために（3）—長くなってしまった文を、短くする
- 第7回 正確な文章のために（4）—句読点への意識を高める、語彙力を高める
- 第8回 論文・レポートの文章を読み、その表現の特徴を学ぶ
- 第9回 レポートを書く（1）—様々な事実を集める
- 第10回 レポートを書く（2）—意見の方向を定める
- 第11回 レポートを書く（3）—自説の明確な根拠を考える
- 第12回 レポートを書く（4）—基本的な展開方法を知る
- 第13回 レポートを書く（5）—レポートを書き、推敲する
- 第14回 様々な文章に接し、表現への意識を高める
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
ノート				
その他・備考	授業で毎回提示する課題の提出にて評価する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

前回までの内容をよく復習したうえで授業にのぞむこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	心理学						
担 当 者	鈴木暁子（実務経験者）						
実務経験者の概要	大学病院や精神科病院で臨床心理士としての勤務経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。リハビリテーションの専門職として必要な心理学の基礎知識および人間関係学や教育心理学の知見も紹介する。

■ 到達目標

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 心理学の考え方①
- 第2回 心理学の考え方②
- 第3回 ト라우マについて
- 第4回 人と音楽①
- 第5回 人と音楽②
- 第6回 人の性格①
- 第7回 人の性格②
- 第8回 学習①
- 第9回 学習②
- 第10回 記憶と知能
- 第11回 動機づけ①
- 第12回 動機づけ②
- 第13回 動機づけ③
- 第14回 臨床に活かすコーチング①
- 第15回 臨床に活かすコーチング②

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

教科書に載っている内容は、講義の後に読んで復習し、理解を深めてください。

■ 教科書

書 名：はじめて出会う心理学 [第3版]
 著者名：長谷川寿一 他
 出版社：有斐閣アルマ

■ 参考図書

■ 留意事項

教科書は2020年に改訂されましたので、ネットなどで旧版を購入しないよう注意してください。私語した者は即、退室とします。配布資料が多いので整理の仕方を工夫してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	言語学						
担当者	松井理直						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

言語的コミュニケーションとは何か、意思疎通の誤解がどのように発生するのかという問題に対して、科学的に考えることが授業の目的である。また、言語聴覚士（ST）とのチーム医療を行う上で、ST の仕事に必要な不可欠な言語学に関する基礎知識の涵養を目指す。なお、高校レベルの数学に関する知識は必須である。

■ 到達目標

意味論・論理学・数学の観点から言語的コミュニケーションの基本的な知識を身につけると共に、日常的な言語現象およびコミュニケーションに対する基本的な分析ができるようになることが目標である。

■ 授業計画

- 第1回 授業の導入
- 第2回 言語学の基礎
- 第3回 記号としての言語
- 第4回 論理学の数学的基礎
- 第5回 記号論理学の真理値について
- 第6回 論理演算子：連言と選言
- 第7回 論理演算子：含意と条件表現
- 第8回 可能世界意味論
- 第9回 信号検出理論
- 第10回 偽陽性問題
- 第11回 2種類の錯誤と誤解のメカニズム
- 第12回 言語学と統計学
- 第13回 世界の状況と帰無仮説の立て方
- 第14回 確率論から見たコミュニケーションエラー
- 第15回 授業のまとめと理解度の確認レポート

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎		60%	
小テスト	◎		40%	
その他・備考	「読解力」を身につけるための授業では「ない」ことに注意せよ。 高校で学んだ「情報」および「数学」の内容を理解しておくことが必須である。 また、国語・数学の苦手な学生には極めて難しい内容の授業である点にも留意すること。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業ごとに1週間でおよそ2時間程度の予習が必要である。復習については授業中の理解度によって変わってくるが、おおよそ90分程度の時間が必要になるであろう。国語および数学に関する理解能力が必要であり、必修ではなく「選択」授業でもあるので、単位取得が楽ではないことにも十分留意した上で、真剣に勉強したい人だけ授業を取るようにすること。なお、最初の授業時にシラバスについて理解していることを確認するので、必ずシラバスを読んてくること。

■ 教科書

書 名：授業中にプリントを配布する。

■ 参考図書

書 名：言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」第2版

著者名：今泉敏（編）

出版社：医学書院

■ 留意事項

備考にも書いてあるとおり、高校で学んだ「情報」と「数学」の内容を理解していることが必須である。また、国語および数学の苦手な学生には極めて難しい内容の授業である点もよく理解しておくこと。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	英語コミュニケーション（英会話初級）						
担当者	近藤 未奈						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

この授業では、語彙、リスニング、会話、文法の各技能の演習をバランス良く行い、医療実務に役立つ総合的な英語力の養成をはかる。基礎的な英語文法の確認をしつつ医療関連の語彙を増やし、ロールプレイ方式での会話練習を行うことにより、患者や利用者との良好な人間関係を築けるコミュニケーション能力を涵養し、実際の現場で英語を使うことのできる能力の習得を目指す。

■ 到達目標

医療専門分野に関係した基礎的な英語表現に慣れ、現場で実際に英語が必要とされた時に適切な対応ができる英語運用能力を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意
イントロダクション：医療現場で英語を使えることの意義 / 医療の英語はどのようなものかを知る
May I help You? (1)：初診受付の流れを学ぶ①
- 第2回 May I Help You? (2)：初診受付の流れを学ぶ①
- 第3回 Where Do You Live?：初診受付の流れを学ぶ②
- 第4回 Do you Have and Insurance Card?：初診受付の流れを学ぶ③
- 第5回 What Department Do You Want to Visit?：患者を案内する
- 第6回 What Are Your Symptoms?：患者の症状を聞く
- 第7回 Take One Tablet Three Times a Day：薬の処方について学ぶ
- 第8回 You're Suffering from Hay Fever：診察の流れを学ぶ
- 第9回 What Kind of Pain Is It?：外科診療の流れを学ぶ
- 第10回 Let's Check Your Daily Activities：問診の流れを学ぶ
- 第11回 Let's Check Your Pulse and Blood Pressure：診療前の計測をおこなう
- 第12回 It's Going to Be a Long Day!：患者に検査をすすめる
- 第13回 You Have High Blood Sugar Levels：検査結果を説明する
- 第14回 You Need to Control Your Diet：患者に入院をすすめる
- 第15回 Keep on Walking for Exercise：退院後のアドバイスをこなう

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	40	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	受講態度（演習問題の解答発表・ロールプレイ練習への取り組み・その他授業に臨む態度）を40%として評価します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

小テストは指定の教科書より出題します。出題内容や実施スケジュールなど、詳細については初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。辞書アプリの利用を希望する場合にはルールを設けるので、初回授業で説明を受けてください。

配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席してください。

■ 教科書

書 名：Check-Up!: Basic English for Nursing（基礎から学ぶやさしい看護英語）

著者名：樋口晶彦 / John Tremarco

出版社：金星堂

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	基礎ゼミナール						
担 当 者	専任教員・他					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

講義とグループ活動を通して、自身の療法士としての将来像を具体化し、求められる態度、コミュニケーション技能、対象者の理解、リスク管理の概要、プレゼンテーション方法、学習への態度と学習方法などについて、学ぶ。

さらに、療法士としてのアイデンティティを形成し、今後に向けた動機づけを高める。

■ 到達目標

1. 自分の将来像をイメージし、早期に大学生としての学習方法や学習に対する構えを作ることが出来る。
 2. 療法士として求められる態度・知識・技能を知り、一歩でも近づくための方向づけを行うことが出来る。
 3. 他者の意見を理解する能力、自分の考えを整理して表現する能力、情報を採取し整理する能力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを習得する。
- ①授業をしっかり聞いてノートが取れる
 ②時間内で学んだことを図やテーマでまとめることが出来る
 ③ディスカッションをして集団で考えをまとめることが出来る

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（基礎ゼミについて、大学生活に関わる内容について、など）
 第2回 ソーシャルネットサービスの利用時のマナーと防犯について学ぼう
 第3回 現代社会と基礎経済を学ぼう
 第4回 先輩セラピストの話を聞いてみよう
 第5回 ハラスメントについて学ぼう
 第6回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講習会）①
 第7回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講習会）②
 第8回 療法士としてのリスク管理について学ぼう（一次救急救命法、AED の使用方法）
 第9回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
 第10回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
 第11回 関連するテーマについて調べる方法
 第12回 図書館貸し出し体験 テーマについて調べる
 第13回 貸出本の要約作成 調べた結果を GW で成果物として発表
 第14回 興味のあるテーマについて調べてまとめる 1
 第15回 興味のあるテーマについてまとめたものを発表する 1（ディスカッション、まとめ）
 第16回 興味のあるテーマについて調べてまとめる 2
 第17回 興味のあるテーマについてまとめたものを発表する 2（ディスカッション、まとめ）
 第18回 障害のある当事者の話 1
 第19回 障害のある当事者の話 1（ディスカッション、まとめ）
 第20回 障害のある当事者の話 2
 第21回 障害のある当事者の話 2（ディスカッション、まとめ）
 第22回 障害のある当事者の話 3
 第23回 障害のある当事者の話 3（ディスカッション、まとめ）
 第24回 障害のある当事者の話 4
 第25回 障害のある当事者の話 4（ディスカッション、まとめ）

- 第26回 人権研修
 第27回 人権研修（ディスカッション、まとめ）
 第28回 国家試験問題を解いてみよう
 効果的な学習方法について
 第29回 国家試験問題を解いてみよう
 ディプロマポリシーの確認、目指すセラピスト像と今後の取り組み 1
 第30回 ディプロマポリシーの確認、目指すセラピスト像と今後の取り組み 2

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	ノートの内容、整理された図やテーマの内容、ディスカッションへの参加態度などを講義毎に採点し、その積み重ねを最終評価とする。 正当な理由のない欠席に関しては、その日の評価は－3点とする。 また、基礎ゼミナールの資料集や、講義に必要な資料は持参すること。不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料の準備不足など）は減点対象である。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「次回講義までの課題」が提示された場合には、取り組んで授業に臨むこと。
 また、次回の授業までに30分程度予習した上で、講義やディスカッションに参加すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

積極的に参加し、取り組みましょう。多くの外部講師も関わるため、講師の都合により日程変更、講義順番を変更する可能性があります。

授業に欠席した場合は、その日の評価は－3点となります。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	チーム医療論（多職種連携の理解を含む）						
担 当 者	PO 専任教員・他（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護支援専門員として各領域でチーム医療の実践経験があり、これらを活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

現在の臨床現場では「チーム医療」が求められている。医療専門職である自身の役割やチームでの連携の意義について事例などを通して紹介する。

また、看護専門学校の学生を交え、専門職連携教育（IPE）を実施する。IPE では、患者様に対して良質な医療を提供するために、多職種の専門職の学生がともに学び、自身の職業の専門性を活かして互いに連携し、尊重し合い、理解を深めることを目的にグループワークを行う。

■ 到達目標

- ・医療、介護、福祉の領域におけるチーム医療を理解する。
- ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師のチームにおける役割・業務などについて理解する。

■ 授業計画

- 第1回 総論：チーム医療について
- 第2回 作業療法の専門性，医療機関におけるチーム実践の実際、国際活動を切り口としたチーム実践の実際
- 第3回 言語聴覚療法の基礎とチームでの役割
- 第4回 看護師の立場からのチーム医療
- 第5回 チーム医療実践具体事例1：医療安全・感染制御
- 第6回 チーム医療実践具体事例2：緩和ケア
- 第7回 チーム医療実践具体事例3：糖尿病チーム
- 第8回 チーム医療実践具体事例4：急性期
- 第9回 チーム医療実践具体事例5：回復期
- 第10回 チーム医療実践具体事例6：維持期
- 第11回 チーム医療実践具体事例7：介護領域
- 第12回 専門職連携教育（IPE）演習の実施① 事例検討，職能間でのディスカッション
- 第13回 専門職連携教育（IPE）演習の実施② 職能間でのディスカッション，プレゼンテーションの準備
- 第14回 専門職連携教育（IPE）演習の実施③ プレゼンテーション，質疑応答
- 第15回 専門職連携教育（IPE）演習の実施④ 振り返り，まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	正当な理由の無い欠席（-4 点）、遅刻（-2 点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）やディスカッションでの消極的な姿勢に関しては減点（-2 点）対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学修した内容をしっかりと定着させて実習や国家試験で使える知識とするために、授業で実施した内容を30分程度復習すること。

提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	障がい者スポーツ入門						
担 当 者	島 雅人（実務経験者）、相原一貴（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	島 雅人：日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポートスタッフおよび日本スポーツ振興財団ハイパフォーマンスサポート事業の外部委託員としての実務経験がある。また、中級パラスポーツ指導員資格を有するとともに、スペシャルオリンピックス日本のトレーナー資格、コーチ資格を有し、競技指導の実務経験を有している。 相原一貴：理学療法士として病院やデイサービス等での勤務経験あり。スペシャルオリンピックス日本のサッカープログラムのコーチ資格を有している。また、様々な障がい者スポーツに関する実務経験を有している。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	自由		

■ 授業目的・内容

本講義を履修することで、地域の障がい者で初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける事を目的としています。

障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて講義するとともに、障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学びます。また、障がいに応じたスポーツの工夫や、障がい当事者との交流をはかり、障がい者スポーツ指導者としての導入を図ります。

■ 到達目標

1. 障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて概説できる。
2. 障がい者スポーツの意義と理念を理解できる。
3. 身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解できる。
4. 日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について説明できる。
5. 障がい当事者と交流をはかり、楽しさを重視したスポーツの導入を支援できる。

■ 授業計画

- 第1回 障がい者スポーツの意義と理念
- 第2回 全国障害者スポーツ大会の概要
- 第3回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義
- 第4回 障がい者スポーツに関する諸施策
- 第5回 全国障害者スポーツ大会選手団編成とスタッフの役割
- 第6回 スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質
- 第7回 スポーツの意義と価値
- 第8回 スポーツの意義と価値
- 第9回 障がい各論 各障がいに対する専門的（医学的）な知識の学習 視覚障がい
- 第10回 障がい者のスポーツ指導における留意点
- 第11回 障がい者のスポーツ指導における留意点
- 第12回 障がい者のスポーツ指導における留意点
- 第13回 最重度の障がい者のスポーツの実際
（重症心身障がい児・者を含む）
- 第14回 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫
- 第15回 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	50	%	
小テスト				
その他・備考	課題提出 50%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書 名：障がいのある人のスポーツ指導教本

著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会

出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

■ 留意事項

本科目は、初級・中級パラスポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	障がい者スポーツ指導論						
担 当 者	島 雅人（実務経験者）、相原一貴（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	島 雅人：日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポートスタッフおよび日本スポーツ振興財団ハイパフォーマンスサポート事業の外部委託員としての実務経験がある。また、中級パラスポーツ指導員資格を有するとともに、スペシャルオリンピックス日本のトレーナー資格、コーチ資格を有し、競技指導の実務経験を有している。 相原一貴：理学療法士として病院やデイサービス等での勤務経験あり。スペシャルオリンピックス日本のサッカープログラムのコーチ資格を有している。また、様々な障がい者スポーツに関する実務経験を有している。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	自由		

■ 授業目的・内容

障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけ、地域における障がい者スポーツのリーダー的役割が担えるよう、知識と技術の修得を図る事を目的とします。

全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分、リスクマネジメント、救急処置法について講義します。また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技を行いながら学びます。さらに、パラスポーツ指導員としてのキャリア形成や地域におけるスポーツ振興について学びます。

■ 到達目標

1. 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を理解できる。
2. スポーツ指導におけるリスクマネジメントを理解し、救急処置法を身につける事ができる。
3. 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につけることができる。
4. パラスポーツ指導員としてのキャリア形成と地域におけるスポーツ振興について理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分
- 第2回 全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分
- 第3回 リスクマネジメント
- 第4回 救急処置法
- 第5回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則
- 第6回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則
- 第7回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則
- 第8回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則
- 第9回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則
- 第10回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則
- 第11回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則
- 第12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則
- 第13回 障がい者スポーツ指導員としてのキャリア形成
- 第14回 障がい者スポーツ指導員としてのキャリア形成
- 第15回 地域における障がい者スポーツ振興

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと（各回30分程度）。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身ができることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書 名：障がいのある人のスポーツ指導教本
著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会
出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

書 名：メディカルスタッフのための障がい者スポーツ
著者名：青木 隆明 編集
出版社：MEDICAL VIEW

■ 留意事項

本科目は、初級・中級パラスポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	スポーツ医学						
担 当 者	境 隆弘・他					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	自由		

■ 授業目的・内容

スポーツによる傷害、内科的疾患、トレーニングや栄養についての基礎を学び、
 色々な職種（医師、理学療法士、薬剤師、アスレチックトレーナー）がそれぞれの立場で
 スポーツ選手にどのように関わっているかを知る。

■ 到達目標

スポーツ医学の基礎的内容とスポーツ選手に関わる多職種の役割を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 スポーツ傷害総論：境 隆弘
 第2回 スポーツと栄養：非常勤講師（管理栄養士）
 第3回 ドーピング：非常勤講師（薬剤師：スポーツ・ファーマシスト）
 第4回 スポーツ現場におけるサポート①：術後リハ～アスレチックリハビリテーション 非常勤講師
 第5回 スポーツ現場におけるサポート②：国際大会帯同医師の仕事 非常勤講師
 第6回 スポーツ現場におけるサポート③：国際大会帯同理学療法士の仕事 非常勤講師
 第7回 スポーツ現場におけるサポート④：プロ・チーム帯同理学療法士の仕事 非常勤講師
 第8回 スポーツ現場におけるサポート⑤：NATA 認定トレーナーの仕事 非常勤講師

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	講義内に作成する講義レポートで成績を評価する			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- （予習）
 自分の将来活躍したいスポーツ現場に、どれくらいの医療スタッフがかかわっているのかを調べること。
 （復習）
 本授業で学んだ結果、今後どのようなスポーツに関連する知識・技術が必要かを明確にすること。

■ 教科書

書 名：教科書指定なし（配布資料で講義を行う）

■ 参考図書

書 名：やさしいスチューデントトレーナーシリーズ4 新・スポーツ医学
 著者名：メディカル・フィットネス協会（監修）
 出版社：嵯峨野書院

■ 留意事項

講義内容・日程は外部講師の都合により前後したり変更する可能性があります。

Moodle を適宜確認すること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	リハビリテーション概論（地域包括ケアシステムの理解含む）						
担 当 者	井上悟（実務経験者）・島 雅人（実務経験者）・柳 千磨（実務経験者）・石倉隆（実務経験者）松井 理直						（オムニバス）
実務経験者の概要	井上悟・島雅人・柳千磨：病院や介護老人保健施設等にて実務を経験している。 石倉隆：病院等での実務を経験している。 各担当者は、それぞれの領域の実務経験を活かした授業を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

リハビリテーションという言葉は、一般社会でも非常によく使われるようになった。しかし、その解釈は、疾病や外傷によって生じた障害に対する機能回復のための治療や訓練として捉えられている場合が多く、社会復帰を踏まえた上で理解をしている者は多くない。理学療法士・作業療法士を目指し、これから医学や医療を学んでいく学生に対して入門的な位置づけとして本講義を展開する。

■ 到達目標

リハビリテーション（rehabilitation）を適切に理解する。リハビリテーションの概要や対象、職能や職域について知る。

■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションとは
- 第2回 リハビリテーションとはの理念・定義
- 第3回 医療・保健・福祉とリハビリテーション
- 第4回 健康・疾病・障害の概念と分類
- 第5回 疾患と障害の関係 ―国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）
- 第6回 リハビリテーションの過程（機能障害の評価、能力低下の評価）
- 第7回 理学療法と作業療法
- 第8回 介護予防
- 第9回 地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム
- 第10回 廃用症候群
- 第11回 言語と聴覚障害について
- 第12回 パラスポーツ推進の取り組み
- 第13回 疾患別リハビリテーション1（内部障害）
- 第14回 疾患別リハビリテーション2（運動器疾患）
- 第15回 疾患別リハビリテーション3（脳血管疾患）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）や態度、課題の未提出に関しては減点（-2点）対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学修した内容をしっかりと定着させて実習や国家試験で使える知識とするために、次回の授業までに次の範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度復習すること。
提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教科書

書 名：医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版著者名
編著名：田島 文博 編著
出版社：永井書店

■ 参考図書

書 名：リハビリテーション総論
著者名：編著 椿原彰夫
出版社：診断と治療社

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	リハビリテーション医学						
担 当 者	非常勤講師					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

リハビリテーション医学の目的は、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断・治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することです。主なる対象となる疾患を紹介し、どのように目的を達成していくかを受講者とともに考えます。

■ 到達目標

リハビリテーション医学の基本的な知識を習得し、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことができ、リハビリテーション関連職種の専門家をを目指すための明確な動機付けができることを期待しています。

■ 授業計画

- 第1回 総論：病気の予後・予測を、外部環境（自然・病原体・薬物・食事・人等）と、内部環境（遺伝子・ホルモン・免疫・睡眠等）との関連から述べる。
- 第2回 在宅リハビリテーションの意義：まず、機能の喪失にならないように（フレイル・ロコモティブシンドローム等）、また、失った機能の回復について（脳梗塞等）、訪問リハビリテーション・施設リハビリテーション等の意義を述べる。
- 第3回 運動発達のみかた 脳性麻痺早期診断 脳性麻痺総論 障害児療育 痙縮治療
- 第4回 脳性麻痺児（り）ハビリテーションの特徴 脳卒中との比較（り）ハビリテーションのあり方と実際 二次障害
- 第5回 脳性麻痺重症児の障害 脳性麻痺の歯科治療 小児の姿勢・歩容異常（その他神経筋疾患を含む）装具療法 まとめ
- 第6回 診断、治療総論
- 第7回 外傷
- 第8回 大腿骨頸部骨折と骨粗鬆症
- 第9回 疾患各論（脊髄損傷含む）
- 第10回 変形性関節症
- 第11回 胸腔内臓器関連（循環器・呼吸器）①
- 第12回 胸腔内臓器関連（循環器・呼吸器）②
- 第13回 胸腔内臓器関連（循環器・呼吸器）③
- 第14回 脳卒中各論①（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第15回 脳卒中各論②（遠隔授業：オンデマンド配信）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由の無い欠席（-4 点）、遅刻（-2 点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2 点）対象とする。 遠隔授業（オンデマンド型）が行われた場合は課題を必ず提出すること。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学修した内容をしっかりと定着させて実習や国家試験で使える知識とするために、次回の授業までに次の範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度復習すること。
提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版

著者名：三上真弘（監修）、出江紳一・加賀谷斉（編）

出版社：南江堂

書 名：Crosslink リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学

著者名：上月正博、高橋仁美（編）

出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

私語や無断で席を離れるなど、講師および他の受講者の迷惑になる行為は、言うまでもなく厳禁です。多職種の協調が大事である医療・福祉・介護分野で働くための最低限の常識やマナーを身につけて講義に臨んで下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	介護概論						
担当者	綾部 貴子（実務経験者）						
実務経験者の概要	社会福祉士として福祉施設で勤務した経験を活かし講義を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

日本の介護の実態について様々な側面から学ぶとともにその課題についても考察する。
介護の実態を踏まえて、介護に関する主な法律について（介護保険法）学ぶ。

■ 到達目標

- ①日本が抱える介護の実態とその要因について学ぶことができる。
- ②介護に関する主な法律（介護保険法）について理解することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・日本の介護の実態①（少子高齢化・高齢者の世帯の動向）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第2回 日本の介護の実態②（家族介護者の現状）
- 第3回 日本の介護の実態③（終末期）
- 第4回 高齢者介護に関する法律①（介護保険法：目的・理念・サービス利用の流れ）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第5回 高齢者介護に関する法律②（介護保険法：サービスの内容）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第6回 日本の介護の実態⑤（認知症 1）認知症とは・認知症高齢者数の現状）
- 第7回 日本の介護の実態⑥（認知症 2）症状・ケアのあり方）
- 第8回 日本の介護の実態⑦（認知症 3）認知症高齢者を抱える家族介護者の現状）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護に関するニュースや記事について関心をもつようにしてください。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

教科書を使用せずに毎回テーマに沿って資料を配布します。A 4 ファイル等で資料を整理しておくようにしてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	感染症学						
担当者	藤岡 重和（実務経験者）						
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として各種感染症を含む診療業務に従事しており、この知見、経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

目的：リハビリテーション専門職として感染症対策の重要性を理解し、その基本的事項の実際を習得することを目的とする。基本的事項として、感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、代表的な感染症の臨床像、感染予防策を理解する。

内容： リハビリテーション領域において、感染症は特に注意が必要であり、各種感染症について基本的理解ができるよう概説する。感染症学の基礎として、感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、感染症の検査について解説する。次に、呼吸器感染症、消化器感染症、肝炎、尿路感染症などの各種感染症において、原因となる病原微生物、その感染経路、臨床像、検査と診断、治療、予後、感染予防策について学習する。

■ 到達目標

1. 微生物と感染症、感染防御機構について基本的理解ができる
2. 代表的な感染症について、病原微生物とその感染経路、臨床像、診断と治療法について説明できる
3. 感染予防対策、リハビリテーション業務における感染対策について説明できる

■ 授業計画

- | | | | |
|-----|-------|-----|----------------------------------|
| 第1回 | 感染症総論 | (1) | 微生物と感染症、 感染防御機構 |
| 第2回 | 感染症総論 | (2) | 感染症の検査と診断、 感染症の治療 |
| 第3回 | 感染症各論 | (1) | 呼吸器感染症、結核 |
| 第4回 | 感染症各論 | (2) | 消化器感染症、食中毒、肝炎 |
| 第5回 | 感染症各論 | (3) | 尿路感染症、性感染症、皮膚・粘膜の感染症、その他 |
| 第6回 | 感染症各論 | (4) | 人獣共通感染症、 寄生虫感染症、 新興感染症、 感染症トピックス |
| 第7回 | 感染制御学 | (1) | 院内感染、 薬剤耐性菌、 標準予防策、 感染経路別予防策 |
| 第8回 | 感染制御学 | (2) | リハビリテーション業務における感染対策、国家試験対策（問題演習） |

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎		90%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎		10%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください（30分程度）。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください（60分程度）。国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。 また、小テストについては、翌週の授業でフィードバックを行う。

■ 教科書

書 名：臨床微生物、医動物 （NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ちと回復の促進 3）
著者名：矢野久子、安田陽子
出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：病原体・感染・免疫 第2版
著者名：藤本秀士
出版社：南山堂

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	障害者福祉論（自立支援、就労支援を含む）						
担 当 者	綾部 貴子						
実務経験者の概要	社会福祉士として福祉施設で勤務した経験を活かし講義を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

現代社会における障害のある人の生活実態を踏まえつつ、そうした生活像にどのように制度・政策が関与し、どのような点において「生活のし辛さ」が発生してくるのかということを理解するとともに、「生活のしづらさ」を解消していくための福祉的支援の在り方、支援の理念について考え、学ぶ。

■ 到達目標

1. 障害者支援に関わる専門職として、障害者問題に対応できる基本的知識を涵養する。
2. 「障害」という概念について基本的な考えを理解し、説明できるようになる。
3. 障害特性に応じた日常生活の課題について分析できる力を身に付ける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・障害とは
- 第2回 障害者を取りまく現状①（住環境）
- 第3回 障害者を取りまく現状②（サービス利用）
- 第4回 障害者を取りまく現状③（心情や生活のしづらさ）
- 第5回 障害者を取りまく現状④（家族等の周囲の関係者）
- 第6回 障害者に関する法律①（障害者虐待防止法）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第7回 障害者に関する法律②（障害者総合支援法：目的・対象者・制度の利用の流れ）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第8回 障害者に関する法律③（障害者総合支援法：サービスの種類および内容）（遠隔授業：オンデマンド配信）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	日頃から障害者に関するニュースや記事について関心をもつようにしてください。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習については、講義時間内に指示する資料を読み、理解しておくことで講義受講時に必要な基礎的情報を得てから講義に臨むこととする。また、復習については講義での説明後に再度配布資料の再確認を行い自主的に学習することで学びを深めるようにする。

■ 教科書

書 名：特になし

■ 参考図書

■ 留意事項

教科書を使用せずに毎回テーマに沿って資料を配布します。A 4 ファイル等で資料を整理しておくようにすること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	老人福祉論						
担当者	綾部 貴子						
実務経験者の概要	社会福祉士として福祉施設で勤務した経験を活かし講義を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

現代日本の高齢者をとりまく現状と福祉課題を考察する。さらに、高齢者に関する虐待や孤立死等要因も探る。また、今後増えていく認知症高齢者についても理解する。
現状を踏まえて高齢者に関する主な法律（介護保険制度や高齢者虐待防止法）についても学ぶ。

■ 到達目標

- ①高齢者福祉の社会的背景として、高齢者自身の現状、高齢者をとりまく環境について理解することができる。
- ②高齢者に関する法律（介護保険制度や高齢者虐待防止法）について理解することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高齢者をとりまく現状①（高齢者人口）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第2回 高齢者をとりまく現状②（家族）
- 第3回 高齢者をとりまく現状③（経済面）
- 第4回 高齢者をとりまく現状④（地域とのつながり～孤立死等～）
- 第5回 高齢者をとりまく現状⑤認知症とは1）種類・症状
- 第6回 高齢者をとりまく現状⑥認知症とは2）認知症高齢者数・本人を支える家族介護者の現状
- 第7回 高齢者に関する法律②（介護保険法）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第8回 高齢者に関する法律①（高齢者虐待法）（遠隔授業：オンデマンド配信）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から高齢者に関するニュースや記事について関心をもつようにしてください。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

教科書を使用せずに毎回テーマに沿って資料を配布します。A 4 ファイル等で資料を整理しておくようにすること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	基礎解剖学						
担 当 者	柴田雅朗					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

授業目的：人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本的事項を系統的に学ぶ。
 授業内容：毎回、資料を配布して学習し、要所でそれらを理解するための関連事項を解説し、国家試験問題を解いてみる。

■ 到達目標

人体構造の基礎的知識を身につけ、運動器系や神経系の解剖学を学ぶための基礎を作ると同時に、専門科目を理解する際の礎とする。

■ 授業計画

- 第1回 <解剖学総論> 1. 細胞・組織・器官・系 2. 人体の正常・異常・個体差 3. 解剖学的姿勢 4. 基本的な解剖学用語 5. 組織（上皮組織、支持組織） 6. 三層性胚盤と器官・組織形成
- 第2回 <骨学・関節総論> 1. 骨の種類と構造 2. 軟骨 3. 骨の発生 4. 関節の種類と分類
- 第3回 <筋学総論> 1. 筋の種類と構造 2. 筋の形と名前 3. 筋の作用 4. 筋と関節 5. 骨格筋の神経と運動終板 6. 筋紡錘 7. 骨格筋の構造
- 第4回 <神経学総論> 1. 神経の分類 2. 神経細胞 3. 神経系の区分 4. 伝達方向とシナプス 5. 神経膠細胞 6. 脳の発生
- 第5回 <循環器系総論> 1. 動脈と静脈、動脈血と静脈血、毛細血管 2. 吻合と機能的終動脈 3. 伴行静脈と脈管の脈管 4. 血管の構造 <心臓1> 1. 位置と外形 2. 冠状動脈 3. 心臓に出入りする血管 4. 血液の流れ
- 第6回 <心臓2> 1. 弁 2. 心臓壁と心嚢 3. 刺激伝導系 4. 心臓の神経 <動脈系1> 1. 上行大動脈、大動脈弓と下行大動脈 2. 頸動脈小体と頸動脈洞 3. 外頸動脈の枝 4. 脈拍を触知できる動脈
- 第7回 <動脈系2> 1. 内頸動脈の枝 2. ウイリス動脈輪 3. 脳表面の動脈の分布 4. 脳梗塞と疾患 5. 鎖骨下動脈の枝
- 第8回 <動脈系3> 1. 腋窩動脈の枝 2. 肩甲動脈吻合 3. 上腕動脈の枝 4. 橈骨動脈と尺骨動脈 5. 胸動脈の枝 6. 腹大動脈の枝 7. 骨盤部の動脈（内腸骨動脈の枝）<動脈系4> 1. 総腸骨動脈の枝 2. 前腹壁の側副循環路 3. 大腿動脈の枝 4. 内転筋管と腓裂孔 5. 大腿骨頭の栄養動脈 6. 膝窩動脈の枝 7. 下腿の動脈 <静脈系1> 1. 頭頸部の静脈 2. 上肢の静脈
- 第9回 <静脈系1> 1. 頭頸部の静脈 2. 上肢の静脈 3. 下大静脈 4. 奇静脈系 5. 門脈系 6. 下肢の静脈と静脈瘤
- 第10回 <静脈系2> 1. 胎児循環 <リンパ管系> 2. リンパ本幹と胸管 3. リンパ節 4. 脾臓 5. 胸腺と重症筋無力症
- 第11回 <脳の血管系> 1. 脳に分布する動脈 2. 機能局在 3. 脳梗塞
- 第12回 総復習1
- 第13回 総復習2
- 第14回 <定期試験対策1>：国試形式による練習問題、解答と解説
- 第15回 <定期試験対策2>：国試形式による練習問題、解答と解説

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）		100		
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で学習した内容について、配布資料、教科書、ネッター解剖学アトラスを用いて、必ず復習を毎回行い、分からない内容がないようにする。分からないことは自分で調べ考えてみて（この行為が非常に重要）、解決がつかない場合は遠慮なく質問する。

予習は余裕があればするが、それよりも復習を必ずやって欲しい。

■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス 原書第6版

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

■ 留意事項

限られた時間で学習するため、教科書に記載してある重要項目を抽出した授業資料を配布しますので、授業では教科書を使用しませんが、自学自習に教科書を活用して下さい。なお、授業中に授業資料に書き込みやマーカー引きなどをして下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	基礎解剖学						
担 当 者	永瀬 佳孝（実務経験者）						
実務経験者の概要	精神病院歯科及び開業歯科における歯科医師としての実務経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造と機能の関係を系統的に学びます。さらに、そのような知識が臨床とどうつながるかについても学びます。

■ 到達目標

人体構造に関する基礎的な知識を覚えている。
臨床において解剖学や生理学の知識を使って考える基礎を作る。

■ 授業計画

- 第1回 基礎医学を学ぶ意味
人体の基礎
- 第2回 循環系（心臓）
- 第3回 循環系（血管系）
- 第4回 呼吸器系（気道）
- 第5回 呼吸器系（肺、その他）
- 第6回 消化器系（咽頭まで）
- 第7回 消化器系（小腸、大腸、肝臓、膵臓）
- 第8回 泌尿器系
- 第9回 内分泌系（視床下部下垂体系と成長ホルモン、プロラクチン）
- 第10回 内分泌系（甲状腺、副腎皮質）
- 第11回 内分泌系（性腺ホルモン）
- 第12回 内分泌系（副腎髄質、下垂体後葉）
- 第13回 内分泌系（その他）
- 第14回 感覚器系（視覚）
- 第15回 感覚器系（聴覚）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	
レポート	◎	40	%	
小テスト				
その他・備考	受講者本人自筆の授業ノート提出をもって出席とします。 欠席あるいは不十分なノート提出は、1 回につき 8 点減点します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1時間の授業に対して1時間の予習と1時間の復習が必要です。90分の授業は2時間として扱われます。従って、2時間の予習と2時間の復習をもって、すべての授業は構成されています。
基礎は簡単なことではなく、考え方の基本になることです。従って、様々な分野の本をたくさん読むのが、基礎解剖学の予習復習です。

■ 教 科 書

書 名：PT・OT・ST のための解剖学

著者名：渡辺 正仁

出版社：廣川書店

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	解剖学基礎演習						
担 当 者	岡 智大、中村 彩、文本 聖現					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

上下肢の骨・関節・筋、体幹の骨・関節・筋について、骨標本や体表解剖学などを通して学ぶ。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 全身骨格とその分類： 全身骨格・体軸性骨格・付属性骨格の分類、全身骨格の組み立て（担当：中村）
- 第2回 脊柱と体表解剖学①： 椎骨の基本、頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾椎の理解（担当：中村）
- 第3回 脊柱と体表解剖学②： 椎骨間の連結・環軸関節・頸椎・胸椎・腰椎の連結、靱帯の理解（担当：中村）
- 第4回 胸郭と体表解剖学： 胸骨・肋骨と肋軟骨の理解、胸郭の連結の理解（担当：中村）
- 第5回 上肢帯骨と体表解剖学： 肩甲骨と鎖骨の理解（担当：文本）
- 第6回 自由上肢と体表解剖学： 上腕骨・橈骨・尺骨・手指骨・手根骨の理解（担当：文本）
- 第7回 肩関節と肘関節： 肩関節・肘関節の構造、靱帯の理解（担当：文本）
- 第8回 肘関節の靱帯と手関節（担当：文本）
- 第9回 手関節の靱帯と手指： 手関節、手指の構造、靱帯の理解（担当：文本）
- 第10回 下肢帯骨と骨盤： 寛骨・腸骨・坐骨・恥骨の理解（担当：岡）
- 第11回 股関節と体表解剖学： 股関節の構造、靱帯の理解（担当：岡）
- 第12回 仙腸関節と体表解剖学： 仙腸関節の構造、靱帯の理解（担当：岡）
- 第13回 膝関節と体表解剖学： 膝関節の構造、靱帯の理解（担当：岡）
- 第14回 脛腓関節、足関節と体表解剖学： 脛腓関節・足関節の構造、靱帯の理解（担当：岡）
- 第15回 頭蓋骨：頭蓋骨を構成する骨とその連結、眼窩・鼻腔・副鼻腔・顎関節の理解（担当：中村）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第2Qに学修した、運動器系の解剖学の内容が大半を占めています。骨標本を使用し理解を深めるためにも、必ず運動器系の解剖の内容を振り返り講義に臨んでください。また、毎回講義内容の定着度を測るため、講義の冒頭に小テストに臨んでもらいます。しっかりと講義内容を復習し、次の講義に臨んでください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学【解剖学】

著者名：（編）野村 巖

出版社：医学書院

書 名：プロメテウス解剖学アトラス【解剖学総論運動器系】

著者名：（監訳）坂井 建雄，松村 譲児

出版社：医学書院

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	解剖学基礎演習						
担当者	渡部雄太						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

身体の骨の触診や関節運動の実技を実施し、人間の体の動き、筋の作用について理解する。また、体表解剖についても図表などで学ぶ。

■ 到達目標

1. 骨の触診ができる。
2. 体表解剖について理解することができる。
3. 関節の動きについて理解することができる。
4. 筋肉の作用について理解することができる。

■ 授業計画

- 第1回 肩関節と肘関節：関節構造と筋の総論
- 第2回 手関節と手根骨：関節構造と筋の総論
- 第3回 上肢（肩関節～手関節）の神経系
- 第4回 上肢の触診（肩関節と肘関節）
- 第5回 上肢の触診（手関節と手根骨）
- 第6回 上肢解剖の振り返り まとめ
- 第7回 骨盤：関節構造と筋の総論
- 第8回 股関節と膝関節：関節構造と筋の総論
- 第9回 足関節と足部：関節構造と筋の総論
- 第10回 下肢（骨盤～膝関節）の神経系
- 第11回 下肢（足関節と足部）の神経系
- 第12回 下肢の触診（骨盤～膝関節）
- 第13回 下肢の触診（足関節と足部）
- 第14回 下肢解剖の振り返り まとめ
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	50	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	50	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は -10 点、事前連絡のある遅刻・欠席は -3 点とする）。 また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回につき－5 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が必要となります。

作業療法との関係が密接な科目なため、単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められ

るので、授業前後に必ず予習・復習し、取り組んでください。

■ 教 科 書

書 名：解剖学（PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎）

著者名：町田志樹

出版社：羊土社

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動器系の解剖学						
担当者	田中 稔						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

身体部位の形態と構造を理解することにより、身体運動を理解するための基礎を学ぶ。

■ 到達目標

理学療法においては、加齢や寝たきり等による運動機能低下の予防、維持が主要目的となるが、骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は目的の達成のために極めて重要となる。講義内容では、細胞と組織、骨格系、関節靭帯系、筋系の形態を機能と関連付けすることで理解を深めていく。また、組織学的な知見を示すことで、解剖学分野の科学的な関心へとつなげていく。

■ 授業計画

- 第1回 解剖学総論：人体の大要・構成 田中 稔
- 第2回 骨学各論：上肢の骨 田中 稔
- 第3回 上肢の関節と靭帯 田中 稔
- 第4回 筋学各論：上肢帯、上腕の筋 田中 稔
- 第5回 筋学各論：前腕、手の筋 田中 稔
- 第6回 骨学各論：下肢の骨 田中 稔
- 第7回 下肢の関節と靭帯 田中 稔
- 第8回 筋学各論：下肢帯の筋 田中 稔
- 第9回 筋学各論：大腿の筋 田中 稔
- 第10回 筋学各論：下腿、足の筋 田中 稔
- 第11回 骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭 田中 稔
- 第12回 頭頸部、体幹の関節と靭帯 田中 稔
- 第13回 筋学各論：頭頸部の筋 田中 稔
- 第14回 筋学各論：胸腹部の筋 田中 稔
- 第15回 筋学各論：背部の筋 田中 稔

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	小テストは講義開始前の 15 分で実施し、解説は各テスト終了後に行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

初めて触れる専門用語が多く、さらに、すべての内容は、身体運動を理解する上で必要な基礎知識になります。そのため、知識の積み重ねが重要であり、授業開始時に知識の確認テストを実施します。知識を積み重ねるため、事前に前回授業の復習をしておいてください（1時間程度）。また、講義内容を暗記するのではなく、より深く理解するために講義前には30分程度の予習をしておいてください。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学

著者名：編集：野村 巖

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学 第6版 補訂

著者名：中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動器系の解剖学						
担 当 者	寺村晃・渡部雄太						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は、作業療法支援を行う上で必要となる。講義では、骨・関節・筋系の構造と作用について理解を深める。

■ 到達目標

1. 骨の位置や構造を理解できる。
2. 筋の位置や構造、作用を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、解剖学の総論
 第2回 肩甲骨と上腕骨の構造
 第3回 肩周囲の筋
 第4回 肘と前腕の構造
 第5回 肘と前腕の筋と小テスト
 第6回 手関節と手指の構造
 第7回 手関節と手指の筋
 第8回 上肢帯の振り返りと小テスト
 第9回 骨盤と大腿骨の構造
 第10回 骨盤と大腿骨の筋
 第11回 膝と下腿の構造
 第12回 膝と下腿の筋と小テスト
 第13回 足部と足趾の構造
 第14回 足部と足趾の筋
 第15回 下肢帯の振り返りと小テスト

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	50	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	50	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：－1点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：－5点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
 作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。
 単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できる様になることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。
 また、グループワークがあるため、積極的に授業に参加し、意見を交換してください。

■ 教 科 書

書 名：解剖学（PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎）

著者名：町田志樹

出版社：羊土社

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	神経系の解剖学						
担当者	柴田雅朗						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

授業目的：中枢神経系および末梢神経系の各部について学習し、運動や感覚の伝わる経路（伝導路）について学ぶ

授業内容：毎回、資料を配布して学習し、要所でそれらを理解するための関連事項を解説し、国家試験問題を解いてみる。

■ 到達目標

中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明でき、上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の重要事項が分かる。これらは専門領域で学ぶ神経系疾患、リハビリテーションの理解の基礎となる。

■ 授業計画

- 第1回 <神経学総論：復習> 1. 神経の分類 2. 神経細胞 3. シナプス 4. 灰白質、白質および神経核 5. 神経節 6. 支持細胞 7. 脳の発生
- 第2回 <中枢神経系1> 1. 脊髄 2. 脳幹（中脳、橋、延髄） 3. 小脳
- 第3回 <中枢神経系2> 1. 間脳（視床と視床下部） 2. 大脳
- 第4回 <中枢神経系3> 1. 大脳（続き）
- 第5回 <下行性伝導路> 1. 錐体路 2. 錐体外路
- 第6回 <上行性伝導路1> 1. 温痛覚・触圧覚・意識できる深部感覚 2. 無意識的な深部感覚の伝導路
- 第7回 <上行性伝導路2> 1. 特殊感覚の伝導路（視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚）
- 第8回 <末梢神経系1> 1. 末梢神経の基礎 2. 脊髄神経 3. 脊髄神経叢
- 第9回 <末梢神経系2> 1. 脳神経の基礎 2. 脳神経
- 第10回 <末梢神経系3> 1. 脳神経（続き） 2. 自律神経
- 第11回 <脳室系と脳の血管系> 1. 髄膜 2. 脳室系 3. 脳脊髄液
4. ウィリス動脈輪 5. 脳表面の動脈（皮質枝） 6. 脳深部の動脈（中心枝）
- 第12回 <復習>伝導路の国試問題を解いてみる（解答と解説）
- 第13回 <総復習1> 復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説
- 第14回 <総復習2> 復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説
- 第15回 <総復習3> 復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）		100		
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で学習した内容について、配布資料、教科書、ネッター解剖学アトラスを用いて、必ず復習を毎回行い、分からない内容がないようにする。分からないことは自分で調べ考えてみて（この行為が非常に重要）、解決がつかない場合は遠慮なく質問する。

予習は余裕があればするが、それよりも復習を必ずやって欲しい。

■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス 原書第6版

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

■ 留意事項

限られた時間で学習するため、教科書に記載してある重要項目を抽出した授業資料を配布しますので、授業では教科書を使用しませんが、自学自習に教科書を活用して下さい。なお、授業中に授業資料に書き込みやマーカー引きなどをして下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	内臓系の解剖学						
担 当 者	非常勤講師						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、人体を構成する各器官の基本的な形態構造を学とともにその器官の機能を理解する。

■ 到達目標

内臓系の各部位ならびに器官の構造について、その名称と特徴を適切な専門用語を用いて説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、呼吸器系；鼻腔、咽頭
- 第2回 呼吸器系；喉頭、声帯、気管
- 第3回 呼吸器；胸腔、肺
- 第4回 消化器系；口腔、歯列、唾液腺、舌
- 第5回 消化器系；食道、胃
- 第6回 消化器系；小腸、大腸
- 第7回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓
- 第8回 消化器系；後腹膜臓器、消化管の脈管
- 第9回 泌尿器系；腎臓
- 第10回 泌尿器系；尿管、膀胱
- 第11回 生殖器系；男性生殖器
- 第12回 生殖器系；女性生殖器
- 第13回 内分泌系；視床下部と脳下垂体、甲状腺、副腎、精巣と卵巣、膵臓
- 第14回 感覚器系；視覚器
- 第15回 感覚器系；聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器、テスト前総復習

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新しい専門用語、難解な漢字や語句が次々と出てくるので、必ず復習しておくこと。講義で配布する資料のみでなく、さまざまな参考書等を用いて理解を深めること。講義前にはそれまでの講義内容をしっかり理解した上で臨むこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書 名：PT・OT・ST のための解剖学

著者名：渡辺 正仁

出版社：廣川書店

■ 留意事項

遅刻・欠席は規則に従って必ず届けを出すこと。配布された資料は必ず講義に持参すること。講義内容は、講義形態などにより（対面または遠隔授業）、順番が前後することがある。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	機能解剖学（体表解剖・触知）						
担 当 者	津村 宜秀、田坂 厚志					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法士には解剖学を二次元的に覚えるだけでなく、三次元的に捉えて触知する能力が求められます。また、各組織には機能が存在し、その機能の破綻が対象者の問題動作として表出されるため、その機能を学ぶことは理学療法士にとって必須となります。この科目では、各組織の機能解剖学と触知の技術を学びます。

■ 到達目標

- ・筋の起始・停止・作用・支配神経が説明できる。
- ・筋と末梢神経の走行を二次元、三次元的に理解する。
- ・筋や骨の位置関係を俯瞰的に捉え、基本的な触診技術を身に付ける。
- ・筋の構造や機能から日常生活、傷害との関係を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 肩関節の機能解剖学（骨・靭帯）（津村 宜秀）
第2回 肩関節の機能解剖学（筋）（津村 宜秀）
第3回 肘関節の機能解剖学（骨・靭帯）（津村 宜秀）
第4回 肘関節の機能解剖学（筋）（津村 宜秀）
第5回 手関節・手指の機能解剖学（骨・靭帯）（津村 宜秀）
第6回 手関節・手指の機能解剖学（筋）（津村 宜秀）
第7回 上肢・上肢帯を構成する筋の支配神経（津村 宜秀）
第8回 上肢の機能解剖学についての復習（津村 宜秀）
第9回 股関節の機能解剖学（骨・靭帯）（田坂 厚志）
第10回 股関節の機能解剖学（筋）（田坂 厚志）
第11回 膝関節の機能解剖学（骨・靭帯）（田坂 厚志）
第12回 膝関節の機能解剖学（筋）（田坂 厚志）
第13回 足関節の機能解剖学（骨・靭帯）（田坂 厚志）
第14回 足関節の機能解剖学（筋）（田坂 厚志）
第15回 下肢の機能解剖学について復習（津村 宜秀）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	小テストは各関節毎に講義終了時（30%）と講義開始時（70%）の2度実施します。 講義中から理解出来る様に集中して取り組んで下さい。 第8回、15回目の講義では科目試験の成績に関わる中間テストを実施しますので、準備をしておいて下さい。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

触知技術は一朝一夕では習得できないものです。また、技術は覚えるよりも実際に身体を動かして身に付けるものです。講義内では時間がある限り実技に取り組み、講義外でも動画を活用して技術の習得に励んで下さい。（毎週1時間半程度は練習をすると良いと思います）

座学内容で分からない分からないことがあれば講義資料に掲示している講義動画を活用して下さい。

■ 教科書

書名：運動療法のための 機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢－改訂第2版

著者名：林 典雄

出版社：MEDICAL VIEW

書名：運動療法のための 機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹－改訂第2版

著者名：林 典雄

出版社：MEDICAL VIEW

■ 参考図書

書名：運動療法のための運動器超音波機能解剖 拘縮治療との接点-WEB 動画付き

著者名：林 典雄（著） 杉本 勝正（監修）

出版社：文光堂

書名：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版

著者名：坂井 建雄

出版社：医学書院

書名：運動器臨床解剖アトラス

著者名：中村 耕三

出版社：医学書院

書名：機能解剖と触診

著者名：BKPT 研究会、工藤 慎太郎

出版社：羊土社

書名：基礎運動学 第6版

著者名：中村 隆一、齋藤 宏、長崎 浩

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

講義内の実技では組織の走行に沿って皮膚上にマーキングを行うことがあります。可能な限り肌を露出できる服装で参加して下さい（※服装が不適切な場合にはペアの学生が困ります）。

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

本科目はこれまでに学習した運動器系の解剖学、解剖学基礎演習の知識を基に講義を進めますので、必ず復習をしておいて下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生理学Ⅰ						
担当者	木村 晃大（実務経験者）						
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。経験を活かした授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

人体の各臓器の機能を学習することで、1 個体が総体としてどの様にして生命活動を維持しているのかを理解する。

■ 到達目標

各臓器の機能を理解するだけでなく、生理学の学習を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 細胞と内部環境（総論）
- 第2回 筋肉1（筋、運動）
- 第3回 筋肉2（筋肉）
- 第4回 神経1（神経）
- 第5回 神経2（神経）
- 第6回 末梢神経（神経）
- 第7回 自律神経
- 第8回 中枢神経1（神経、運動）
- 第9回 中枢神経2（神経）
- 第10回 中枢神経3（感覚）
- 第11回 中枢神経4（感覚）
- 第12回 中枢神経5（言語）
- 第13回 代謝1（栄養・代謝）
- 第14回 代謝2（体温調節）
- 第15回 前期総括（遠隔授業：オンデマンド配信）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	・本試験直前のプレテスト（10%） ・生理学 Web についての次週までの宿題（10%） ※生理学 Web の宿題は次週の講義の予習および小テスト対策に相当する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義後に提示する生理学 Web の問題を、各 Stage について次週までに達成度50%以上にすることが毎週の宿題となります。

授業時間のみでは理解は深まりません。宿題として小テスト勉強（予習）を行うなかで、授業時間外で自主的な勉強を毎日行う習慣を作ることを目標とします。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学
著者名：岡田 隆夫・鈴木敦子・長岡 正範
出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

書 名：標準生理学
著者名：本間 研一 他
出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

生理学は国家試験でも多数出題され、解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目です。臨床医学を学ぶ上での土台となるということを意識して授業に臨んで下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生理学Ⅱ						
担当者	木村 晃大（実務経験者）						
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。経験を活かした授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

人体の各臓器の機能を学習することで、1 個体が総体としてどの様にして生命活動を維持しているのかを理解する。

■ 到達目標

各臓器の機能を理解するだけでなく、生理学の学習を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 血液1（血液）
- 第2回 血液2（免疫）
- 第3回 循環器1（循環）
- 第4回 循環器2（循環）
- 第5回 呼吸器1（呼吸）
- 第6回 呼吸器2（呼吸）
- 第7回 腎臓1（排尿）
- 第8回 腎臓2（排尿・呼吸（酸・塩基平衡））
- 第9回 消化器1（消化・吸収）
- 第10回 消化器2（咀嚼・嚥下・排便）
- 第11回 内分泌1
- 第12回 内分泌2
- 第13回 内分泌3（内分泌・生殖）
- 第14回 性と生殖（生殖）
- 第15回 後期総括

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	・本試験直前のプレテスト（10%） ・生理学 Web についての次週までの宿題（10%） ※生理学 Web の宿題は次週の講義の予習および小テスト対策に相当する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義後に提示する生理学 Web の問題を、各 Stage について次週までに達成度50%以上にすることが毎週の宿題となります。

授業時間のみでは理解は深まりません。宿題として小テスト勉強（予習）を行うなかで、授業時間外で自主的な勉強を毎日行う習慣を作ることを目標とします。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学
著者名：岡田 隆夫・鈴木敦子・長岡 正範
出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

書 名：標準生理学
著者名：本間 研一 他
出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

生理学は国家試験でも多数出題され、解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目です。臨床医学を学ぶ上での土台となるということを意識して授業に臨んで下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生理学Ⅲ						
担当者	伊禮まり子						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

本科目では、1年次に学んだ解剖学と生理学を基盤として、リハビリテーションを実践する際に必要となる知識を重点的に学習し、理解を深める。

■ 到達目標

- ・身体運動にかかわる神経・筋のはたらきを理解し、説明できるようになる。
- ・身体運動にかかわる呼吸・循環系のはたらき、および運動に伴うそれら機能の変化を理解し、説明できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、細胞の機能
- 第2回 神経系の構造と機能
- 第3回 運動の発現・調節にかかわる神経系
- 第4回 反射（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第5回 自律神経系
- 第6回 骨格筋の収縮（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第7回 筋収縮のエネルギー供給機構、筋線維の種類と特徴
- 第8回 代謝
- 第9回 神経・筋の復習
- 第10回 呼吸器系の構造と機能
- 第11回 呼吸の調節、酸塩基平衡（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第12回 循環器系の構造と機能
- 第13回 循環の調節
- 第14回 呼吸・循環の復習
- 第15回 総括

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	・講義中の課題（10%） ・小テストは毎回受験後にフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習した上で受講してください。
講義後は、次回の小テストに向けて復習すること。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学（第5版）

著者名：岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生理学Ⅲ						
担当者	非常勤講師						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

1年次科目である「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学んだ内容を基盤として、人間の生命活動や日常生活に関わる生体の機能について、身体運動との関係と合わせて学習し、理解を深める。

■ 到達目標

生体の持つさまざまな機能およびその調節機構を理解し、人体の生命現象を論理的に説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 体液；細胞内液と細胞外液、浸透圧、酸塩基平衡
- 第2回 血液；血液成分について、止血
- 第3回 免疫；自己と非自己、細胞性免疫と液性免疫、アレルギー
- 第4回 循環；循環系の構造、心臓、心電図、血圧、末梢循環
- 第5回 呼吸；呼吸運動、排気量、血液ガス
- 第6回 代謝；栄養素、ATP、物質代謝
- 第7回 内分泌；ホルモン、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖
- 第8回 体温；熱の産生と放散、体温測定と体温の変動、体温中枢と発熱
- 第9回 消化；消化と吸収、消化管について、腸機能の調整、肝臓
- 第10回 泌尿器；排泄と腎臓、尿、腎臓の内分泌機能
- 第11回 感覚器；感覚の法則、皮膚感覚、視覚、聴覚、嗅覚、味覚
- 第12回 神経1；神経の構造、中枢神経の性質と構造、脊髄と伝導路
- 第13回 神経2；末梢神経、自律神経
- 第14回 運動器1；筋収縮の仕組み
- 第15回 運動器2；骨格筋、骨について、テスト前総復習

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習しておくこと。
講義を聞いているだけでは、身に付きません。配布資料のみではなく、参考書やインターネットなども活用し、自分自身で調べて、さまざまな角度から理解を深めること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学（第4）

著者名：岡田 隆夫・長岡 正範

出版社：医学書院

■ 留意事項

遅刻・欠席は規則に従って必ず届けを出すこと。配布された資料は必ず講義に持参すること。講義内容は、講義形態などにより（対面または遠隔授業）、順番が前後することがある。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生理学Ⅳ						
担当者	伊禮まり子						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 授業目的・内容

本科目では、1年次に学んだ解剖学と生理学を基盤として、身体運動にかかわる神経・筋や呼吸・循環系のはたらき、運動に伴うそれらの機能の変化、およびトレーニング効果について講義する。

■ 到達目標

- ・運動生理学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ・身体運動にかかわる神経・筋や呼吸・循環系のはたらき、運動に伴うそれらの機能の変化、およびトレーニング効果について理解し、説明できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、細胞の機能
 第2回 神経系の構造と機能
 第3回 運動の発現・調節にかかわる神経系
 第4回 反射（遠隔授業：オンデマンド配信）
 第5回 骨格筋の収縮（遠隔授業：オンデマンド配信）
 第6回 筋収縮のエネルギー供給機構、筋線維の種類と特徴
 第7回 神経・筋の復習
 第8回 呼吸器系の構造と機能
 第9回 呼吸の調節、運動に伴う呼吸機能の変化
 第10回 循環器系の構造と機能
 第11回 循環の調節、運動に伴う循環機能の変化
 第12回 エネルギー代謝、運動強度の計算
 第13回 トレーニングによる身体機能の変化
 第14回 年齢に伴う運動機能の変化（遠隔授業：オンデマンド配信）
 第15回 総括

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	小テストは毎回受験後にフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習した上で受講してください。
 講義後は、次の小テストに向けて復習すること。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学（第5版）
 著者名：岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：運動生理学20講 第2版

著者名：勝田 茂

出版社：朝倉書店

書 名：リハビリテーション運動生理学

著者名：玉木 彰（監修）、解良武士（編集）

出版社：メジカルビュー社

書 名：改訂 身体活動と体力トレーニング

著者名：藤原勝夫、外山寛

出版社：日本出版サービス

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生理学実習						
担 当 者	木村 晃大（実務経験者）						
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。経験を活かした授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義 形式	実習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。

■ 到達目標

生理学講義で学んだ知識をもとにして、生理学実習では”理解する”ことを重視した講義を行います。自分が理解できないメカニズムに対して、①考える、②参考書などを調べる、③学生間で議論する、④教員に質問する、などを行うことで、”課題を解決する習慣を作る”ことを目標とします。学生間で議論することで、一人だけで勉強するよりも情報量が飛躍的に増えて理解が深まることを体験して下さい。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・伸張反射（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第2回 オリエンテーション・伸張反射（対面授業）
- 第3回 随意運動（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第4回 随意運動（対面授業）
- 第5回 酸塩基平衡（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第6回 酸塩基平衡（対面授業）
- 第7回 呼吸（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第8回 呼吸（対面授業）
- 第9回 VT（換気性作業閾値）（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第10回 VT（換気性作業閾値）（対面授業）
- 第11回 心電図（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第12回 心電図（対面授業）
- 第13回 血圧の調節（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第14回 血圧の調節（対面授業）
- 第15回 スパイロメーター（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第16回 スパイロメーター（対面授業）
- 第17回 脳神経（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第18回 脳神経（対面授業）
- 第19回 ブラウンセカール症候群（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第20回 ブラウンセカール症候群（対面授業）
- 第21回 予備日程（筋電図、呼吸、視覚）（遠隔授業（オンデマンド配信））
- 第22回 予備日程（筋電図、呼吸、視覚）（対面授業）
- 第23回 プレテスト・実習総括（対面授業）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	40	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	30	%	
小テスト	◎	10	%	

その他・備考	・本試験直前のプレテスト（10%） ・生理学 Web についての次週までの宿題（10%）
--------	---

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

①レポートの作成と、②小テスト対策としての生理学 Web の勉強が主な授業時間外の学習となります。授業時間のみでは理解は深まりません。一年次と同様に、宿題として小テスト勉強を行うなかで、授業時間外で自主的な勉強を毎日行う習慣を作ることを目標とします。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：標準生理学
 著者名：本間 研一 他
 出版社：医学書院

■ 留意事項

レポート提出は期限厳守のこと。レポート未提出・レポートのコピー（した方・させた方両者とも）は最終成績より40点の減点とします。
 不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動学総論						
担当者	境 隆弘						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法にとっての運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。

人間のからだの構造を学ぶ解剖学、人間のからだの機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについて学ぶ。

■ 到達目標

運動学用語を理解し、使用できるようになる。

運動力学を理解する。

上肢の運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。

■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス
講義の進め方、評定方法の他、理学療法士にとっての運動学の重要性を学ぶ
- 第2回 運動学（Kinesiology）総説
解剖学・生理学ならびに運動療法学との関連、Kinematics と Kinetics について学ぶ
- 第3回 身体運動①基本面
運動学を学ぶにあたって必要な身体における運動面と軸について学ぶ
- 第4回 身体運動②名称
運動学を学ぶにあたって必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ
- 第5回 身体運動③演習
①②で学んだ身体運動について、演習を行い理解を深める
- 第6回 運動を構成する要素と器官①
ヒトの運動を生む器官のうち、骨と関節について学ぶ
- 第7回 運動を構成する要素と器官②
ヒトの運動を生む器官のうち、筋について学ぶ
- 第8回 運動を構成する要素と器官③
①②で学んだ運動を構成する要素と器官について、演習を行い理解を深める
- 第9回 力学の基礎①
運動学を学ぶにあたって必要なニュートン力学について学ぶ
- 第10回 力学の基礎②
運動学を学ぶにあたって必要な身体とてこについて学ぶ
- 第11回 力学の基礎③
運動学を学ぶにあたって必要なモーメント（トルク）について学ぶ
- 第12回 力学の基礎④
運動学を学ぶにあたって必要な生体における力とモーメントについて学ぶ
- 第13回 構えと姿勢①
ヒトの運動にかかわる構えと姿勢の名称について学ぶ
- 第14回 構えと姿勢②
①で学んだ構えと姿勢について、演習を行い理解を深める

第15回 上肢の運動学①

肩甲帯に関する運動器官と運動学について学ぶ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	小テストについては、実施直後にフィードバックを行う。 （小テストを学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点となる。）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

（予習）

運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。

毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の30分程度の復習をしてくること。

例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。

（復習）

授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くように十分な量（30分以上）の復習をすること。

■ 教科書

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

書 名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅 他編

出版社：金原出版

■ 参考図書

書 名：筋骨格系のキネシオロジー原著第3版

著者名：ドナルド・A・ヌーマン

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

初講時に説明する、受講時の服装や必要品を忘れないようにすること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動学総論						
担当者	長谷川昌士						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、解剖学、生理学、そして、運動力学を基礎とした応用科学であることを学ぶ。そこから、人体の各関節における運動機能のメカニズムについて、詳しく学んでいく。運動障害を治療対象とする作業療法士にとって、その理論的基盤をなす重要な基礎科目である。

■ 到達目標

身体運動の記述に必要な力学の基礎知識を理解する。可動関節の分類と関節運動の種類を理解する。筋の基本構造と機能を理解する。各関節（肩複合体、肘関節、前腕、手関節、手指関節、股関節、膝関節、足関節、脊柱・体幹、顔面と頭部）の構造と関節運動および関節運動における靭帯や筋の作用を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 生体力学（並進運動と回転運動）
- 第2回 生体力学（力と力の合成・分解）
- 第3回 生体力学（力のモーメント、身体のでこ）
- 第4回 運動器の構造と機能（可動関節の分類、骨運動と関節包内運動、運動軸と運動面）
- 第5回 運動器の構造と機能（骨格筋の構造、筋収縮機序、筋線維の種類、運動単位、筋の収縮様式とはたらき）
- 第6回 肩複合体の運動学（肩複合体の構造）
- 第7回 肩複合体の運動学（肩複合体の骨運動と関節包内運動）
- 第8回 肩複合体の運動学（肩複合体の運動に関与する筋）
- 第9回 肘関節・前腕の運動学（肘関節・前腕の構造、肘関節・前腕の骨運動と関節包内運動）
- 第10回 肘関節・前腕の運動学（肘関節・前腕の運動に関与する筋）
- 第11回 手関節の運動学（手関節の構造、手関節の骨運動と関節包内運動）
- 第12回 手関節の運動学（手関節の運動に関与する筋、手のアーチ）
- 第13回 手指の運動学（手指関節の構造）
- 第14回 手指の運動学（手指関節の骨運動と関節包内運動）
- 第15回 手指の運動学（手指関節の運動に関与する筋）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	90	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	板書のまとめプリントは授業毎に配布予定			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習に関して、できるだけその日のうちに自宅等で20分程度は（授業でおこなった内容について）教科書、参考書、配布プリントなどを見直すようにしてください。また、学習したことを授業ノートに追記するようにしてください。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学
著者名：石川朗 種村留美 小島悟
出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：筋骨格系のキネシオロジー
著者名：P.D.Andrew ほか監訳
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動学各論						
担当者	境 隆弘						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法にとっての運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。

下肢、体幹・頭頸部の機能解剖に立脚した運動の分析を関節運動学と運動力学の視点から部位別に学ぶ。姿勢や歩行に関する運動学的、運動力学的分析と筋出力、運動学習について学ぶ。

■ 到達目標

下肢、体幹・頭頸部の運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。
姿勢や歩行に関する関節運動学、運動力学を理解し、観察や分析が出来るようになる。

■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス
講義の進め方、評定その他、前期に学んだ運動学総論、後期に学ぶ運動学実習との関連性を学ぶ
- 第2回 下肢の運動学①
股関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第3回 下肢の運動学演習①
股関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第4回 下肢の運動学②
膝関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第5回 下肢の運動学演習②
膝関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第6回 下肢の運動学③
足関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第7回 下肢の運動学演習③
足関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第8回 体幹の運動学
体幹に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第9回 体幹の運動学演習
体幹の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第10回 頭頸部・顔面の運動学
頭頸部・顔面に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第11回 頭頸部・顔面の運動学演習
頭頸部・顔面の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第12回 四肢と脊柱の運動連鎖
開放性運動連鎖（OKC）と閉鎖性運動連鎖（CKC）について学ぶ
- 第13回 四肢と脊柱の運動連鎖演習
OKC と CKC に関する演習を行い、理解を深める
- 第14回 筋トルク
様々な収縮形態により発揮される筋トルクについて学ぶ（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第15回 筋トルク演習
実際に筋トルクを計測し、理解を深める

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	小テストについては、実施直後にフィードバックを行う。 (小テストを学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点となる。)			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

（予習）

運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。

毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の30分程度の復習をしてくること。

例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。

（復習）

授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くように十分な量（30分以上）の復習をすること。

■ 教科書

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

書 名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅 他編

出版社：金原出版

■ 参考図書

書 名：筋骨格系のキネシオロジー原著第3版

著者名：ドナルド・A・ヌーマン

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

初講時に説明する、受講時の服装や必要品を忘れないようにすること

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動学各論						
担当者	長谷川昌士						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

運動学習における理論について理解を深める。運動学的分析手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。その応用として立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解を深める。呼吸・心臓リハビリテーションにおける必要な知識や技術について理解を深める。筋力増強およびストレッチングにおける必要な知識や技術について理解を深める。

■ 到達目標

運動学習における理論について理解し、説明ができる。運動学的分析手法（床反力、体重心、関節モーメント）について理解し、説明ができる。健常者の立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解し、説明ができる。呼吸・心臓リハビリテーションにおける評価および運動療法について理解し、説明ができる。筋力増強、ストレッチングにおける理論および一般的な実施方法について理解し、説明ができる。

■ 授業計画

- 第1回 運動学習（運動学習の定義、3つの記憶システム、運動の学習段階、練習、学習の転移）
- 第2回 運動学習（動機づけ、フィードバック、パフォーマンスと運動技能）
- 第3回 動作分析に必要な力学の基礎（体重心）
- 第4回 動作分析に必要な力学の基礎（床反力）
- 第5回 動作分析に必要な力学の基礎（関節モーメント）
- 第6回 姿勢と姿勢制御の仕組み（重心と支持基底面、安静立位姿勢とその保持）
- 第7回 姿勢と姿勢制御の仕組み（外乱動揺時の姿勢制御、姿勢制御における感覚機構）
- 第8回 健常者の歩行分析（歩行周期、距離・時間因子）
- 第9回 健常者の歩行分析（身体重心移動、下肢関節運動）
- 第10回 健常者の歩行分析（床反力、足底圧中心）
- 第11回 健常者の歩行分析（筋活動、エネルギー消費）
- 第12回 健常者の立ち上がりの分析（身体重心移動、下肢関節運動、関節モーメント変化）
- 第13回 健常者の歩き始めの分析（身体重心移動、下肢関節運動、関節モーメント変化）
- 第14回 日常生活活動における評価法（FIMの運動項目の採点方法）
- 第15回 日常生活活動における評価法（FIMの運動項目の採点方法）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	90	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習に関して、できるだけその日のうちに自宅等で20分程度は（授業でおこなった内容について）教科書、参考書、配布プリントなどを見直すようにしてください。また、授業を受けるにあたって解剖学（骨・関節）、生理学（呼吸・循環のメカニズム）、物理学（運動力学）の知識が必要となりますので、専門科目の教科書をできるだけ見直すようにしてください。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 作業療法テキスト 内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝
著者名：野田和恵ほか
出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：基礎バイオメカニクス
著者名：江原義弘、山本澄子、石井慎一郎
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動学基礎演習						
担当者	津村 宜秀						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

運動学総論、運動学各論により修得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を観察、分析するといった演習を行う。その様な取り組みを繰り返すことで、理学療法の基礎となる物理的（力学的）な動作の解釈、考察力を身に付ける。

■ 到達目標

重心、支持基底面、モーメントなどの特徴を説明できる。
起居動作・起立動作・歩行動作の基本的な力学的特徴を説明できる。
動作を観察・分析することで、その状況における筋活動などを考察できる。
観察した動作を運動学的用語で説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法士にとって力学的な動作分析が必要となる理由
- 第2回 【基礎的演習】張力-長さ曲線の理解
- 第3回 【基礎的演習】身体重心の理解
- 第4回 【基礎的演習】モーメントの理解～筋活動の推察～
- 第5回 【基礎的演習】モーメントの理解～床反力/加速と同時収縮～
- 第6回 【応用的演習】基本的な起立動作
- 第7回 【応用的演習】足関節背屈制限のある起立動作
- 第8回 【応用的演習】股関節屈曲制限のある起立動作
- 第9回 【応用的演習】円背姿勢での起立動作
- 第10回 【応用的演習】歩行周期・床反力・身体重心の移動
- 第11回 【応用的演習】歩行速度の影響する要因
- 第12回 【応用的演習】エネルギー消費の軽減に影響する要因
- 第13回 【応用的演習】クリアランスに影響する要因
- 第14回 【応用的演習】起居動作を理解する
- 第15回 【応用的演習】動作分析～模擬症例を通じて～

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	毎回の講義でグループ単位の課題を課します。期限内に提出することでレポート点が加算されます。提出期限遅れ、グループワークへの参加態度不良（居眠り・関係のない会話・関係の無い作業）を行っている場合にはレポート点は0点となります。また不正行為（参加していないのに参加したと申告）を行った場合には、グループメンバー全員が -10 点となります。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

本科目は1回目の講義で得た知識を使って2回目の講義、2回目の講義で得た知識を使って3回目の講義、という形で知識の積み重ねが重要となります。各セッション終了時には理解度確認問題を配布するため、理解の不足があると感じた学生は同じグループの学生に聞くなどして早めに復習をするようにして下さい。また、各講義の前には30分程度の予習・復習を行ってから講義に取り組むと説明の理解が向上すると思います。

■ 教科書

書 名：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践

著者名：石井 慎一郎 / 編

出版社：MEDICAL VIEW

書 名：観察による歩行分析

著者名：月城 慶一、山本 澄子、江原 義弘、盆子原 秀三 / 訳

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：PT・OT 臨床につながる物理学

著者名：望月 久、棚橋 信雄 / 著

出版社：羊土社

書 名：基礎バイオメカニクス 第2版 理解が深まるパワーポイント 動画 CD-ROM 付

著者名：山本 澄子、石井 慎一郎、江原 義弘 / 著

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

4名 / グループで協力し合いながら演習を進めていきます。理解できた学生は他者に説明することで、理解が追いついて居ない学生は他者から説明されることで知識の獲得を図ります。

“聞いたことだけを暗記する” 受け身の姿勢では“理解すること”には至りません。積極的な受講姿勢を心掛けて下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動学基礎演習						
担 当 者	山本清治・寺村晃					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法士が対象者の動作を分析することはその他の評価との統合やアプローチに必要である。この授業では、運動学総論、運動学各論により習得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を分析する実習を通して、作業療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。

■ 到達目標

1. 動作を観察する視点を身につけることができる。
2. 観察した動作を運動学的用語で説明することができる。
3. 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・ランドマーク；寺村晃
 第2回 筋の起始停止や作用・重心；寺村晃
 第3回 上肢機能の分析1；寺村晃
 第4回 上肢機能の分析2；寺村晃
 第5回 上肢機能の分析3；寺村晃
 第6回 背臥位姿勢の分析1；寺村晃
 第7回 背臥位姿勢の分析2；寺村晃
 第8回 背臥位姿勢の分析3；寺村晃
 第9回 寝返り、起き上がりの分析1；寺村晃
 第10回 寝返り、起き上がりの分析2；寺村晃
 第11回 寝返り、起き上がりの分析3；寺村晃
 第12回 小テスト；寺村晃
 第13回 立ち上がり姿勢の分析1；山本清治
 第14回 立ち上がり姿勢の分析2；山本清治
 第15回 立ち上がり姿勢の分析3；山本清治

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	80	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：－1点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：－5点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。

作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

また、グループワークがあるため、積極的に授業に参加し、意見を交換してください。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学

著者名：西川朗 種村留美 小島悟

出版社：中山書店

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生涯人間発達学						
担当者	藪中良彦						
実務経験者の概要	藪中良彦 理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで10年の実務経験があり、これらの経験をもとに授業を進めていく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

授業目的：子どもの機能獲得の仕組みを知ることで、子どもの治療だけでなく、成人の治療にも発達の知識を利用できるようになることが、この科目の目標である。

内容：理学療法士として必要な子どもの発達の知識を、運動発達を中心に学習する。加えて、学童・青年・成人・老年期の発達も学習する。

■ 到達目標

- ・発達概念、発達理論、発達検査について理解する。
- ・粗大運動発達を中心に6歳までの発達を理解する。
- ・小児期の筋骨格系、神経系、歩行、目と手・上肢機能、日常生活活動、遊びの発達を理解する。
- ・学童・青年・成人・老年期の発達を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 「イラストでわかる人間発達学」 第1章 発達概念
- 第2回 「イラストでわかる人間発達学」 第2章 発達理論
- 第3回 「イラストでわかる人間発達学」 第3章 発達検査
- 第4回 「小児理学療法学」 第2章 5 姿勢と粗大運動
- 第5回 「小児理学療法学」 第2章 5 姿勢と粗大運動
- 第6回 「イラストでわかる人間発達学」 第5章 運動発達（0～3ヶ月）、第6章 運動発達（4～6ヶ月）
- 第7回 「イラストでわかる人間発達学」 第7章 運動発達（7～9ヶ月）、第8章 運動発達（10～12ヶ月）
- 第8回 「イラストでわかる人間発達学」 第9章 動発達（13～18ヶ月）、第10章 姿勢反射／反応と6歳までの発達
- 第9回 「小児理学療法学」 第2章 2 筋・骨格系
- 第10回 「小児理学療法学」 第2章 3 神経系
- 第11回 「小児理学療法学」 第2章 3 神経系
- 第12回 「小児理学療法学」 第2章 6 歩行
- 第13回 「小児理学療法学」 第2章 7 目と手・上肢機能
- 第14回 「小児理学療法学」 第2章 8 日常生活活動と遊び
- 第15回 「イラストでわかる人間発達学」 第14章 学童・青年・成人・老年期の発達

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	出席（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点） 小テストの点数に含まれる内容（Moodle 課題＋小テスト＋予習課題＋授業中の口頭試問）（40点） 筆記試験（60点）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う（30分）。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。

復習：毎回講義後に Moodle 課題および課題提示を行い、授業の復習を促す（30分）。加えて、次の講義の初めに小テストを行い、復習（30分）を促すと共に知識の定着を図る。

フィードバック：Moodle 課題および小テストで間違いが多かった回答について、次の週の講義で解説を行う。

■ 教科書

書 名：イラストでわかる人間発達学

著者名：上杉雅之 監修

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：小児理学療法学

著者名：藪中良彦、木元稔、坂本仁（編集）

出版社：メジカルビュー社

■ 参考図書

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生涯人間発達学						
担 当 者	寺村 晃（実務経験者）、井口知也（実務経験者）、吉田 文（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当教員全員が作業療法士として医療・福祉施設に勤務した経験を持ち、それぞれの経験に基づいた授業を展開していく。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法においては、ひとのライフサイクルとそれに伴う課題や役割について理解することは、ひとの生活を考える上で重要である。乳幼児期を中心にひとの生涯の発達について、各実務経験者がライフサイクルとひとの作業との関係、作業療法と結びつけながら講義等により学習をすすめる。

■ 到達目標

1. 原始反射と姿勢反応について理解する
2. 乳児期～青年期までの子どもの発達について理解する
3. 成人期・壮年期・高齢期（老年期）の発達について理解する

■ 授業計画

- 第1回 発達理論① エリクソンの発達理論（人間発達とは） 寺村 晃（実務経験者）
 第2回 発達理論② ピアジェの発達理論 寺村 晃（実務経験者）
 第3回 乳児の発達（0～3か月）（遊びの発達を含む） 寺村 晃（実務経験者）
 第4回 乳児の発達（4～6か月）（遊びの発達を含む） 寺村 晃（実務経験者）
 第5回 乳児の発達（7～12か月）（遊びの発達を含む） 寺村 晃（実務経験者）
 第6回 幼児の発達（1～3歳）（遊びの発達を含む） 寺村 晃（実務経験者）
 第7回 幼児の発達（4～5歳）（遊びの発達を含む） 寺村 晃（実務経験者）
 第8回 学童期～青年期の発達（遊びの発達を含む） 寺村 晃（実務経験者）
 第9回 青年期・成人初期・成人期の発達（余暇活動の発達含む） 吉田 文（実務経験者）
 第10回 成人初期・成人期と作業バランス 吉田 文（実務経験者）
 第11回 高齢期（老年期）への準備 吉田 文（実務経験者）
 第12回 高齢期の発達とライフサイクル 井口知也（実務経験者）
 第13回 喪失と自己効力 井口知也（実務経験者）
 第14回 肯定的な高齢期とは 井口知也（実務経験者）
 第15回 授業のまとめ（まとめテスト含む）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	課題提出 10%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

* 授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書 名：イラストでわかる人間発達学
著者名：上杉雅之 監修
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：参考書は授業で随時紹介する

■ 留意事項

学生自身と異なる年代の特徴を理解するのは難しい。どのように発達を遂げながら、どのような時代を生き、今日の前にこの対象者の方が存在するのかを理解するとともに、これからの発達を予測し、実際の作業療法場面にその知識を生かせるようになること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床心理学						
担当者	春海 淳子						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

臨床心理学は「こころの病」や「こころのメカニズム」について学ぶものです。私たちのこころは流動的で環境からの影響を受けながら形成され、揺らぎもします。そうした、こころのありようについて、身近な素材や具体的な話を用いて臨床心理学に関する理論や概念の基礎的素養を身につける機会にします。

■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に行かせるよう習得することを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床心理学とは
- 第2回 心理アセスメント (1)：意義と方法 (観察、面接、検査)
- 第3回 心理アセスメント (2)：発達検査・知能検査
- 第4回 心理アセスメント (3)：人格検査 (概要)
- 第5回 心理アセスメント (4)：人格検査
- 第6回 心理アセスメント (5)：体験
- 第7回 認知機能のアセスメント (1)：認知機能とは何か
- 第8回 認知機能のアセスメント (2)：認知機能のアセスメント
- 第9回 こころの構造 (1)：人格構造論の観点から
- 第10回 こころの構造 (2)：発達論的観点から
- 第11回 患者・障がい者の心理
- 第12回 臨床心理面接 (1)：来談者中心療法
- 第13回 臨床心理面接 (2)：精神分析
- 第14回 臨床心理面接 (3)：学習理論と行動療法
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	授業への参加・貢献（授業後の感想シートの提出など）・・・30%			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

「こころ」についての学びの機会になります。日常生活のなかでも自身や身の回りの人たちの”こころ”の動きに関心を払ってみてください。また、授業終了後、テキストの該当部分や授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学
 著者名：牧瀬 英幹
 出版社：南江堂

■ 参考図書

書 名：リハベリック 心理学・臨床心理学 第2版

著者名：内山 靖・藤井 浩美・立石 雅子 編

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

授業の最後に感想シートの配布・提出の時間があります。質問や感想を積極的に発信してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	病理学概論						
担 当 者	藤岡正喜						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

病理学は病気の原因（病因）と成り立ち（病態）を明らかにする学問であり、医療を学ぶ学生にとって病理学は、病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解する上で役立つ。

病理学概論では代表的な疾患で認められる病変について学び、疾患の成り立ちと病変の特色について理解する。

■ 到達目標

病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。

■ 授業計画

- 第1回 病因論、進行性病変と退行性病変
- 第2回 代謝障害：代謝異常の種類、脂質代謝・糖質代謝について
- 第3回 循環障害：循環系の構造と機能、止血の仕組みについて
- 第4回 炎症と免疫：炎症の定義、創傷治癒について
- 第5回 腫瘍：癌の特徴や種類、癌の検査・治療法について
- 第6回 腫瘍：癌の発生機序、癌ゲノム医療について
- 第7回 老化：生理的老化、加齢による疾患について
- 第8回 先天異常：先天異常の概念と疾患、遺伝性疾患について

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業は大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中にすべての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。分からないことは講義中でも遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

書 名：病理学 第5版（標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野）
 著者名：奈良 勲（監修），鎌倉 矩子（監修），横井 豊治（監修），村雲 芳樹（編集），佐藤 康晴（編集）
 出版社：医学書院

■ 参考図書

--

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	一般臨床医学						
担 当 者	藤岡 重和（実務経験者）・岡本 文雄（実務経験者）・神納 光一郎（実務経験者） 大場創介（実務経験者）・竹原 友貴（実務経験者）・福原 雅之（実務経験者） 藤岡正喜・矢吹裕栄						（オムニバス）
実務経験者の概要	藤岡 重和・岡本 文雄・神納 光一郎・大場創介・竹原 友貴・福原 雅之は医師として、医療機関等で診療業務に従事し、これらの経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

目的：リハビリテーションの対象疾患は、年々拡大しており、近年、医療機関においては、各診療科から周術期リハビリテーション、がんのリハビリテーション、廃用症候群に対するリハビリテーションの依頼が増加している。そのため、各診療科の代表的疾患について熟知しておく必要がある。また、リハビリテーション業務中に救急対応が必要となることも少なくない。本講では、リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を習得し、次に、外科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、その病因、病態、症状、評価、治療を理解することを目的とする。

内容：救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、その病因、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。また、皮膚科、眼科、耳鼻科疾患を有する対象患者のリハビリテーション実施上の留意事項についても概説する。

■ 到達目標

1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。
2. 外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の代表的疾患について、その病態、特徴的に現れる症状、検査、診断、治療法を説明できる。
3. 皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション実施上の留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- | | | |
|------|--------------------------|--------------------|
| 第1回 | 救急医学総論 (1) | 岡本文雄 / 藤岡重和（実務経験者） |
| 第2回 | 救急医学総論 (2) | 岡本文雄（実務経験者） |
| 第3回 | 救急医学各論 (1) ショック、心肺停止 | 神納光一郎（実務経験者） |
| 第4回 | 救急医学各論 (2) 意識障害、吐血、下血と腹痛 | 神納光一郎（実務経験者） |
| 第5回 | 救急医学各論 (3) 外傷、環境障害 | 神納光一郎（実務経験者） |
| 第6回 | 皮膚科学 | 竹原友貴（実務経験者） |
| 第7回 | 皮膚科学 | 竹原友貴（実務経験者） |
| 第8回 | 眼科学 | 福原雅之（実務経験者） |
| 第9回 | 眼科学 | 福原雅之（実務経験者） |
| 第10回 | 耳鼻咽喉科学 | 矢吹裕栄 |
| 第11回 | 耳鼻咽喉科学 | 矢吹裕栄 |
| 第12回 | 泌尿器科学 | 藤岡正喜 |

- 第13回 泌尿器科学
藤岡正喜
- 第14回 外科学
大場創介（実務経験者）
- 第15回 外科学
大場創介（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業内容をノートにまとめ、さらに教科書の該当項目を熟読して理解を深めるようにしてください（60分程度）。理解できない授業内容がある場合は、担当教員に質問するようにしてください。

一般臨床医学を学習するにあたって、各領域の解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。事前学習として、授業の前に、十分復習（60分程度）をしておいてください。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための一般臨床医学
著者名：明石 謙
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書 名：救急診療指針 改訂第4版
著者名：日本救急医学会監修
出版社：へるす出版

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	医療安全学						
担当者	藤岡 重和（実務経験者）						
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として医療安全業務を含む診療業務に従事している。これらの知見、経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

目的：リハビリテーション専門職として医療安全対策の重要性を理解し、その基本的事項の実際を習得することを目的とする。基本的事項として、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策、リスクマネジメント、医療機関における安全対策、リハビリテーション業務における安全対策について理解する。

内容：頻発する医療事故を概観し、医療現場の現状と医療安全対策の必要性について理解する。次に、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策、リスクマネジメント、医療機関における安全対策、リハビリテーション業務における安全対策、医療事故の報告制度について学習する。また、事故事例の分析演習を通して医療事故発生のメカニズム、医療機関における安全対策のありかたについて理解を深める。

■ 到達目標

1. 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する
2. 事故の発生要因について説明できる
3. 医療機関における安全対策、リハビリテーション業務における安全対策を説明できる

■ 授業計画

- 第1回 医療事故の疫学、頻度、医療事故事例の紹介
 第2回 医療事故の定義、分類、医療事故の報告制度
 第3回 医療事故発生のメカニズム、医療事故分析、事故対策
 第4回 医療事故分析と対策（演習）
 第5回 医療機関における安全対策（1）
 第6回 医療機関における安全対策（2）
 第7回 医療事故後の対応、医療事故に関する法的責任
 第8回 リハビリテーション業務における安全対策、国試対策（問題演習）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎		70%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎		30%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください（30分程度）。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください（60分程度）。国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。また、小テストについては、翌週の授業でフィードバックを行う。

■ 教科書

書 名：医療安全（NURSING GRAPHICUS 看護の統合と実践 2）

著者名：松下由美子、杉山良子、小林美雪

出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン

著者名：日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	疫学・公衆衛生学						
担当者	白井文恵						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

地域で生活する人々の健康の維持・増進のために必要な公衆衛生学とその研究手法である疫学について学習する。

■ 到達目標

- ①健康とは何かを理解する。
- ②健康に生活するとはどのようなことか理解する。
- ③健康に生活することを保障する社会の仕組みを理解する。
- ④健康に関する研究手法である疫学について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 公衆衛生と健康の概念
- 第2回 疫学
- 第3回 保健統計
- 第4回 成人保健と健康増進
- 第5回 母子保健と健康増進
- 第6回 高齢者保健と健康増進
- 第7回 感染症対策
- 第8回 社会保障制度

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業計画内容を確認し、教科書の該当箇所を読んできてください。
復習：授業箇所の教科書を読み返してください。

■ 教科書

書 名：公衆衛生がみえる 2024-2025
著者名：医療情報科学研究所
出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2024/2025
著者名：8月発刊
出版社：厚生労働統計協会

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	内科学 I						
担 当 者	藤岡 重和（実務経験者）						
実務経験者の概要	医療機関において医師として内科診療業務に従事しており、実務経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

目的：リハビリテーションの対象となる内科疾患は、年々拡大しており、療法士には、各種の内科疾患の病態、評価、治療に関する詳細な理解が必要とされる。内科学 I では、各種内科疾患の病態、臨床像、診断、評価、治療を理解することを目的とする。

内容：内科学 I では、循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患の生体内部の障害について、その病因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。また、循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患を有する患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できるよう指導する。

■ 到達目標

1. 代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、各種検査所見（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 内科学総論
- 第2回 循環器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第3回 循環器疾患（1）高血圧、虚血性心疾患
- 第4回 循環器疾患（2）弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患
- 第5回 循環器疾患（3）心不全、不整脈、その他
- 第6回 循環器疾患（4）大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈、リンパ管疾患
- 第7回 呼吸器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第8回 呼吸器疾患（1）感染性肺疾患、アレルギー性肺疾患
- 第9回 呼吸器疾患（2）慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患
- 第10回 呼吸器疾患（3）肺腫瘍、肺循環障害
- 第11回 呼吸器疾患（4）呼吸不全、呼吸調節の異常、胸膜疾患、その他
- 第12回 腎、泌尿器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第13回 腎、泌尿器疾患（1）糸球体疾患、全身性疾患と腎障害
- 第14回 腎、泌尿器疾患（2）腎不全、電解質異常、泌尿器疾患、その他
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎		90%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎		10%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください（30分程度）。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください（60分程度）。国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。発展的内容を探究したい、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。内科学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。 また、小テストについては、翌週の授業でフィードバックを行う。

■ 教科書

書 名：ナースの内科学 第10版
著者名：奈良信雄
出版社：中外医学社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版
著者名：大成浄志
出版社：医学書院

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	内科学 II						
担 当 者	藤岡 重和（実務経験者）						
実務経験者の概要	医療機関において医師として内科診療業務に従事しており、実務経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

目的：リハビリテーションの対象となる内科疾患は、年々拡大しており、療法士には、各種の内科疾患の病態、評価、治療に関する詳細な理解が必要とされる。内科学 II では、各種内科疾患の病態、臨床像、診断、評価、治療を理解することを目的とする。

内容：内科学 II では、消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、その病因、病態、疫学、臨床像、検査、診断、治療法、予後を学習する。また、消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、を有する患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できるよう指導する。

■ 到達目標

1. 代表的な消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 消化器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第2回 消化器疾患（1）食道疾患、胃の疾患
- 第3回 消化器疾患（2）小腸、大腸の疾患
- 第4回 消化器疾患（3）肝疾患
- 第5回 消化器疾患（4）胆道疾患、膵疾患、その他
- 第6回 代謝、内分泌総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第7回 代謝、内分泌疾患（1）糖尿病、脂質代謝異常、栄養障害、その他
- 第8回 代謝、内分泌疾患（2）下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 第9回 免疫、アレルギー総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第10回 免疫、アレルギー疾患（1）アレルギー疾患
- 第11回 免疫、アレルギー疾患（2）自己免疫疾患
- 第12回 血液、造血器疾患（1）赤血球系疾患
- 第13回 血液、造血器疾患（2）白血球系疾患、出血性疾患
- 第14回 リハビリテーションと内科臨床について
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎		90%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎		10%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください（30分程度）。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください（60分程度）。国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。発展的内容を探究したい、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。 また、小テストについては、翌週の授業でフィードバックを行う。

■ 教科書

書 名：ナースの内科学 第10版
著者名：奈良信雄
出版社：中外医学社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版
著者名：大成浄志
出版社：医学書院

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	整形外科学Ⅰ						
担当者	岡 智大、安延 由紀子、松井 満政（実務経験者）、高木 啓至、中村 憲正（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	中村 憲正・松井 満政 医師として、臨床現場において整形外科疾患の患者に対して、診察・治療に従事しており、これらの経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

運動機能障害から日常生活動作を障害する原因となる、整形外科疾患について病因、病態生理、診断、治療法、予後 について学習する。

■ 到達目標

まず、運動器の障害に関する基礎的な理解を深めた上で、各分野ごと、それぞれの疾患について、病因、病態生理、治療法を理解する。

さらに、その知識を理学療法士としてどのように臨床につなげていくか理解する。

■ 授業計画

- 第1回 炎症性関節疾患（関節リウマチとその類縁疾患・慢性関節疾患等）：岡 智大
- 第2回 肩・肘・手関節と手：岡 智大
- 第3回 頸・胸・腰椎：岡 智大
- 第4回 股・膝・足関節と足：岡 智大
- 第5回 整形外科とは：松井 満政（実務経験者）
- 第6回 整形外科診断総論：松井 満政（実務経験者）
- 第7回 整形外科治療総論：松井 満政（実務経験者）
- 第8回 整形外科疾患総論：松井 満政（実務経験者）
- 第9回 外傷（脊椎・脊髄損傷）：岡 智大
- 第10回 外傷（末梢神経損傷）：安延 由紀子
- 第11回 骨端症・骨壊死・骨・軟部腫瘍：高木 啓至
- 第12回 整形外科領域における再生医療について：中村 憲正（実務経験者）
- 第13回 外傷（骨折）：岡 智大
- 第14回 外傷（捻挫、脱臼）：岡 智大
- 第15回 先天性疾患・骨系統疾患：安延 由紀子

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

■ 教科書

書 名：標準整形外科学 第15版

著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）

出版社：医学書院

書 名：病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科

著者名：医療情報科学研究所（編）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	整形外科学Ⅰ						
担当者	松井満政（実務経験者）、中村憲正（実務経験者）、西田裕希、寺村晃、渡部雄太						（オムニバス）
実務経験者の概要	松井満政と中村憲正は、医師として臨床現場において、整形外科疾患の患者に対する診察や治療に従事しており、臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻（科）	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

この授業では、運動機能障害が日常生活動作に影響を及ぼす原因となる整形外科疾患に焦点を当てる。病因、病態生理、診断、治療法、予後について学習する。

■ 到達目標

運動器の障害に関する基礎的な理解を深めた上で、各疾患についての病因、病態生理、治療法を理解する。さらに、これらの知識を作業療法士としてどのように臨床に繋げていくかを理解する。

■ 授業計画

- 第1回 上肢の疾患 肩・肩甲帯 西田 裕希
- 第2回 上肢の疾患 肘・前腕 西田 裕希
- 第3回 上肢の疾患 手・手指 西田 裕希
- 第4回 整形外科の概要：松井満政（実務経験者）
- 第5回 整形外科診断総論：松井満政（実務経験者）
- 第6回 整形外科治療総論：松井満政（実務経験者）
- 第7回 整形外科疾患総論：松井満政（実務経験者）
- 第8回 下肢の疾患 股関節疾患総論 西田 裕希
- 第9回 下肢の疾患 股関節各論 西田 裕希
- 第10回 下肢の疾患 膝関節 西田 裕希
- 第11回 下肢の疾患 足部：西田 裕希
- 第12回 体幹の疾患 体幹疾患総論 西田 裕希
- 第13回 体幹の疾患 脊椎疾患 脊椎・脊髄損傷1 西田 裕希
- 第14回 整形外科領域における再生医療について 中村 憲正（実務経験者）
- 第15回 体幹の疾患 脊椎疾患 脊椎・脊髄損傷2 西田 裕希

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
 作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。
 単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できる様になることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教 科 書

書 名：病気がみえる 11 運動器・整形外科

著者名：医療情報科学研究所 編集

出版社：株式会社 メディックメディア

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	整形外科科学Ⅱ						
担 当 者	岡 智大、安延 由紀子						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

整形外科科学Ⅰをもとに、治療場面でよく扱う疾患を中心に理解を深める。

■ 到達目標

疾患についての基礎的知識を確実に習得する。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、骨折総論①：岡 智大
 第2回 骨折総論②：岡 智大
 第3回 肩関節の疾患：安延 由紀子
 第4回 代謝性骨疾患：安延 由紀子
 第5回 肘・手関節の疾患①：岡 智大
 第6回 肘・手関節の疾患②、関節リウマチ、変形性関節症（総論）：岡 智大
 第7回 脊椎の疾患①：岡 智大
 第8回 脊椎の疾患②：岡 智大
 第9回 中間まとめ：岡 智大
 第10回 股関節の疾患①：岡 智大
 第11回 股関節の疾患②：岡 智大
 第12回 膝関節の疾患①岡 智大
 第13回 膝関節の疾患②：岡 智大
 第14回 足関節・足部の疾患①：岡 智大
 第15回 足関節・足部の疾患②：岡 智大

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	中間まとめの講義時間の中で中間試験を実施します。 筆記試験は、中間試験と期末試験の両方の成績で判定します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

■ 教科書

書 名：標準整形外科学 第14版（2年前期で購入済）
 著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）
 出版社：医学書院

書 名：病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科（2年前期で購入済）
 著者名：医療情報科学研究所（編）
 出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

書 名：リハで読むべき運動器画像

著者名：塩野寛大（監），瀧田勇二（著）

出版社：メジカルビュー社

書 名：リハビリテーションのための画像の読み方

著者名：本間光信・高橋仁美（編）

出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	整形外科Ⅱ						
担 当 者	寺村晃、渡部雄太、水本美保					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

運動器の解剖・生理に立ち返り、整形外科疾患の病態を理解することを目的とする。整形外科Ⅱでは、発生機序に基づく整形外科疾患や治療方法の理解を深める。

■ 到達目標

作業療法分野における整形疾患の病態を理解できる。
国家試験の知識を超え、症例検討を通じて各整形疾患における作業療法の視点を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 リウマチに対するリハビリテーション：寺村晃
- 第2回 リウマチに対するリハビリテーション：寺村晃
- 第3回 脊髄損傷に対するリハビリテーション：渡部雄太
- 第4回 脊髄損傷に対するリハビリテーション：渡部雄太
- 第5回 変形性膝関節症、変形性膝関節症に対するリハビリテーション：渡部雄太
- 第6回 上腕骨骨折、橈骨遠位端骨折を含む上肢の疾患に対するリハビリテーション：水本美保
- 第7回 上腕骨骨折、橈骨遠位端骨折を含む上肢の疾患に対するリハビリテーション：水本美保
- 第8回 上腕骨骨折、橈骨遠位端骨折を含む上肢の疾患に対するリハビリテーション：水本美保
- 第9回 上腕骨骨折、橈骨遠位端骨折を含む上肢の疾患に対するリハビリテーション：水本美保
- 第10回 ヘルニア、脊柱管狭窄症、大腿骨骨折を含む体幹や下肢の疾患に対するリハビリテーション：水本美保
- 第11回 ヘルニア、脊柱管狭窄症、大腿骨骨折を含む体幹や下肢の疾患に対するリハビリテーション：水本美保
- 第12回 ヘルニア、脊柱管狭窄症、大腿骨骨折を含む体幹や下肢の疾患に対するリハビリテーション：水本美保
- 第13回 末梢神経損傷に対するリハビリテーション：水本美保
- 第14回 末梢神経損傷に対するリハビリテーション：水本美保
- 第15回 末梢神経損傷に対するリハビリテーション：水本美保

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：－1点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：－5点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

整形外科Ⅰの前期科目に関する理解を深めることが、この授業を受講する上で必要です。専門用語が多いため、講義終了後の復習が非常に重要となります。また、作業療法との関係が密接な本科目では、単なる暗記ではなく、理解と応用が重要視されるため、授業前後に約1時間程度の予習・復習を行うことが望ましいです。さらに、授業にはグループワークが含まれるため、積極的に参加し、意見交換を行うことが求められます。

■ 教科書

書 名：病気がみえる 11 運動器・整形外科
著者名：医療情報科学研究所 編集
出版社：株式会社 メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床神経学Ⅰ						
担 当 者	岩田 篤、津村宜秀					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。本講義の目的は、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することです。そして、それらを理解するために、神経機能解剖学を理解したのち、各種、神経症候のメカニズムについて解説していきます。

■ 到達目標

運動や感覚に係る神経機能解剖学を理解し、どの神経系が障害されればどのような臨床像になるのか、そのメカニズムが理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 臨床神経学を学ぶ意義
- 第2回 神経細胞の基本構造と機能
- 第3回 感覚路の障害と臨床症状
- 第4回 大脳皮質の機能局在①（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第5回 大脳皮質の機能局在②
- 第6回 脳動脈の走行と脳血管支配域
- 第7回 外側皮質脊髓路の走行
- 第8回 外側皮質脊髓路以外の下行性経路
- 第9回 中枢神経と末梢神経の概要と臨床症状
- 第10回 大脳基底核系の機能解剖
- 第11回 大脳基底核障害の臨床症状
- 第12回 小脳回路網と臨床症状
- 第13回 脳神経障害と臨床症状
- 第14回 自律神経系障害／意識障害と臨床症状
- 第15回 その他の神経障害と臨床症状

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	講義内容の理解度を確認するために次回の講義で小テストを行います。60 分程度の時間を取り、教科書を確認しながら講義内容の復習を行ってください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められますので、理解が及んでいない点に関しては、積極的にオフィスアワー等を活用してください。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義内容の理解度を確認するために次回の講義で小テストを行います。60分程度の時間を取り、教科書を確認しながら講義内容の復習を行ってください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められますので、理解が及んでいない点に関しては、積極的にオフィスアワー等を活用してください。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版
著者名：医療情報科学研究所 / 編集
出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ・Ⅱ」の科目の理解が重要である。併せて復習しておくこと。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床神経学Ⅰ						
担 当 者	吉田 文（実務経験者）、OT 専攻教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当者は脳・神経系に関する疾患の対象者に対する作業療法実践の経験をもとに授業を進める。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法士は脳に関する障害を呈している対象者に多く接する。そのため、知識を持っておくことは大変重要である。この授業では、脳や神経の仕組みや働きを理解し、神経症候のメカニズムと症状について講義やグループワークで進めていく。

■ 到達目標

- 1 脳・神経系の仕組みを理解し、説明できる。
- 2 脳・神経の働きを理解し、説明できる。
- 3 脳・神経が障害されることによって起こる症状を理解し、説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 大脳の機能局在と高次脳機能障害（担当：吉田）
 第2回 脳画像の見方、脳血管（担当：OT 専攻教員）
 第3回 錐体路と運動障害（担当：OT 専攻教員）
 第4回 上位運動ニューロンと下位運動ニューロン（担当：OT 専攻教員）
 第5回 感覚器系と症状（担当：OT 専攻教員）
 第6回 錐体外路と症状（担当：OT 専攻教員）
 第7回 大脳基底核・小脳と症状（担当：OT 専攻教員）
 第8回 脳幹と症状（担当：OT 専攻教員）
 第9回 脳神経と症状①（担当：OT 専攻教員）
 第10回 脳神経と症状②（担当：OT 専攻教員）
 第11回 脊髄・脊髄神経と症状（担当：OT 専攻教員）
 第12回 自律神経系と症状（担当：OT 専攻教員）
 第13回 大脳辺縁系と症状（担当：OT 専攻教員）
 第14回 間脳と症状（担当：OT 専攻教員）
 第15回 総復習（担当：吉田）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	10	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1年次の解剖学・生理学の学習内容が基本となるため、「神経系の構造と機能」については教科書を読み返しておくこと。前回の講義内容をもとに翌週に、小テストを実施するので復習しておくこと。小テストは実施した翌週に返却する。また、該当するページについて一読することを予習・復習とするため、毎週1時間以上の自宅学習時間が必要となる。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版
著者名：医療情報科学研究所／編集
出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版
著者名：田崎義昭，斎藤佳雄他
出版社：南山堂

■ 留意事項

- ①準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず登録・確認すること。
 - ②授業中に実際の患者様の動画を視聴することがあるため、個人情報保護の観点から得られた情報の取り扱いについて十分注意すること。
 - ③臨床神経学Ⅱにつながり、脳・神経系の疾患を理解する基本となる。
- 不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床神経学Ⅱ						
担当者	岩田 篤						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

神経系の解剖学や臨床神経学Ⅰなどで学修してきた基礎知識をもとに、各種、神経疾患の特徴について理解を深めていくことが本講義の目的です。特に、神経疾患によって予後が大きく異なることから、神経理学療法を検討していく上で、各種、神経疾患の特徴を理解しておくことが必須です。そこで、本講義では、臨床神経学Ⅰの講義内容を踏まえた上で、各種、神経内科疾患の臨床症候およびその他の特徴について解説していきます。

■ 到達目標

神経内科疾患の概要を理解し、特徴的な臨床症状がなぜ生じるのかを、神経機能解剖学的に説明できるようになる。さらに、理学療法と関連し、どのようなメカニズムで障害が改善・維持・悪化するのかも考察できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 臨床神経学Ⅱの位置づけ
- 第2回 中枢神経疾患の検査法 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第3回 脳梗塞(総論) 病理の捉え方
- 第4回 脳梗塞(各論) 神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第5回 脳内出血(総論) 病理の捉え方
- 第6回 脳内出血(各論) 神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第7回 くも膜下出血の病理と神経症候の捉え方
- 第8回 パーキンソン病およびその他の錐体外路疾患の病理と神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第9回 脊髄小脳変性症の病理と神経症候の捉え方
- 第10回 多発性硬化症の病理と神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第11回 末梢神経障害の検査法
- 第12回 ギランバレー症候群の病理と神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第13回 重症筋無力症の病理と神経症候の捉え方
- 第14回 筋萎縮性側索硬化症の病理と神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第15回 筋疾患およびその他ニューロパチーの病理と神経症候の捉え方

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義内容の理解度を確認するために次回の講義で小テストを行います。60分程度の時間を取り、教科書を確認しながら講義内容の復習を行ってください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められますので、理解が及んでいない点に関しては、積極的にオフィスアワー等を活用してください。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版
著者名：医療情報科学研究所 / 編集
出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ」の科目の理解が重要である。併せて復習しておくこと。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床神経学Ⅱ						
担 当 者	岡山友哉・OT 専攻教員						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

本科目はリハビリテーション専門職が支援する対象者において罹患率が多い、脳・神経系の疾患について症状や医学的治療を理解して、作業療法評価やプログラムの立案に役立てることを目的とする。脳・神経系の疾患について講義を中心に、知識の整理を行う。

■ 到達目標

- 1 作業療法の対象となる脳・神経系の疾患のメカニズムを説明できる。
- 2 作業療法の対象となる脳・神経系の疾患の臨床症状を説明できる。
- 3 作業療法の対象となる脳・神経系の疾患の医学的治療を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床神経学Ⅰの復習 [担当：岡山]
 第2回 脳血管障害の概要 [担当：岡山]
 第3回 脳血管障害の具体的な臨床症状 [担当：岡山]
 第4回 頭部外傷の概要と具体的な臨床症状 [担当：岡山]
 第5回 脳腫瘍の概要と具体的な臨床症状 [担当：岡山]
 第6回 パーキンソン病・脊髄小脳変性症の概要と具体的な臨床症状 [担当：山本]
 第7回 多発性硬化症・ギランバレー症候群の概要と具体的な臨床症状 [担当：山本]
 第8回 筋萎縮性側索硬化症の概要と具体的な臨床症状 [担当：山本]
 第9回 重症筋無力症・周期性四肢麻痺・多発性筋炎の概要と具体的な臨床症状 [担当：岡山]
 第10回 筋ジストロフィーの概要と具体的な臨床症状 [担当：岡山]
 第11回 ニューロパチーの概要と具体的な臨床症状 [担当：寺村]
 第12回 てんかんの概要と具体的な臨床症状 [担当：寺村]
 第13回 認知症の概要と具体的な臨床症状 [担当：井口]
 第14回 その他の神経内科疾患（二分脊椎・脳炎・髄膜炎）の概要と具体的な臨床症状 [担当：岡山]
 第15回 総復習 [担当：岡山]

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	小テスト：全6回程度、小テストを行う。原則、翌週の授業内で返却、フィードバックを実施する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床神経学Ⅰの学習内容が基本となるため、特に「神経系の構造と機能」については教科書を読み返しておくこと。前回の講義内容をもとに翌週に、小テストを実施するので復習しておくこと。小テストは実施した翌週に返却する。また、該当するページについて一読することを予習・復習とするため、毎週1時間以上の自宅学習時間が必要となる。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版

著者名：医療情報科学研究所／編集

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版

著者名：田崎義昭，斎藤佳雄他

出版社：南山堂

■ 留意事項

①準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず登録・確認すること。

②授業中に実際の患者様の動画を視聴するため、個人情報保護の観点から得られた情報の取り扱いについて十分注意すること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	精神医学						
担当者	高井田 輪香子（実務経験者）						
実務経験者の概要	精神保健福祉士として精神科・心療内科クリニックで30年勤務し、現在も診療補助や相談業務を担っており、これらの実務経験をもとに授業を進めていく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

さまざまな精神疾患について、症状・治療・経過・支援方法などについて学びます

■ 到達目標

精神医学に関心をもち、今後の臨床に生かせる基本的な知識を身につける

■ 授業計画

第1回	精神医学総論	精神医学の歴史と現状
第2回	精神医学総論	精神機能とその異常①
第3回	精神医学総論	精神機能とその異常②・ライフステージと精神障害
第4回	精神医学各論	統合失調症
第5回	精神医学各論	気分障害 / 小テスト①
第6回	精神医学各論	神経症性障害①
第7回	精神医学各論	神経症性障害②・摂食障害・心身症
第8回	精神医学各論	パーソナリティ障害
第9回	精神医学各論	物質関連障害・嗜癖性障害
第10回	精神医学各論	認知症・てんかん / 小テスト②
第11回	精神医学各論	児童・青年期の精神障害
第12回	精神医学各論	知的障害・睡眠障害・症状性精神障害
第13回	精神科治療法	精神科的面接・心理テスト・薬物療法・身体療法
第14回	精神科治療法	精神療法
第15回	司法精神医学・地域精神医療・リハビリテーション	/ 小テスト③

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	小テスト3回（①～③）出題範囲は①第1回～第5回②第6～第10回③第11回～第15回			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

精神疾患ごとに事例を紹介しますので、授業用資料で症状や経過を復習し、疾患への理解を深めてください。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書 名：改訂 第2版 専門医がやさしく語る はじめての精神医学
著者名：渡辺 雅幸
出版社：中山書店

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床運動学						
担当者	文本 聖現						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

運動学総論、運動学各論、運動学基礎演習で習得した知識を踏まえ、疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化や活動の変化について学ぶ。実際の運動を教材等で観察し、模倣しながら、障害のある対象者の運動特性を学ぶ。

■ 到達目標

1. 疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化、運動・活動を理解できる。
2. 障がい者の姿勢や動作を観察し、その特徴や要因を検討することができる。
3. 機能障害と能力障害の関連を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス、関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ（総論）
- 第2回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ（股関節①）：遠隔授業 オンデマンド
- 第3回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ（股関節②）
- 第4回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ（膝関節①）：遠隔授業 オンデマンド
- 第5回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ（膝関節②、足関節①）
- 第6回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ（足関節②）：遠隔授業 オンデマンド
- 第7回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ（総論、肩、脊髄損傷①）：遠隔授業 オンデマンド
- 第8回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ（肩関節周囲）
- 第9回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ（末梢神経障害 上肢①）：遠隔授業 オンデマンド
- 第10回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ（脊髄損傷②）
- 第11回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ（末梢神経障害 下肢①）：遠隔授業 オンデマンド
- 第12回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ（末梢神経障害 下肢②）
- 第13回 疾患（中枢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ①：遠隔授業 オンデマンド
- 第14回 疾患（中枢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ②
- 第15回 本講義で学んだことについて復習、再確認を行う

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第2～6回においては、各関節の構造、機能をあらかじめ学習しておくこと。

第7～12回においては、各関節に作用する筋について、起始、停止、作用、支配神経をあらかじめ学習しておくこと。

第13・14回においては、特に中枢神経系の障害について、その特徴を学習しておくこと。

対面授業日に小テストを実施し、理解状況を確認する。毎回の授業で学習したことを復習し、小テストに臨んでください。

実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。

※オフィスアワーを活用してください。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床

著者名：小柳 磨毅 ほか

出版社：金原出版

■ 参考図書

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床運動学						
担 当 者	渡部雄太・山岡信					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	自由		

■ 授業目的・内容

正常の運動学の理論を踏まえて、臨床における病態臨床学を演習などを体験しながら理解を深める。

■ 到達目標

正常の運動学の理論の臨床を深める。
臨床における病態臨床学の理解を深める。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、生体力学：渡部雄太（実務経験者）
- 第2回 骨盤体、股関節：渡部雄太（実務経験者）
- 第3回 膝、下腿：渡部雄太（実務経験者）
- 第4回 足、足関節：渡部雄太（実務経験者）
- 第5回 脊柱：渡部雄太（実務経験者）
- 第6回 正常歩行分析：渡部雄太（実務経験者）
- 第7回 片麻痺患者の歩行分析：渡部雄太（実務経験者）
- 第8回 レポート演習（片麻痺患者の歩行評価と治療）：渡部雄太（実務経験者）
- 第9回 肩甲帯：山岡 信（実務経験者）
- 第10回 肩関節：山岡 信（実務経験者）
- 第11回 肘、前腕：山岡 信（実務経験者）
- 第12回 手関節：山岡 信（実務経験者）
- 第13回 手指：山岡 信（実務経験者）
- 第14回 寝返り：山岡 信（実務経験者）
- 第15回 レポート演習（立ち座り動作分析）：山岡信（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	
レポート	◎	30	%	
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は -10 点、事前連絡のある遅刻・欠席は -3 点とする）。 また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回につき－5 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関して発表をしたり、レポートを提出する。また、講義前に予習として配布資料を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教科書

--

■ 参考図書

■ 留意事項

講義は、実技が中心となります。白衣でなくても構いませんが、できる限り動きやすい服装で参加してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床薬理学						
担当者	名徳 倫明						
実務経験者の概要	医療施設にて薬剤師として実務経験を有しており、この経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

薬物の基本的事項（作用機序、投与方法、体内動態）を学ぶ。また、薬物療法や副作用等について学ぶ。

■ 到達目標

薬物が体内に入り、どのように作用を示すかを理解する。また、薬を使用する場合の注意点を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 薬理学の基礎知識（1）
- 第2回 薬理学の基礎知識（2）
- 第3回 末梢神経系作用薬
- 第4回 中枢神経系作用薬
- 第5回 循環器系疾患治療薬
- 第6回 呼吸器・代謝系疾患治療薬
- 第7回 消化器系疾患治療薬
- 第8回 抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬、その他の治療薬

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語や薬品名が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
患者と接する上で重要な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。
次回の授業までにプリントを30分程度予習しておき、授業で講義を受けた内容を30分程度繰り返し、復習しておいてください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

--

■ 参考図書

指定なし

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床検査医学（画像診断・評価を含む）						
担 当 者	藤岡 重和（実務経験者）・津田 泰宏（実務経験者）・和田 晋一（実務経験者） 久田 洋一（実務経験者）・掛川 泰朗・石田志門（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	科目担当者である藤岡、津田、久田、石田は、医師として医療機関で診療業務に従事している。 和田は、医療機関での勤務経験を有している。 各担当者がそれぞれの領域の臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

目的：リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要となる。生理機能検査学講義では、診療に頻用される呼吸機能検査、血液ガス検査検査、脳波、超音波検査等について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を理解し、放射線医学講義では、放射線医学の基礎、検査法、画像診断を習得することを目的とする。

内容： 生理機能検査学では、呼吸機能検査、血液ガス検査検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。放射線医学講義では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRI の検査方法と画像診断を習得する。特に、リハビリテーション専門職には頭部画像診断が重要であり、頭部 CT、MRI 読影演習等により実地臨床に則した授業内容を展開する。

■ 到達目標

1. 呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。
2. X 線、CT、MRI の検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。

■ 授業計画

- | | | |
|-----|--------------------|------------------------------|
| 第1回 | 生理機能検査学総論、 各論（1） | 呼吸機能検査、血液ガス検査
和田 晋一・藤岡 重和 |
| 第2回 | 生理機能検査学各論（2） | 脳波検査、筋電図検査
和田 晋一 |
| 第3回 | 放射線医学総論、 画像診断各論（1） | 胸部 X 線、CT 検査
久田 洋一 |
| 第4回 | 画像診断各論（2） | 腹部 X 線、CT、超音波検査
津田 泰宏 |
| 第5回 | 画像診断各論（3） | 頭部 X 線、CT 検査 の基礎
掛川 泰朗 |
| 第6回 | 画像診断各論（4） | 頭部 MRI 検査 の基礎
掛川 泰朗 |
| 第7回 | 画像診断各論（5） | 頭部 CT、MRI 読影演習
石田志門 |
| 第8回 | 画像診断各論（6） | 頭部 CT、MRI 読影演習
石田志門 |

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎		100%
レポート			
小テスト			
その他・備考			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習（30分程度）を必ずしておいてください。

また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習（60分程度）をしてください。理解できない授業内容がある場合は、担当教員に質問、相談するようにしてください。

臨床検査医学を学習するにあたって、解剖学、生理学をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル

著者名：百島祐貴

出版社：医学教育出版社

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	小児科学						
担 当 者	早島禎幸、藪中良彦（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	早島禎幸（小児科医として 19 年の実務経験） 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で 20 年、小児訪問リハビリテーションで 10 年の実務経験）それぞれの実務経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

授業目的：子どもの疾患に合わせて適切な理学療法及び作業療法を提供するために必要な子どもの病気の原因や病態を知ることが、この科目の目標である。

内容：理学療法士・作業療法士として必要な子どもの病気の知識を学習する。

■ 到達目標

- ・乳幼児健診・予防接種について理解する。
- ・新生児・未熟児疾患について理解する。
- ・発達障害について理解する。
- ・先天性異常と遺伝子病について理解する。
- ・神経疾患（特にてんかん）／内分泌・代謝疾患について理解する。
- ・脊髄性疾患／末梢神経疾患／筋疾患／骨・関節疾患について理解する。
- ・感染症／免疫・アレルギー疾患、膠原病について理解する。
- ・循環器疾患について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 I 乳幼児健診・予防接種について（早島禎幸）
 第2回 II 新生児・未熟児疾患について（藪中良彦）
 第3回 III 発達障害について（早島禎幸）
 第4回 IV 先天性異常と遺伝子病について（藪中良彦）
 第5回 V 神経疾患（特にてんかん）／内分泌・代謝疾患について（早島禎幸）
 第6回 VI 脊髄性疾患／末梢神経疾患／筋疾患／骨・関節疾患について（藪中良彦）
 第7回 VII 感染症／免疫・アレルギー疾患、膠原病について（早島禎幸）
 第8回 VIII 循環器疾患について（藪中良彦）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	予習課題＋ Moodle 及びその他の課題＋口頭試問（20 点）、筆記試験（80 点） 授業態度、出席状況（欠席－ 4 点、遅刻／早退－ 2 点、居眠り－ 1 点）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

早島担当講義では、毎回の講義の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う（30分）。また、毎回の講義後に早期に復習（特に科目開始早期に提示するテスト範囲）を行い（30分）、知識の定着を図る。
 藪中担当講義では、次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う（30分）。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。また、毎回講義後に Moodle 課題および課題提示を行い、授業の復習を促す（30分）。Moodle 課題のフィードバックを藪中担当の次の講義で行う。

■ 教 科 書

書 名：病気がみえる vol.15 小児科 第1班
著者名：医療情報科学研究所 編集
出版社：メディックメディア

■ 参 考 図 書

書 名：最新育児小児病学 改訂第6版
著者名：黒田泰弘
出版社：南江堂

■ 留 意 事 項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題等を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	老年医学						
担 当 者	大中 玄彦・藤岡 重和（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	科目担当である大中、藤岡は医療機関において、医師として老年期疾患の診療業務に従事しており、この知見と経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

目的：著しい高齢化の進展に伴い高齢者の医療・介護に対するニーズが年々高まっており、療法士が老年医学、高齢者医療・介護に精通することが求められている。老年医学では、老化のメカニズム、加齢に伴う生理機能の変化を理解し、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その病態、臨床像、評価、治療を理解することを目的とする。

内容： 老化のメカニズム、加齢に伴う生理機能の変化を詳解し、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その病態、臨床像、検査、診断、評価、治療、予後を学習する。また、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者へのアプローチについても幅広く解説する。

■ 到達目標

1. 加齢に伴う生理機能の変化、老年症候群、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を説明できる。
2. 加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害（循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎疾患、各種機能障害等）について、その疫学、症候、評価、検査（画像検査、生理機能検査を含む）、診断、評価、治療、予後を説明できる。

■ 授業計画

- | | | |
|-----|--|--------------------|
| 第1回 | 老年医学総論（1）老化と老年病の考え方、加齢に伴う生理機能変化 | 大中玄彦 / 藤岡重和（実務経験者） |
| 第2回 | 老年医学総論（2）高齢者に多い症候とそのアセスメントについて、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第3回 | 老年医学各論（1）精神機能の老化と精神疾患（うつ状態、せん妄、認知症、その他） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第4回 | 老年医学各論（2）心、血管機能の老化と循環器疾患（心不全、末梢循環障害等） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第5回 | 老年医学各論（3）呼吸機能の老化と呼吸器疾患（誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患等） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第6回 | 老年医学各論（4）消化機能の老化と消化器疾患（摂食、嚥下障害、消化器癌等） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第7回 | 老年医学各論（5）腎機能、内分泌、代謝機能の老化と疾患（腎不全、糖尿病等） | 大中玄彦（実務経験者） |
| 第8回 | 老年医学各論（6）加齢による免疫機能の変化、高齢者の感染症、骨、運動機能の老化と疾患、感覚機能の老化と疾患 | 大中玄彦（実務経験者） |

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎		100%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習（30分程度）を必ずしておいてください。

また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習（60分程度）をしてください。国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。理解できない授業内容がある場合は、担当教員に質問、相談するようにしてください。老年医学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版

著者名：大内尉義

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：新老年学 第3版

著者名：大内 尉義、秋山 弘子、折茂 肇

出版社：東京大学出版社

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	高次脳機能障害Ⅰ						
担当者	津村 宜秀（実務経験者）						
実務経験者の概要	総合病院や慢性期病院、デイサービス、訪問リハビリテーションなどでの脳血管障害患者の臨床経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法士は基本的動作能力を改善させるために身体機能に着目するケースが多いです。しかし、脳血管障害を有する患者は身体機能障害だけではなく高次脳機能障害を呈することが多く、理学療法が難渋する原因となります。高次脳機能障害に適切に対応するためには、単に暗記するのではなく、脳機能や脳内ネットワークの知識を駆使した理解が重要となります。本講義では、様々な高次脳機能障害について、脳機能解剖学的な知識や脳内ネットワークの知識を応用して理解することを目的とします。

■ 到達目標

- ・各種の高次脳機能障害の症状について理解する。
- ・各種の高次脳機能障害の病巣について、機能解剖学的な観点から理解する。
- ・各種の高次脳機能障害の検査方法について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 高次脳機能障害総論・高次脳機能障害を理解するための脳機能解剖学
- 第2回 注意と注意障害／遂行機能障害
- 第3回 空間性障害～半側空間無視～
- 第4回 身体性障害～身体失認／病態失認～
- 第5回 感覚モダリティと失認
- 第6回 行為・動作・行動の障害～失行～
- 第7回 記憶障害・認知症
- 第8回 失語症と構音障害

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	高次脳機能障害は暗記するよりも、脳機能解剖学という基礎知識を応用しながら理解することを心掛けて下さい。そのため、普段の勉強を促進する意味で小テスト点を40%にしています。普段から意識的に取り組んで下さい。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

その日の講義では理解が不十分と思われる内容については積極的に質問するなどして早めに解消して下さい。また、参考図書には講義の中で使用した動画が載っていますので、自習の際に有効活用して下さい。脳・神経の解剖学を忘れてしまった方は早めに復習するようにして下さい。

■ 教科書

書 名：高次脳機能障害 第3版
著者名：石合 純夫
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：連合野ハンドブック 完全版

著者名：河村 満

出版社：医学書院

書 名：脳機能入門 - 機能局在から症状・リハビリまで / 実際の症状が分かる動画60本付き

著者名：中田 光俊

出版社：メディカ出版

書 名：カンデル神経科学 第2版

著者名：Eric R. Kandel ら（原著）、宮下 保司（監修）、岡野 栄之ら（監訳）

出版社：メディカルサイエンスインターナショナル

■ 留意事項

高次脳機能障害Ⅰでは症状と病巣について主に扱います。臨床的な評価や治療時の工夫などは高次脳機能障害Ⅱで主に扱いますので、是非選択してみてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	高次脳機能障害学Ⅰ						
担当者	掛川 泰朗（実務経験者）						
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

高次脳機能障害を作業療法士がアプローチする上で疾患の概要は非常に重要である。大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を講義やグループワーク、レポートなどにより理解する。

■ 到達目標

1. 大脳機能を理解することができる。
2. 各々の高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができる。
3. 各々の高次脳機能障害について、検査方法や特徴的な治療方法が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要
- 第2回 注意障害の概要と評価とアプローチ
- 第3回 半側空間無視の概要と評価アプローチ
- 第4回 その他の失認の概要と評価アプローチ
- 第5回 記憶障害の概要と評価アプローチ
- 第6回 失行の概要と評価アプローチ
- 第7回 失語の概要と評価アプローチ
- 第8回 前頭葉障害・遂行機能障害の概要と評価アプローチ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：－1点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：－5点）とする。 【小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。】			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
30分程度の復習時間を確保することが望ましいです。
単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 作業療法テキスト 高次脳機能障害・実習
著者名：総編集 石川 朗 種村 瑠美
出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害学
著者名：石合純夫
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	高次脳機能障害学Ⅱ						
担 当 者	文本 聖現 (実務経験者)・牧之瀬 一博 (実務経験者)・津村 宜秀 (実務経験者) 大西 環 (実務経験者)・井上 直哉 (実務経験者)						(オムニバス)
実務経験者の概要	文本 聖現・牧之瀬 一博・津村 宜秀：理学療法士として、医療施設での実務経験がある。 大西 環・井上 直哉：言語聴覚士として、医療施設での実務経験がある。 各担当者が、それぞれの領域の経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	自由	形式	

■ 授業目的・内容

脳卒中対象者の理学療法を行う上で、高次脳機能障害の評価方法やアプローチ方法を知ることによって理学療法の方法が変化できる。この授業では、高次脳機能障害学Ⅰを基に理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶ。

■ 到達目標

1. 各高次脳機能障害の検査方法を理解できる。
2. 各高次脳機能障害の検査を抽出できる。
3. 各高機能機能障害の特徴を理解できる。
4. 高次脳機能障害について、理学療法中の注意事項が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・認知機能検査の実際と解釈（文本 聖現）
 第2回 注意機能の評価の実際と解釈・注意障害における理学療法中の注意事項（文本 聖現）
 第3回 半側空間無視の評価の解釈・半側空間無視における理学療法中の注意事項（文本 聖現）
 第4回 記憶の評価の解釈・記憶障害における理学療法中の注意事項（牧之瀬 一博）
 第5回 高次脳機能障害患者（注意障害など）における理学療法訓練場面での実際の関り（井上 直哉）
 第6回 失語の評価の実際、失語症の評価の解釈・失語症における理学療法中の注意事項（大西 環）
 第7回 遂行機能障害の評価の解釈・遂行機能障害における理学療法中の注意事項（津村 宜秀）
 第8回 高次脳機能障害と脳画像所見（津村 宜秀）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	授業ごとにレポート（リアクションペーパーや課題提示など）を課します。 そのレポートを基に成績を判定します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

--

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

8 回開講の授業です。各自、出席管理に努めてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	高次脳機能障害学Ⅱ						
担 当 者	岡山友哉（実務経験者）・OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	各担当者は総合病院で、高次脳機能障害のある対象者に対する作業療法実践の経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

本科目は高次脳機能障害のある対象者の作業療法評価とプログラムについて、作業療法士の指導のもとで立案して実施できることを目的とする。高次脳機能障害学Ⅰにおいて学習した様々な高次脳機能障害の検査方法を講義やグループワークで学ぶ。最後に事例を通じて作業療法評価とプログラム実施までを経験する。

■ 到達目標

- 1 高次脳機能障害の検査の適応について説明できる。
- 2 高次脳機能障害の検査方法を理解して実施できる。
- 3 対象者に適した高次脳機能障害の検査を選択できる。
- 4 高次脳機能障害の検査結果から分析ができる。
- 5 高次脳機能障害のある対象者への作業療法プログラムを検討できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要・注意の評価（TMT・かな拾いテスト） [担当：岡山]
 第2回 注意の評価（CAT） [担当：大類]
 第3回 半側空間無視の検査（BIT） [担当：吉田]
 第4回 記憶の検査（リバーミード行動記憶検査・三宅式記銘力検査・ベントン視覚記銘検査） [担当：吉田]
 第5回 失行の検査（高次動作性検査）・失認の検査（標準高次視知覚検査） [担当：岡山]
 第6回 構成障害の検査（コース立方体検査）・遂行機能の検査（BADS） [担当：大類]
 第7回 事例検討 [担当：渡部]
 第8回 事例報告会（グループディスカッション） [担当：渡部]

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	
レポート	◎	40	%	
小テスト				
その他・備考	レポートは毎回のリアクションペーパーとなります。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始前に高次脳機能障害Ⅰで学習した各障害の症状について必ず復習をしておくこと。授業中に検査の演習時間を設けるが、不十分であるため、授業外の時間を活用して各自で検査練習を実施することを勧める。

■ 教科書

書 名：高次脳機能作業療法学（標準作業療法学）
 著者名：能登真一
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ③リハビリテーション評価

著者名：鈴木孝治ほか

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

①準備物等の連絡は Moodle を通じて行いますので、各自必ず確認すること。

②履修規定第5条に記されているように実授業の3分の2以上出席しない場合は履修評価ができない。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	栄養学						
担当者	仲村 祐江						
実務経験者の概要	医療施設（病院・クリニックなど）の患者への栄養教育を担当。主に個人・集団への特定保健指導や栄養指導も行っており、これらを活かした授業展開を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

医療、介護に携わる者として必要不可欠である栄養についての基礎を理解する。
炭水化物・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて概説し、さらに各栄養素の消化器官での消化と吸収についても学ぶ。

■ 到達目標

- ①炭水化物、脂質、タンパク質の消化・吸収のメカニズムを理解し、各栄養素の主な働きを説明できる。
- ②炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの生理機能及び欠乏症についても理解できている。

■ 授業計画

- 第1回 栄養についての概念
第2回 炭水化物の栄養について
第3回 炭水化物の消化・吸収・代謝について
第4回 タンパク質の栄養について
第5回 脂質の栄養について
第6回 タンパク質の消化・吸収・代謝について
第7回 脂質の消化・吸収・代謝について
第8回 ビタミン・ミネラルの働きと欠乏症 / ライフステージ別栄養（高齢者のフレイル予防） / 食事摂取基準について

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60%	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	30%	%	
小テスト	◎	10%	%	
その他・備考	授業内で指示した提出物についても評価対象とします。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

基本的な授業の進め方：配布をした資料を使用して授業を行います。配布資料をしっかりと保存して毎回授業に持参してください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：イラスト栄養学総論 第8版
著者名：城田知子・田村明・平戸八千代 著
出版社：東京教学社

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	スタディースキルⅠ						
担 当 者	境隆弘（実務経験者）・相原一貴（実務経験者）・文本聖現（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	境（理学療法士としての臨床経験があり、現在もスポーツ整形分野の病院に携わっている） 相原（理学療法士としての臨床経験があり、現在も維持期の病院に携わっている） 文本（理学療法士としての臨床経験があり、現在も整形外科クリニックに携わっている） 各担当が領域に応じた授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

- ・大学における各科目の学習が円滑に進められように、学習計画や学習方法について実践を通じて学ぶ。
- ・グループワークや実技を行い、基礎となる解剖学・生理学・運動学・評価学の理解を深める。
- ・学内の学びを通じ、臨床現場との関係性や目標とする理学療法士像について意識を高める。

■ 到達目標

- ・学習習慣や学習方法を身に着ける。
- ・基礎となる解剖学・生理学・運動学・評価学の理解を深める。
- ・理学療法士の役割、職域についての興味や関心、知識を深める。

■ 授業計画

- 第1回 個人スピーチ（理学療法士を目指すキッカケや理想像について）
- 第2回 グループワーク①（理想の理学療法士に近づくために行うべきこと）
- 第3回 グループワーク②（理想の理学療法士に近づくために行うべきことに関するグループ発表）
- 第4回 解剖学の復習
- 第5回 生理学の体験
- 第6回 前期の振り返り
- 第7回 自己学習のポイント
- 第8回 神経系の解剖学①
- 第9回 神経系の解剖学②
- 第10回 基礎科目の振り返りと国家試験に向けて
- 第11回 グループワーク③（リハビリに必要な情報とは：グループワーク）
- 第12回 理学療法評価について ／ 年末および年度末に向けての学習計画
- 第13回 臨床思考の入り口①（患者さんの生活を考える：個人ワーク）
- 第14回 臨床思考の入り口②（患者さんの生活を考える：グループワーク）
- 第15回 臨床思考の入り口③（全体発表）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	講義内での提出物（レポート等）70％、小テスト（講義内テスト）で30％とする。 正当な理由や事前連絡がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-8点、遅刻：－2点）また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：－2点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・授業内で取り扱う内容は、事前に他の科目で学習している内容である。そのため授業内で取り扱った内容は、必ず教科書で読み返し復習することを推奨する。
- ・学習習慣をつけるため、提示された課題以外に、予習・復習を兼ねて自主的な調べ学習を30分～1時間程度行うことを推奨する。また、予習・復習などの学習習慣を身に着けるために、通学時間や自宅でOHSUドリルを活用し、将来医療人として現場に必要な、文章能力や漢字能力の獲得のために努力すること。
- ・グループワークを円滑に行うために、参考図書を用いてテーマに関する予習を行ってから、講義に参加することを推奨する。

■ 教科書

■ 参考図書

- 書 名：基礎運動学
著者名：中村隆一、斎藤宏
出版社：医歯薬出版
-
- 書 名：PT・OT・STのための解剖学
著者名：渡辺正仁 監修
出版社：廣川書店
-
- 書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学
著者名：岡田隆夫、長岡正範
出版社：医学書院
-
- 書 名：ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学
著者名：臼田 滋 編
出版社：医歯薬出版
-
- 書 名：カラー図解 神経系解剖学講義ノート
著者名：寺島 俊雄
出版社：株式会社 金芳堂

■ 留意事項

- 授業の実施方法については、変更されることもありうる。また、準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣を身に付けること。欠席・遅刻の際は、必ず担当教員へ、講義開始前までに連絡すること。
- 不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	スタディースキルⅡ						
担 当 者	2年チューター（すべて実務経験者）					(オムニバス)	
実務経験者の概要	理学療法士として、病院やクリニック等の臨床経験を活かした授業展開を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

授業目的：理学療法士が介入することが多い上下肢の疾患の原因・症状・治療についてまとめ、その疾患への介入時に触診することが必要な筋肉を的確に同定し触診できるようになることが、この科目の目的である。

内容：約6名のグループ毎に、担当する疾患についてまとめ、触診することが必要な筋肉の触診方法を、クラス全体に対してプレゼンテーションする。その発表を基に他のグループは、触診の練習を行う。

■ 到達目標

- ・理学療法士が介入することが多い上下肢の疾患の原因・症状・治療についてまとめることができる。
- ・疾患との関係を理解した上で、それぞれの筋の触診を行うことができる。

■ 授業計画

- 第1回 股関節屈筋拘縮、鷲足炎
- 第2回 Osgood-Schlatter 病
- 第3回 変形性股関節症、大殿筋麻痺、大殿筋歩行
- 第4回 内転筋肉離れ、膝関節拘縮
- 第5回 第1回テスト
- 第6回 ハムストリングス肉離れ、大腿二頭筋断裂・肉離れ
- 第7回 腓骨神経麻痺、アキレス腱周囲炎
- 第8回 三角筋拘縮症、随意性肩関節脱臼
- 第9回 肩腱板損傷、投球障害
- 第10回 第2回テスト
- 第11回 副神経麻痺、胸郭出口症候群
- 第12回 長胸神経麻痺、上腕二頭筋長頭腱炎
- 第13回 肘関節屈曲拘縮、後方の疼痛を訴える投球障害
- 第14回 円回内筋症候群（正中神経高位麻痺）、テニス肘（上腕骨外側上顆炎）
- 第15回 第3回テスト

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	100	%	
その他・備考	3回のテスト（疾患と触診の関係についての口頭試問及び実技チェックテスト〔実技練習参加態度評価を含む〕）100%。 出席：正当な理由のない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：疾患（原因、症状、治療、対象筋肉との関係）と触診筋肉（神経支配、起始、停止、作用、触診部位と方法）についてまとめる（60分）。

復習：4回の演習後に実施されるテストに向けて、毎回の演習後に復習（30分）を行うように促す。

フィードバック：疾患や触診に関する質問を演習中および演習と演習の間にオフィスアワーなどを利用して担当教員に尋ねるように促す。

■ 教科書

書 名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 動画プラス

著者名：青木隆明（監修）、林典雄（執筆）

出版社：メジカルビュー社

書 名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 動画プラス

著者名：青木隆明（監修）、林典雄（執筆）

出版社：メジカルビュー社

書 名：ネッター解剖学アトラス〔電子書籍付〕原書第7版

著者名：訳 相磯禎和、今西宣晶

出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

触診筋肉と疾患の関係を理解できるように、しっかりと予習すると共に演習中に担当教員に質問してください。

実技の練習では、実習場面で実施できることを目標にして、対象者の方への実施をできる限り想定しながら練習に取り組んでください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法概論（制度・教育・倫理）						
担 当 者	藪中良彦、安延 由紀子（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで10年の実務経験） 安延由紀子（理学療法士として、急性期および回復期リハ病院で5年、老健施設で3年の実務経験、大学病院で臨床研究の検査・研究に10年間従事） 各担当者は、それぞれの知見と経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

授業目的：理学療法の大枠を理解することにより、今後4年間で学ばなければならない内容の概略を把握することが、この科目の目的である。

内容：理学療法士になる事を目標に入学してきてはいるが、理学療法のわずかな部分の知識しかない学生に対して、今後4年間学ぶ理学療法の大枠を示す。

■ 到達目標

- ・当大学の理学療法学専攻のカリキュラム内容を理解する。
- ・理学療法の歴史、理学療法の定義、理学療法を構成する各種技術の概要、理学療法とリハビリテーションについて理解する。
- ・理学療法の流れ（理学療法過程）、クリニカルパス、理学療法における診療ガイドラインの適用、理学療法士の使命と倫理、理学療法士に関する法律、理学療法士に求められる資質、接遇・コミュニケーションについて理解する。
- ・理学療法の職場、職能、教育、研究、報酬について理解する。
- ・医療事故や感染予防について理解する。
- ・小児理学療法、中枢神経疾患理学療法、骨関節疾患理学療法の概略を理解する。

■ 授業計画

第1回 当大学の理学療法学専攻のカリキュラムの解説

理学療法の歴史、理学療法の定義、理学療法を構成する各種技術の概要、理学療法とリハビリテーション

第2回 理学療法と障害、医学の領域、理学療法の対象。

第3回 理学療法の流れ（理学療法過程）、クリニカルパス、理学療法における診療ガイドラインの適用

第4回 理学療法士の使命と倫理、理学療法士に関する法律、理学療法士に求められる資質、接遇・コミュニケーション

第5回 理学療法士が働く現場

第6回 理学療法士の職能

第7回 理学療法（士）教育

第8回 中枢神経疾患理学療法概論

第9回 骨関節疾患理学療法概論

第10回 小児理学療法概論

第11回 理学療法研究

第12回 理学療法士と報酬

第13回 医療事故

第14回 感染予防

第15回 理学療法記録とまとめ方、臨床実習において学生に求められるもの、フィールドワークをやってみよう

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	50	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	50	%	
その他・備考	出席（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点） 小テスト＋予習課題＋授業中の口頭試問（50点） 筆記試験（50点）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う（30分）。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。また、第1回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テストまたは課題提示を行い、授業の復習（30分）を促す。小テストのフィードバックを次の週に実施する。

■ 教科書

書名：理学療法概論テキスト 改訂第4版
著者名：監修 細田多穂、編集 中島喜代彦、森田正治、久保田章仁
出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床ゼミナールⅠ						
担 当 者	PT 専任教員					(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当者（PT 専任教員）は、病院や福祉・介護施設、スポーツ現場など多岐に亘る現場での実務経験があると共に、各現場での実務指導にも従事した経験があり、それらの知見・経験を基に学生指導にあたる事が可能である。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

大学生活をスタートし理学療法を学び始めたこの時期に、理想とする理学療法士像や求められる知識・技能・態度について理解を深めます。小グループ活動を基本とし、理学療法士に求められる知識・技術にふれ、学生同士さらには教員とともにディスカッションを行います。また、臨床で見学した経験をもとに、ディスカッション等を通して、理学療法の理解を促します。

■ 到達目標

1. 実施方法や内容を理解し、ゼミに参加できる
2. 理学療法士の仕事について調べることができる
3. ゼミを協調的にすすめる事ができる
4. ゼミ内で自ら考え、調べ、準備し、伝える事ができる
5. ゼミで与えられた課題は期日までに実施し提出する事ができる
6. 教員に質問、相談することができる
7. 自分の行動を自分で振り返り、行動を修正する事ができる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 目指す理学療法士になるために①
- 第3回 目指す理学療法士になるために②
- 第4回 目指す理学療法士になるために③
- 第5回 理学療法士について①
- 第6回 理学療法士について②
- 第7回 理学療法士について③
- 第8回 理学療法士について④
- 第9回 臨床実習とは－理学療法プロセスの理解－
- 第10回 ホウレンソウの重要性－KYTの視点から考える－
- 第11回 前期の振り返り①
- 第12回 前期の振り返り②
- 第13回 運動器系の解剖学・運動学の重要性－整形外科疾患の症例検討－
- 第14回 神経系の解剖学・生理学の重要性－中枢神経疾患の症例検討－
- 第15回 総括－入学当初の「私」との比較－

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	自己学習課題とディスカッションノート（50%） グループワークの内容、態度（50%） ゼミに臨む態度を重視するため、正当な理由のない欠席 - 8 点、遅刻・早退 - 2 点（累積 3 回で欠席同様 -8 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

小グループをつくり、グループ単位で実施します。グループ内で連絡が取れる体制を整え、連絡事項が行き届くようにしておくこと。また、グループワークがスムーズに実施できるよう、準備物、考えて来る事等を忘れないこと。質問や相談があれば担当教員に連絡を取ること。事前課題を課された際は、指示に沿って課題に取り組むこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

1回1回が大切なゼミとなるので、遅刻欠席が無いように取り組むこと。
授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

※出席管理システムには反映されない科目のため、出席管理に努めること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床ゼミナールⅡ						
担 当 者	藪中良彦（実務経験者）・岡 智大（実務経験者）・小川真人（実務経験者）、PT 専任教員（すべて実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	理学療法士として、医療・福祉施設等で実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法士の職域について理解を深め、理学療法に対する興味や関心を高める。
 学内での学習が臨床現場においてどのように活用されるのか、また、どのような知識が求められるのか、臨床現場での事例を基に理解を深め、学内での学習意欲の向上に繋げる。
 理学療法士の活躍する領域や可能性について学習することにより、将来の進路選択に繋げる。

■ 到達目標

1. 理学療法士の職域を理解する。
2. 理学療法士に求められる知識と技術を理解する。
3. 臨床現場での事例を基に将来の進路選択に繋げる。

■ 授業計画

- 第1回 症例紹介 ～医学的情報の重要性～
 第2回 小児理学療法 ～子どものリハビリの臨床場面の紹介～
 第3回 理学療法における基礎研究 ～基礎研究と臨床のつながりについて～
 第4回 脳卒中の理学療法 ～予後を見据えた理学療法の重要性～
 第5回 運動器・スポーツ疾患の理学療法 ～バイオメカニクスに基づくアプローチについて～
 第6回 臨床現場における理学療法教育～対象者、実習生への教育・指導について～
 第7回 理学療法と立位姿勢制御
 第8回 理学療法介入の実際〔実技含む〕～急性期から在宅まで～
 第9回 理学療法士と ADL ～住宅改修や福祉機器について～
 第10回 脳機能が解明されるまで～錯覚、無視、盲点の体験
 第11回 急性期病院での臨床理学療法
 第12回 障害者スポーツと理学療法
 第13回 内部障害理学療法
 第14回 人工関節後の理学療法～早期退院、早期社会復帰に向けたアプローチ～
 第15回 まとめ（グループ・ディスカッション）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	各講義後にリアクションペーパーを作成し、提出する。その内容を評価する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各領域に関して事前に調べてから講義に臨むこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	総合理学療法学Ⅰ						
担 当 者	3年チューター（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	理学療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

3年次までに学修してきた内容の定着を図り、臨床で使える知識としていくことを目的に、総合的に知識の復習を行う。

■ 到達目標

評価実習に必要な臨床医学の知識および理学療法専門分野の知識を修得する。

■ 授業計画

- 第1回 呼吸領域の臨床医学に関する学習1
- 第2回 呼吸領域の臨床医学に関する学習2
- 第3回 呼吸領域の臨床医学に関する学習3
- 第4回 循環器系の臨床医学に関する学習1
- 第5回 循環器系の臨床医学に関する学習2
- 第6回 循環器系の臨床医学に関する学習3
- 第7回 神経系の臨床医学に関する学習1
- 第8回 神経系の臨床医学に関する学習2
- 第9回 神経系の臨床医学に関する学習3
- 第10回 評価学系の理学療法専門分野に関する学習1
- 第11回 評価学系の理学療法専門分野に関する学習2
- 第12回 内科学系の理学療法専門分野に関する学習1
- 第13回 内科学系の理学療法専門分野に関する学習2
- 第14回 神経系の理学療法専門分野に関する学習1
- 第15回 神経系の理学療法専門分野に関する学習2

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	100	%	
その他・備考	小テスト：100% 正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 不真面目な受講態度や課題の未提出についても減点対象とする（-1点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

過去使用してきた教科書や講義資料等を参考に、各講義回で取り扱う領域の復習を十分に行い、頻繁に実施される小テストに向けて学習を進めること。

■ 教科書

書名：PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編（改訂第2版）

著者名：ヒントレ研究所（編集）

出版社：南江堂

書名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.2循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	総合理学療法学Ⅱ						
担 当 者	PT 専任教員・他（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	理学療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

臨床実習も終了しほぼすべての履修内容を習得した段階で、理学療法士に必要な知識と能力の総括を行います。専任教員についてはセラピストに求められる基礎知識や各々の専門領域について講義します。また、外部の先生方については現在の職場に関する代表的な疾患に対する理学療法の実践、理学療法士が身につけておくべき技術として吸引の講義を実施します。

■ 到達目標

理学療法を行うにあたって必要な能力を系統的に整理し、不足があれば自ら補うように行動することができる。

■ 授業計画

- 第1回 セラピストに求められる基礎知識（1） 生理学
- 第2回 セラピストに求められる基礎知識（2） 生理学
- 第3回 セラピストに求められる基礎知識（3） 生理学
- 第4回 セラピストに求められる基礎知識（4） 運動学
- 第5回 セラピストに求められる基礎知識（5） 精神医学
- 第6回 セラピストに求められる基礎知識（6） 臨床心理
- 第7回 代表的な症例の検討（1）切断（義肢・装具）
- 第8回 代表的な症例の検討（2）神経疾患（神経伝導速度・筋電図）
- 第9回 代表的な症例の検討（3）がん疾患
- 第10回 代表的な症例の検討（4）嚥下障害
- 第11回 代表的な疾患に対する理学療法の実践（1）脊髄損傷
- 第12回 代表的な疾患に対する理学療法の実践（2）代謝疾患
- 第13回 代表的な疾患に対する理学療法の実践（3）がん疾患
- 第14回 理学療法士に必要な技術演習 喀痰・吸引①
- 第15回 理学療法士に必要な技術演習 喀痰・吸引②

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	3 回分の試験結果により総合的に成績を判定する。 出題範囲が広いため、4 月から勉強を始めるなど計画的に準備を行うこと。 正当な理由の無い欠席（-4 点）、遅刻（-2 点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2 点）対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学習計画を立て予習・復習を実施すること。学習方法がわからない場合は専任教員に相談すること。各領域の講義内容について、1回学習した知識を定着させるためには、繰り返し復習する事が必要です。最初は3日以内に復習、2回目は1週間以内、3回目は2週間以内と復習の計画を含めた学習計画を立ててください。

■ 教科書

書 名：理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント
(専門基礎分野 基礎医学, 専門基礎分野 臨床医学, 基礎 PT 学, 障害別 PT 治療学)

著者名：医歯薬出版 (編)

出版社：医歯薬出版

書 名：国試の達人 (運動解剖生理学編, 臨床医学編, 理学療法編)

著者名：理学療法科学学会 (編)

出版社：理学療法科学学会

書 名：リハドリル (Web 版)

出版社：アイベック

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態(災害等)が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。変更が生じた場合は、講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。

授業科目	理学療法評価学Ⅰ						
担当者	中村 彩（実務経験者）						
実務経験者の概要	理学療法士として、臨床現場（病院・通所リハビリテーション）において従事し、この経験をもと授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいか、また対象者の生活像の理解と分析のためにどのような方法があるか、具体的に代表的な方法を学修する。

■ 到達目標

1. 生活機能について説明できる
2. 理学療法評価の過程について説明できる
3. 基本動作の評価について説明できる
4. 形態測定、関節可動域測定、筋力検査法、神経系の検査の概要を説明できる

■ 授業計画

- 第1回 生活機能と理学療法評価、理学療法プロセス
- 第2回 基本的動作・日常生活活動・生活の質の評価
- 第3回 関節可動域測定法の概要
- 第4回 関節可動域測定法の実際
- 第5回 関節可動域測定法の実際
- 第6回 筋力検査法の概要
- 第7回 筋力検査法の実際
- 第8回 筋力検査法の実際
- 第9回 形態測定
- 第10回 感覚検査の概要
- 第11回 神経系の検査（反射・筋緊張）の概要
- 第12回 神経系の検査（協調運動機能）の概要
- 第13回 実技試験（関節可動域測定・徒手筋力検査の一部）
- 第14回 バランス検査の概要
- 第15回 講義内容の総括・振り返り

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	正当な理由のない欠席や遅刻については減点する（欠席：-2点、遅刻：-1点）。 不良な学習態度（不必要な携帯端末の操作、必要な資料・教科書・物品の忘れなど）は減点対象（1回：-5点）とする。 小テスト（筆記試験）については、当日中にフィードバックを行う。 実技試験は小テストの一部として扱う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業後には必ず内容の振り返りを講義時間と同程度行ってください。
質問などがあれば、その都度教員へと質問してください。

■ 教科書

書 名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田滋（編）

出版社：医歯薬出版

書 名：臨床 ROM 第2版—測定からエクササイズまで【Web 動画付き】2022年改訂版準拠

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

■ 参考図書

■ 留意事項

理学療法評価学Ⅰは、解剖学や生理学、運動学などの基礎科目の復習が同時に必要となります。

2・3年生で学ぶ臨床医学、各種疾患に対する評価学や治療学などと関連が深く、理学療法を実施するための基礎となる科目です。真摯に学習へと取り組んで下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法評価学Ⅱ						
担当者	牧之瀬一博（実務経験者）						
実務経験者の概要	牧之瀬一博（理学療法士として慢性期医療施設、通所リハ、訪問リハなどで約10年の実務経験、現在も整形外科クリニックにて臨床活動を行っている。多くの対象者の評価経験をもとに授業を行う）						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

理学療法評価学Ⅰに引き続き、評価のための様々な評価法、検査法の各論について学び、その方法と意義について理解する。関節可動域測定、筋力検査、脳神経検査、整形外科的テストなどをその内容とする。

■ 到達目標

- ・各種検査法の測定法・注意点について説明できる。
- ・各種検査法を学生同士で概ね実施することができる。
- ・各種検査法の臨床的意義を説明できる。
- ・理学療法評価を解剖学・運動学・生理学に基づいて理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、理学療法評価学Ⅰの振り返り
理学療法評価学Ⅱの目指すところ
- 第2回 関節可動域検査（上肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第3回 関節可動域検査（上肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第4回 関節可動域検査（上肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第5回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する講義（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第6回 徒手筋力検査（上肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第7回 徒手筋力検査（上肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第8回 徒手筋力検査（上肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第9回 徒手筋力検査（上肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第10回 運動器疾患の評価の実際
- 第11回 運動器疾患の評価の実際
- 第12回 運動器疾患の評価の実際
- 第13回 神経系（脳神経検査）の評価の実際
- 第14回 神経系（脳神経検査）の評価の実際
- 第15回 神経系（脳神経検査）の評価の実際

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポートなど提出課題	◎	15	%	
小テスト	◎	25	%	
その他・備考	出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されれば減点を緩和する。 また、不良な学習態度（指示を守らない、提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-3点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

真摯に学習に臨むこと。学習時間として、復習を中心に講義と同等の時間（1.5時間 / 週）が必要である。
小テストには十分に学習した状態で受けるよう計画的に準備する事。また小テストにより不理解の箇所が判明した場合、しっかりと再学習を行うこと。疑問などあれば、オフィスアワーなどを活用すること。
徒手筋力検査については、教科書の重要事項をチェックしておく事前課題を課すことがある。
実技に関しても、学習した内容についてはいつでも教科書を見ずに、実技を行えるよう復習を行うこと。

■ 教科書

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤正、江口勝彦

出版社：金原出版

書 名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：神経診察クロズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：Crosslink 理学療法的テキスト 理学療法評価学

著者名：中山恭秀（編）

出版社：メジカルビュー社

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書 名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：嶋田智明・有馬慶美（監訳）

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

真摯に学習に臨むこと。

この科目は解剖学 / 運動学 / 生理学 / 理学療法評価学 I / II / 整形外科学 / 内科学 / 臨床神経学などと関連が深い科目である。必要に応じてこれらの科目を振り返り、しっかりと理解を深めること。

講義内では実技を行うため、過度なアクセサリを外す・爪を切った状態で講義を受けるなど、身体に触れる理学療法学生として相応しい状況で参加する事。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法評価学Ⅲ						
担 当 者	小川 真人（実務経験者）・藪中 良彦（実務経験者）・津村 宜秀（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	小川真人（急性期病院で15年の実務経験あり）、藪中良彦（肢体不自由施設で20年間、小児訪問リハビリテーションで10年間の実務経験あり）、津村宜秀（病院などでの臨床経験を有している。） 各担当者がそれぞれの領域の実務経験を活かした授業を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	通年	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、呼吸循環代謝疾患、小児疾患、中枢神経疾患に関する病態と障害に対する評価法について学ぶ。

■ 到達目標

1. 代表的な呼吸循環代謝疾患に関わる検査及び評価法について説明することができる。
2. 臨床像と年齢を基に適切な小児期の理学療法評価法を選択できるようになる。
3. 総合評価の実施方法と、得られた検査結果の解釈について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 呼吸器理学療法評価Ⅰ（呼吸機能検査、スパイロメトリー） 小川（実務経験者）
 第2回 呼吸器理学療法評価Ⅱ（画像所見評価・血液ガス評価） 小川（実務経験者）
 第3回 循環器理学療法評価Ⅰ（画像評価・心臓カテテル評価、心臓エコー評価） 小川（実務経験者）
 第4回 循環器理学療法評価Ⅱ（心電図、不整脈評価） 小川（実務経験者）
 第5回 循環器理学療法評価Ⅲ（身体機能評価、身体活動量評価） 小川（実務経験者）
 第6回 代謝理学療法評価Ⅰ（栄養評価、代謝評価） 小川（実務経験者）（遠隔授業：オンデマンド配信）
 第7回 小児期理学療法評価Ⅰ（小児理学療法評価項目、PEDI） 藪中（実務経験者）
 第8回 小児期理学療法評価Ⅱ（PEDI, GMFCS, GMFM, Chailey 姿勢能力発達レベル） 藪中（実務経験者）
 第9回 神経理学療法評価Ⅰ（運動麻痺・痙縮・共同運動） 藪中（実務経験者）
 第10回 神経理学療法評価Ⅱ（脳卒中後片麻痺患者のADL改善に関係する要因） 津村（実務経験者）
 第11回 神経理学療法評価Ⅲ（脳画像の診方～皮質脊髄路の抽出と予後予測～） 津村（実務経験者）
 第12回 神経理学療法評価Ⅳ（総合評価～NIHSSとADL予後予測～） 津村（実務経験者）
 第13回 神経理学療法評価Ⅴ（総合評価～SIASとADL予後予測～） 津村（実務経験者）
 第14回 神経理学療法評価Ⅵ（模擬症例を通じたグループワーク） 津村（実務経験者）
 第15回 神経理学療法評価Ⅶ（運動失調の評価～SARA～） 津村（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	92	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	4	%	
小テスト	◎	4	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：－1点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：－5点）とする。小テスト・レポートについては、翌週の授業でフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学修した内容をしっかりと定着させて実習や国家試験で使える知識とするために、次回の授業までに次回の範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度復習すること。
 適宜提示する課題を確実に学習すること。
 提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：Crosslink 理学療法学テキスト 小児理学療法学

著者名：藪中良彦、木元稔、坂本仁 編集

出版社：メジカルビュー社

書 名：GMFM - 粗大運動能力尺度

著者名：近藤 和泉、福田道隆、青山香

出版社：医学書院

書 名：Clinics in Developmental Medicine Gross Motor Function Measure (GMFM-66 & GMFM-88) User's Manual 2nd Edition

著者名：Dianne J. Russell, Peter L. Rosenbaum, Lisa M. Avery, Marilyn Wright

出版社：Mac Keith Press

書 名：PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価表

著者名：里宇明元、近藤和泉、問川博之

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：脳性まひ児の24時間姿勢ケア - The Chailey Approach to Postural Management

著者名：今川忠男

出版社：三輪書店

書 名：EBOT 時代の評価法 作業療法ジャーナル増刊号 Vol.38. No. 7. 2004

出版社：Mac Keith Press

書 名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎 義昭、斎藤 佳雄、坂井文彦

出版社：南山堂

書 名：脳卒中理学療法の理論と技術 第3版

著者名：原寛美、吉尾雅春

出版社：MEDICAL VIEW

書 名：標準理学療法学 神経理学療法学 第2版

著者名：吉尾 雅春、森岡周、阿部浩明

出版社：医学書院

書 名：セラピストのための脳卒中評価指標の解釈と活用

著者名：高見彰淑

出版社：MEDICAL VIEW

書 名：CD-ROM でレッスン 脳画像の読み方

著者名：石原 健司

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学 II

著者名：石川 朗

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法評価学実習						
担 当 者	牧之瀬一博（実務経験者）						
実務経験者の概要	牧之瀬一博（理学療法士として慢性期医療施設、通所リハ、訪問リハなどで約10年の実務経験、現在も整形外科クリニックにて臨床活動を行っている。多くの対象者の評価経験をもとに授業を行う）						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

理学療法評価学Ⅰ・Ⅱに引き続き、評価のための様々な評価法、検査法の各論について学び、その方法と意義について理解する。関節可動域測定、筋力検査、各種神経学的検査、片麻痺運動機能テスト、協調運動検査、感覚検査などをその内容とする。

必要に応じてグループ学習を行い、責任を持った学習を促し、また他者との関わりの中で思考を深める。その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシェントを用いた演習で障害構造について講義・演習を行う。

■ 到達目標

- ・各種検査法の測定法・注意点について説明できる。
- ・各種検査法を学生同士で概ね実施することができる。
- ・各種検査法の臨床的意義を説明できる。
- ・理学療法評価を解剖学・運動学・生理学に基づいて理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、理学療法評価学実習の目指すところ
- 第2回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第3回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第4回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する実習（検査実技）
- 第5回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第6回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する実習（検査実技）
- 第7回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第8回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の実習（検査実技）
- 第9回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第10回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の実習（検査実技）
- 第11回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第12回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の実習（検査実技）
- 第13回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第14回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の実習（検査実技）
- 第15回 神経学的検査（腱反射・病的反射・筋緊張検査）の講義
- 第16回 神経学的検査（腱反射・病的反射・筋緊張検査）の実習（検査実技）
- 第17回 神経学的検査（片麻痺運動機能テスト）の講義
- 第18回 神経学的検査（片麻痺運動機能テスト）の講義と実習（検査実技）
- 第19回 感覚検査の講義 感覚検査の意義と感覚障害（病態）について
- 第20回 感覚検査の講義と実習（検査実技）
- 第21回 ペーパーペイシェントを用いた運動器疾患の障害像の理解
- 第22回 ペーパーペイシェントを用いた運動器疾患の障害像の理解
- 第23回 各種基本的検査法のまとめと実技試験

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポートなど提出課題	◎	15	%	
小テスト	◎	25	%	
その他・備考	出席:学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席:-4点、遅刻:-2点）ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されれば減点を緩和する。 また、不良な学習態度（指示を守らない、提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-3点）とする。 小テストについては、講義内での自己採点を基本とすることで、理解度のフィードバックに努めます。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

真摯に学習に臨むこと。学習時間として、復習を中心に講義と同等の時間（2-3時間／週）が必要である。徒手筋力検査については、教科書の重要事項をチェックしておく事前課題を課すことがある。

小テストには十分に学習した状態で受けるよう計画的に準備する事。また小テストにより不理解の箇所が判明した場合、しっかりと再学習を行うこと。疑問などあれば、オフィスアワーなどを活用すること。

実技に関しても、学習した内容についてはいつでも教科書を見ずに、実技を行えるよう復習を行うこと。

■ 教科書

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤正、江口勝彦

出版社：金原出版

書 名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一、他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書 名：観察による歩行分析

著者名：月城 慶一、他（訳）

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田 滋（編）

出版社：医歯薬出版

書 名： 標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：Crosslink 理学療法的テキスト 理学療法評価学

著者名：中山恭秀（編）

出版社：メジカルビュー社

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書 名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：嶋田智明・有馬慶美（監訳）

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

この科目は解剖学／運動学／生理学／理学療法評価学Ⅰ／Ⅱ／整形外科学／内科学／臨床神経学などと関連が深い科目である。必要に応じてこれらの科目を振り返り、しっかりと理解を深めること。

講義内では実技を行うため、過度なアクセサリーを外す・爪を切った状態で講義を受けるなど、身体に触れる理学療法学生として相応しい状況で参加すること。

この科目の履修後には臨床見学Ⅰがあり、実際の対象者の検査測定を見学・実施することになります。不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法評価学演習Ⅰ						
担 当 者	3年チューター（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	理学療法士として、病院や介護老人保健施設などの臨床経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

見学実習Ⅱおよび評価実習に向けた準備として、それぞれの検査／測定の意義について学ぶことが目的である。そのために、臨床で用いられる頻度が高い検査／測定項目を取り上げ、実技や演習を通して臨床場面で実施できる知識・技術の修得を図る。

■ 到達目標

理学療法現場で実施される基本的な検査／測定が実施できる。
理学療法現場で実施される基本的な検査／測定の意義が理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 触診／形態測定の測定意義と実践
- 第3回 ROM測定（上肢）の測定意義と実践
- 第4回 ROM測定（下肢／体幹）の測定意義と実践
- 第5回 MMT（上肢）の検査意義と実践
- 第6回 MMT（下肢／体幹）の検査意義と実践
- 第7回 片麻痺機能検査／反射検査の検査意義と実践
- 第8回 失調症検査の検査意義と実践
- 第9回 感覚検査（表在感覚）の検査意義と実践
- 第10回 感覚検査（深部感覚）の検査意義と実践
- 第11回 特殊検査（トーマステスト／Oberテスト／ラセーグテスト／ブラガードテスト等）の検査意義と実践
- 第12回 バランス検査／歩行検査の検査意義と実践
- 第13回 模擬症例を用いた演習①
- 第14回 模擬症例を用いた演習②
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	Basic OSCE：80% 提出物：20% 正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 不真面目な受講態度や課題の未提出についても減点対象とする（-1点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

これまでに学修してきた理学療法評価技術等に関して、チェックシートなどを用いて最低60分の時間を確保し、知識・技術面の確認を行うこと。実技練習を行う際は3人グループを形成し、評価者、患者役、採点者に分かれ、お互いに不足事項をチェックできる体制で行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法評価学演習Ⅱ（思考プロセス）						
担 当 者	牧之瀬一博、岡 智大、文本 聖現（三名とも実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	牧之瀬一博（理学療法士として慢性期医療施設、通所リハ、訪問リハなどで 約 10 年の実務経験、現在も整形外科クリニックにて臨床活動を行っている。多くの対象者の評価経験がある） 岡 智大（理学療法士として整形外科病院の入院リハ、外来リハなどで 10 年以上の実務経験、現在も整形外科クリニックにて臨床活動を行っている） 文本 聖現（理学療法士として急性期総合病院で 5 年間の実務経験があり、現在も整形外科クリニックにて臨床活動を行っている） 各担当者は、それぞれの知見と経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

3年後期で行う理学療法評価学演習Ⅱは、臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程、評価技能の理解を目指す。特に、代表的な疾患に対する病態の理解や動作の観察から評価の選択などの臨床思考過程を学び、症例像に合わせた実技までを体系的に学ぶ。

講義においては症例情報の提示や実際の症例の動作場面の動画を用いて講義を行う。

これらの実施を通して、評価実習・総合臨床実習に向けた臨床思考能力及び評価方法をトレーニングする場とする。

■ 到達目標

- ・代表的な疾患に対して、障害像を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた理学療法評価を選択できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。
- ・動作の観察から逸脱動作を複数抽出できる。
- ・逸脱動作から複数の機能障害を推測する事ができる。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法評価学演習の目指すところ（症候障害学ならびにクリニカル・リーズニング）
理学療法評価の思考過程（症候障害学、Top down 評価と Bottom up 評価）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第2回 脳血管症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈
文本 聖現（実務経験者）
- 第3回 脳血管症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈
文本 聖現（実務経験者）
- 第4回 神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈
文本 聖現（実務経験者）
- 第5回 神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈
文本 聖現（実務経験者）
- 第6回 運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈
岡 智大（実務経験者）
- 第7回 運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈
岡 智大（実務経験者）
- 第8回 運動器疾患（THA など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈
岡 智大（実務経験者）
- 第9回 運動器疾患（THA など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈
岡 智大（実務経験者）
- 第10回 動作観察・分析①（逸脱動作を抽出する）
牧之瀬一博（実務経験者）

- 第11回 動作観察・分析②（逸脱動作から機能障害を推論する）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第12回 動作観察・分析③（逸脱動作から機能障害を推論する）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第13回 動作観察・分析④（逸脱動作から機能障害を推論する）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第14回 臨床実習に向けた演習①（ケースレポートの記載方法、見学時の着眼点）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第15回 臨床実習に向けた演習②（ケースレポートの記載方法、見学時の着眼点）
牧之瀬一博（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポートなど提出課題	◎	20	%	
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。 また、不良な学習態度（指示を守らない、提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき -5点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理学療法評価学演習Ⅱは理学療法評価学の総まとめである。その為、授業時間外の学修にも真摯に臨むこと。学習時間として、復習を中心に講義と同等の時間（1.5時間／週）が必要である。

予習に関しては都度必要な内容について提示する。

第2～9回の講義においては、それぞれの疾患の病態や臨床症状についての理解が求められる。臨床神経学や整形外科学での講義内容について復習して講義に臨むこと。また、講義後の復習課題などについても真摯に取り組むこと。

第10～13回の講義については、教科書『観察による歩行分析』を用いた学習を行った上で受講して下さい。歩行の各相での関節運動がイメージ出来、また筋活動が説明できるようになる事が大切です。異常歩行についてもその成り立ちを含めて説明できるようになって下さい。特に、こういった運動分析が苦手な学生は、まず基本的な解剖（筋の走行）・運動学（筋の作用）について理解度を確認する必要がある。これらの基本が押さえられていれば、繰り返しの思考のトレーニングが必要である。

■ 教科書

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ

著者名：鶴見隆正、辻下守弘（編集）

出版社：医学書院

書名：観察による歩行分析

著者名：月城 慶一、他（訳）

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田 滋（編）

出版社：医歯薬出版

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤正、江口勝彦

出版社：金原出版

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一、他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：神経診察クロズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書 名：症候障害学序説 理学療法の臨床思考過程モデル

著者名：内山 靖

出版社：文光堂

■ 留意事項

理学療法評価学Ⅰ／Ⅱ／実習と関連が深い科目である。必要に応じて振り返り、しっかりと理解を深めること。

評価学は、1／2年次に学習した評価学の内容のみならず、「解剖学」「生理学」「運動学」などの基礎、「臨床神経学」「整形外科学」「内科学」などの臨床医学、あらゆる科目との関連性を持った科目です。長期の実習に出る前までの、学内での最後の学習期間です。全ての科目の理解を高め、評価学についても理解できるよう努めて下さい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動療法学Ⅰ						
担 当 者	文本 聖現（実務経験者）・非常勤講師（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当者は、病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見と経験を基に学生指導にあたる予定である。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法における運動療法の位置づけと基本的概念を学ぶ。
解剖学・運動学・生理学などの基礎科目に立脚した学びを通して、運動療法を理解する。

■ 到達目標

疾患・症状に対応する各種運動療法の理論・目的・方法・適応について理解出来る。
各種運動療法を解剖・生理・運動学に基づいて理解し、論理的に解説できる。
関節拘縮の様々な因子について理解し、それらに対する関節可動域運動を説明することができる。
筋力調節・増強に関わる因子について理解し、整理して論理的に解説する事が出来る。
筋力増強運動の原則について理解し、適切な筋力増強運動について思考することが出来る。

■ 授業計画

- 第1回 運動療法の定義と特徴：（非常勤講師）
- 第2回 関節可動域障害に対する運動療法（関節の構造と運動・関節拘縮）：（非常勤講師）
- 第3回 関節可動域障害に対する運動療法（関節の構造と運動・関節拘縮）：（非常勤講師）
- 第4回 関節可動域障害に対する運動療法（ストレッチング・モビライゼーション）：（非常勤講師）
- 第5回 関節可動域障害に対する運動療法（ストレッチング・モビライゼーション）：（非常勤講師）
- 第6回 筋力低下に対する運動療法（筋の構造・収縮様式・筋張力の規定因子）：（非常勤講師）
- 第7回 筋力低下に対する運動療法（筋力増強の原則・筋力増強運動）：（非常勤講師）
- 第8回 筋力低下に対する運動療法（筋力増強の原則・筋力増強運動）：（非常勤講師）
- 第9回 持久力増強運動（筋持久力・全身持久力）：（文本 聖現）
- 第10回 協調性障害に対する運動療法：（文本 聖現）
- 第11回 運動学習を目的とした運動療法：（文本 聖現）
- 第12回 バランス機能について：（文本 聖現）
- 第13回 痛みに対する運動療法：（文本 聖現）
- 第14回 嚥下機能障害に対する運動療法：（文本 聖現）
- 第15回 その他（神経生理学的アプローチ等）：（文本 聖現）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度については減点対象とする。 (1回：-2点)			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各学生は授業後十分に復習を行うようにしてください。2回目授業以降、小テストで理解度の確認を行ってまいります。

■ 教 科 書

書 名：運動療法学～障害別アプローチの理論と実際～第2版

著者名：市橋則明（編）

出版社：文光堂

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

基本的には講義形式をとりますが、随時実技も織り交ぜていきます。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動療法学Ⅱ						
担 当 者	岡智大、中村彩、秋山直人、土井雄貴（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	岡 智大：病院、クリニックでの実務経験あり 中村彩：病院、介護老人保健施設、クリニックでの実務経験あり 秋山直人・土井雄貴：病院での実務経験あり 各担当者が、病院等の各施設での臨床経験を活かした授業を展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

運動療法学Ⅰで学んだ知識をもとに、学生間での実技演習を通して各運動療法の基本的な技術を身につける。また、障害を有する対象者に対して、どのようにリスクを管理しながら効果的な運動療法を実施していくかを思考し模擬的に実施する。そのため、本学の履修においては、運動療法の原則や疾患の知識を復習しながら学んでいく。

■ 到達目標

1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学の知識及び運動療法の原則について理解を深める
2. 学生同士で各運動療法技術を実施することができる
3. 各運動療法技術を障害のある対象者に実施する際の注意点（リスク）を理解できる
4. 各障害を想定した運動療法を模擬的に実施できる

■ 授業計画

- 第1回 コースガイダンス
運動療法の種類、方法、運動療法に必要な四肢・体幹の触知：岡（実務経験者）
- 第2回 運動療法に必要な四肢・体幹の触知：岡（実務経験者）
- 第3回 疼痛に対する運動療法：岡（実務経験者）
- 第4回 関節可動域障害に対する運動療法：中村（実務経験者）
- 第5回 関節可動域障害に対する運動療法：中村（実務経験者）
- 第6回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：中村（実務経験者）
- 第7回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：中村（実務経験者）
- 第8回 健康増進のための運動療法：中村（実務経験者）
- 第9回 全身調整運動：中村（実務経験者）
- 第10回 筋力低下に対する運動療法の実際：土井（実務経験者）
- 第11回 筋力低下に対する運動療法の実際：土井（実務経験者）
- 第12回 筋力低下に対する運動療法の実際：土井（実務経験者）
- 第13回 協調性障害に対する運動療法（運動の協調性、バランス障害）：秋山（実務経験者）
- 第14回 自動介助運動の仕方：秋山（実務経験者）
- 第15回 実技の到達度確認①：岡（実務経験者）、中村（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	実技試験（実技の到達度）20％ 正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2点）対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業前には該当する運動療法学の知識を復習して臨んでください。

運動療法の技術を習得するためには、理論となる知識をしっかりと覚えること、そして実技の練習を何回も繰り返して行う必要があります。授業中に知識と実技の習得に真剣に取り組むことはもちろん、授業後も知識・技術を習得するための復習を行い、理学療法士の主要な治療技術の基本を身につけてください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第4版

著者名：シリーズ監修：奈良 勲 編集：吉尾 雅春

出版社：医学書院

書 名：crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学

著者名：対馬 栄輝

出版社：メジカルビュー

書 名：最新運動療法大全 I 基礎編 第6版

著者名：キャロリン・キスナー / リン・アラン・コルビー 他

出版社：ガイアブックス

書 名：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版

著者名：市橋 則明（編）

出版社：文光堂

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	小児期理学療法治療学						
担 当 者	藪中良彦（実務経験者）						
実務経験者の概要	藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで10年の実務経験をもとに授業を行う）						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

授業目的：脳性麻痺や二分脊椎や筋ジストロフィー等の小児理学療法対象疾患のある子ども達に対して、適切な評価・治療が行えるようになることが、この科目の目標である。

内容：正常発達と共に各疾患別の発達を理解し、小児理学療法評価法を学び、各小児疾患別の治療プログラム立案について学習する。

■ 到達目標

- ・小児理学療法概論を理解する。
- ・子どもの発達（姿勢と粗大運動、呼吸・循環器系）について理解する。
- ・低出生体重児・ハイリスク児、脳性麻痺、重症心身障害、小児整形疾患、筋ジストロフィー、発達障害、精神発達遅滞、地域学校での理学療法の評価と介入について理解する。

■ 授業計画

第1回	第1章	小児理学療法概論	1	小児理学療法のパラダイムシフト
第2回	第1章	小児理学療法概論	2	運動学習の原則
第3回	第1章	小児理学療法概論	3	小児理学療法の評価、4 小児理学療法アプローチの枠組み
第4回	第2章	子どもの発達と評価・介入	5	姿勢と粗大運動
第5回	第2章	子どもの発達と評価・介入	5	姿勢と粗大運動、4 呼吸・循環器系
第6回	第2章	子どもの発達と評価・介入	4	呼吸・循環器系
第7回	第3章	疾患・対象児別アプローチ	1	低出生体重児・ハイリスク児
第8回	第3章	疾患・対象児別アプローチ	2	脳性麻痺
第9回	第3章	疾患・対象児別アプローチ	2	脳性麻痺
第10回	第3章	疾患・対象児別アプローチ	3	重症心身障害
第11回	第3章	疾患・対象児別アプローチ	4	小児整形疾患
第12回	第3章	疾患・対象児別アプローチ	5	筋ジストロフィー
第13回	第3章	疾患・対象児別アプローチ	7	発達障害
第14回	第3章	疾患・対象児別アプローチ	6	精神発達遅滞、8 地域学校での理学療法
第15回	第3章	疾患・対象児別アプローチ		症例集

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	出席（欠席－４点、遅刻／早退－２点、居眠り－１点） 小テストの点数に含まれる内容（Moodle 課題＋小テスト＋予習課題＋授業中の口頭試問＋その他の課題）（４０点） 筆記試験（６０点）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う（30分）。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。

復習：毎回講義後に Moodle 課題および課題提示を行い、授業の復習を促す（30分）。加えて、次の講義の初めに小テストを行い、復習（30分）を促すと共に知識の定着を図る。

フィードバック：Moodle 課題および小テストで間違いが多かった回答について、次の週の講義で解説を行う。

■ 教科書

書 名：小児理学療法学

著者名：藪中良彦、木元稔、坂本仁（編集）

出版社：メジカルビュー社

■ 参考図書

書 名：イラストでわかる小児理学療法

著者名：上杉雅之 監修

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	呼吸器障害理学療法治療学（喀痰等の吸引を含む）						
担 当 者	小川真人（実務経験者）						
実務経験者の概要	急性期病院で15年の実務経験があり、急性期から回復期の呼吸器障害を有する患者の理学療法の経験をもとに授業展開していく。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

「呼吸と運動」に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、呼吸器疾患の病態およびその基本治療を学ぶ。酸素化能障害や換気能力障害などの呼吸器の障害に対する評価と理学療法について、その禁忌やリスク管理をふまえて講義する。

■ 到達目標

- 1) 運動器障害や神経障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもつ。
- 2) 内部障害領域における理学療法士の存在意義と役割を考える。
- 3) 呼吸器系の障害を有する患者の運動耐容能を評価できる。
- 4) 呼吸器系の障害を有する患者に理学療法を行う上でリスク管理ができる。
- 5) 運動時の呼吸器系の適応について説明できる。
- 6) 呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを説明できる。
- 7) 呼吸器系の障害を有する患者の急性期・回復期・生活期理学療法について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 「呼吸理学療法総論」「呼吸器の構造と仕組み」
解剖学・運動学を復習しつつ、呼吸器系の役割と運動時の適応、呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。
- 第2回 「呼吸理学療法における評価①」
医療面接、フィジカルアセスメントの基本となる胸部の観察、触診、打診、聴診の実践を学習する。
- 第3回 「呼吸理学療法における評価②」
呼吸機能、運動耐容能の評価方法について、その実践を学習する。また、呼吸困難の評価方法について学習する。
- 第4回 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）の理学療法」
COPD における障害、呼吸器疾患患者の ADL および QOL 低下の特徴を理解し、特有の評価方法について学習する。他部門からの情報、理学療法評価 結果に基づいた理学療法を学習する。
- 第5回 「拘束性肺疾患、外科手術後、その他呼吸器疾患の理学療法」
疾患、病態の特徴を理解し、特有の評価方法、理学療法について学習する。外科手術が生体に与える影響を理解し、術前後および急性増悪例への理学療法を学習する。
- 第6回 「呼吸リハビリテーション①」
呼吸器理学療法基本手技、呼吸理学療法におけるコンディショニングや排痰法の目的とその適応、徒手のおよび体位排痰法の実践を学習する。
- 第7回 「酸素療法、人工呼吸療法、吸引の概要」
人工呼吸器や酸素療法についてその適応と、理学療法実施時の留意点について学習する。また、吸引プロトコル第2版（日本理学療法士協会）に沿って吸引のための基礎知識を学習する。さらに呼吸器疾患に対する理学療法介入の思考プロセスを経験する。
- 第8回 「呼吸リハビリテーション②」（遠隔授業：オンデマンド配信）
呼吸理学療法に必要な評価、プログラムについて学習する。症例を通じて呼吸リハビリテーションの最新のエビデンスを理解し、呼吸器疾患に対する理学療法介入の思考プロセスを経験する。

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	
レポート	◎	20	%	
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。小テスト・レポートについては、翌週の授業でフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
理学療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。
次回の授業までに次回の範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておいてください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できる様になることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

書 名：最新理学療法学講座 内部障害理学療法学
著者名：高橋哲也
出版社： 医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：動画でわかる呼吸リハビリテーション 第5版
著者名：高橋仁美
出版社：中山書店
.....
書 名：PT・OT 入門 イラストでわかる内部障害
著者名：上杉雅之
出版社： 医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	代謝障害理学療法治療学						
担当者	小川真人（実務経験者）						
実務経験者の概要	急性期病院で15年の実務経験があり、急性期から回復期の代謝障害を有する患者の理学療法経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

「代謝と運動」に関する生理学・生化学的な基本知識を整理し、代表的な代謝障害である糖尿病の病態およびその基本治療を学ぶ。また腎疾患やがん、低栄養患者についての病態と相互に影響しあう臓器の関連性、並びにリハビリテーションを理解する。

■ 到達目標

- 1) 運動器障害や神経障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもつ。
- 2) 内部障害領域における理学療法士の存在意義と役割を考える。
- 3) 代謝疾患の運動耐容能を評価できる。
- 4) 代謝疾患に理学療法を行う上でリスク管理ができる。
- 5) 運動時の代謝系の適応について説明できる。
- 6) 代謝疾患の運動を制限するメカニズムを説明できる。
- 7) 代謝疾患患者に対する運動処方、運動療法プログラムの組み立てを説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 「代謝障害理学療法総論」
代謝障害に対する理学療法において何を学ばなければならないかを示したうえで、運動時における代謝系の適応、代謝系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。
- 第2回 「代謝疾患総論と糖尿病理学療法」
糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症等について、日本における患者数、疾患の概要と診断基準等の概略について学習する。とくに糖尿病の理学療法について理解を深める。
- 第3回 「糖尿病合併症」
低血糖に代表される急性合併症、糖尿病特有の慢性合併症（網膜症・腎症・神経障害）について学習する。
- 第4回 「糖尿病管理」
糖尿病の基本的治療法、とくに運動療法についてその概要を学習する。また、自己管理を支援するための患者教育の重要性を理解する。
- 第5回 「腎臓リハビリテーション」
腎疾患の概要、評価、治療法を学習する。また運動療法を行ううえでのリスク管理と患者教育について学習する。
- 第6回 「リハビリテーション栄養」
栄養障害を持つ患者の評価、治療法を学習する。また運動療法を行ううえでのリスク管理や多職種との情報共有について学習する。
- 第7回 「がんリハビリテーション」
がんのリハビリテーションの対象と障害の種類を理解し、がんのリハビリテーションに必要なアセスメントを学習する。がんの理学療法の実際について 精神・心理的対応、周術期の評価と対応も踏まえ学習する。またがん特有のリスク管理についても学習する。
- 第8回 「代謝疾患に対する理学療法」（遠隔授業：オンデマンド配信）
代謝疾患に対する運動療法、リスク管理について理解する。エネルギー消費量を踏まえたうえで、運動強度と運動プログラムについて説明・計画することで運動療法の効果について理解を深める。

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	
レポート	◎	20	%	
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。小テスト・レポートについては、翌週の授業でフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。
理学療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。
次回の授業までに次回の範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておいてください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

書 名：最新理学療法学講座 内部障害理学療法学
著者名：高橋哲也
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：PT・OT 入門 イラストでわかる内部障害
著者名：上杉雅之
出版社：医歯薬出版株式会社
.....
書 名：糖尿病治療における理学療法 戦略と実践
著者名：野村卓生
出版社：文光堂書店

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	循環器障害理学療法治療学						
担 当 者	小川真人（実務経験者）						
実務経験者の概要	急性期病院で15年の実務経験があり、急性期から回復期の循環器障害を有する患者の理学療法経験を活かした授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

代表的な循環器疾患の病態、症状、運動機能評価、理学療法プログラムについて学修する。不整脈の種類や心電図、心エコーなどを用いたリスク管理について学修する。また、理学療法を進める際に必要となる心臓リハビリテーションについて解説する。

■ 到達目標

1. 循環器疾患の病態について説明できる。
2. 循環器疾患患者に対する評価や不整脈：リスク管理について説明できる。
3. 心臓リハビリテーション（特に運動療法）について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 「循環器系の概論、構造と機能」
心臓、血管などの循環器系の構造と機能を学習する。心臓リハビリテーションの概要を学習する
- 第2回 「循環器疾患に対する理学療法①」
虚血性心疾患の病態、検査、治療の流れを学習する。
- 第3回 「循環器疾患に対する理学療法②」
心不全の基礎疾患、病態、検査、治療の流れを学習する。
- 第4回 「循環器疾患に対する理学療法③」
大動脈疾患および末梢動脈疾患の、病態、検査、治療の流れを学習する。
- 第5回 「心電図の診かたと不整脈」
心電図波形の意味と心電図変化、心電図モニターの要点を学習する。不整脈の重症度を学習する。
- 第6回 「運動処方」
運動時の循環応答を理解し、運動耐容能の評価方法を学習する。また、運動処方の作成プロセスを学習する。
- 第7回 「集中治療患者の理学療法」
集中治療患者の特徴と評価項目を学習する。リスク管理を理解したうえで理学療法プロセスについて学習する。
- 第8回 「循環器疾患のリスク管理と理学療法評価」（遠隔授業：オンデマンド配信）
循環器疾患患者に対するリスクの層別化と理学療法評価、リスク管理を学習する。

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	
レポート	◎	20	%	
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。小テスト・レポートについては、翌週の授業でフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。

理学療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。

次回の授業までに次回の範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておいてください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

■ 教科書

書 名：最新理学療法学講座 内部障害理学療法学

著者名：高橋哲也

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：PT・OT 入門 イラストでわかる内部障害

著者名：上杉雅之

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：CPX・運動療法ハンドブック 改訂5版 心臓リハビリテーションのリアルワールド

著者名：安達 仁

出版社：中外医学社

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	神経障害理学療法治療学Ⅰ						
担 当 者	岩田 篤（実務経験者）、文本聖現（実務経験者）、植田翔介（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	岩田 篤（理学療法士として、神経疾患患者を対象とした慢性期病院での実務経験あり） 文本聖現（理学療法士として、神経疾患患者を対象とした急性期病院での実務経験あり） 植田翔介（理学療法士として、脊髄損傷患者専門施設での実務経験あり） 各担当者の専門分野を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

本講義の目的は、各種神経疾患患者の理学療法に関わった際に、どのような根拠で、どのようなことが実施されるべきなのかを理解できるようになることである。そのために、各種神経疾患の理学療法における神経科学の重要性を説き、根拠ある理学療法を展開するための基礎知識の習得とその方法論を学習する。

■ 到達目標

- 1) 神経機能解剖学および神経生理学等の基本的内容が理解できる。
- 2) 各種神経疾患の病態および症状が理解できる。
- 3) 各種神経疾患およびその病期ごとに注意すべきリスクを想起できる。
- 4) 各種神経疾患およびその病期ごとに実施すべき理学療法について、科学的根拠に基づいた臨床推論が行える。

■ 授業計画

- 第1回 大脳基底核の基礎知識
- 第2回 パーキンソン病の病態と症候
- 第3回 パーキンソン病の理学療法1
- 第4回 パーキンソン病の理学療法2
- 第5回 小脳の基礎知識
- 第6回 脊髄小脳変性症の病態と症候
- 第7回 脊髄小脳変性症の理学療法1
- 第8回 脊髄小脳変性症の理学療法2
- 第9回 その他神経難病の病態と症候
- 第10回 その他神経難病の理学療法
- 第11回 脊髄損傷の基礎知識
- 第12回 脊髄損傷の病態と症候1
- 第13回 脊髄損傷の病態と症候2
- 第14回 脊髄損傷の理学療法
- 第15回 まとめ（遠隔授業：オンデマンド配信）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義内容の理解度を確保するために次回の講義で小テストを行います。60分程度の時間を取り、教科書を確認しながら講義内容の復習を行ってください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められますので、理解が及んでいない点に関しては、積極的にオフィスアワー等を活用してください。

■ 教科書

書 名：改訂第2版 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ
著者名：小森 哲夫（監）
出版社：メディカルビュー

■ 参考図書

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ
著者名：石川 朗（総編集）
出版社：中山書店

■ 留意事項

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」の科目の理解が重要である。併せて復習しておくこと。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	神経障害理学療法治療学Ⅱ						
担 当 者	岩田 篤（実務経験者）、文本聖現（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	岩田 篤（理学療法士として、脳卒中患者を対象とした慢性期病院での実務経験あり） 文本聖現（理学療法士として、脳卒中患者を対象とした急性期病院での実務経験あり） 各担当者がそれぞれの実務経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

本講義の目的は、脳血管障害患者の理学療法に関わった際に、どのような根拠で、どのようなことが実施されるべきなのかを理解できるようになることである。そのために、脳血管障害の理学療法における神経科学の重要性を説き、根拠ある理学療法を展開するための基礎知識の習得とその方法論を学習する。

■ 到達目標

- 1) 神経機能解剖学および神経生理学等の基本的内容が理解できる。
- 2) 脳血管疾患の病態および症状が理解できる。
- 3) 脳血管疾患およびその病期ごとに注意すべきリスクを想起できる。
- 4) 脳血管疾患およびその病期ごとに実施すべき理学療法について、科学的根拠に基づいた臨床推論が行える。

■ 授業計画

- 第1回 脳卒中の基礎
- 第2回 脳卒中の運動障害
- 第3回 急性期脳卒中の病態
- 第4回 急性期脳卒中片麻痺患者の早期離床
- 第5回 脳卒中片麻痺患者の肩障害
- 第6回 脳卒中片麻痺患者の早期歩行練習
- 第7回 脳卒中片麻痺患者の機能回復メカニズム
- 第8回 脳卒中片麻痺患者に対する理学療法1
- 第9回 脳卒中片麻痺患者に対する理学療法2
- 第10回 脳卒中片麻痺患者に対する理学療法3
- 第11回 脳卒中片麻痺患者の歩行障害
- 第12回 脳卒中片麻痺患者の歩行障害に対する理学療法（装具療法を中心に）
- 第13回 脳卒中片麻痺患者の姿勢定位障害および半側空間無視に対する理学療法
- 第14回 脳卒中片麻痺患者の予後予測
- 第15回 まとめ（遠隔授業：オンデマンド配信）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義内容の理解度を確保するために次回の講義で小テストを行います。60分程度の時間を取り、教科書を確認しながら講義内容の復習を行ってください。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められますので、理解が及んでいない点に関しては、積極的にオフィスアワー等を活用してください。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅰ
著者名：石川 朗（総編集）
出版社：中山書店

■ 参考図書

■ 留意事項

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」「神経障害理学療法治療学Ⅰ」の科目の理解が重要である。併せて復習しておくこと。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	老年期理学療法治療学						
担 当 者	田坂厚志、新家寿貴、木上秀幸、奥野泰介、池田耕二（全て実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	田坂厚志（総合病院、老人保健施設、クリニックでの実務経験あり）、新家寿貴（慢性期病院、リハ部門長として実務経験あり）、木上秀幸（介護老人保健施設にて実務経験あり）、奥野泰介（急性期、回復期リハ病院にて実務経験あり）、池田耕二（有床クリニック、急性期・回復期・療養型病院、訪問リハ従事、総合リハセンター部門長として実務経験あり） 各担当者がそれぞれの領域の実務経験を活かした授業を展開していく						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

老年期における心身機能を踏まえて理学療法の治療について学びます。田坂については自身の実務経験をふまえて老年期の理学療法全般に関する内容について講義します。新家、奥野、池田先生についてはそれぞれ実務経験に即した領域を講義します。

■ 到達目標

1. 老年期の心身機能の特徴について説明できる。
2. 介護老人保健施設での理学療法士の役割について説明できる。
3. 急性期、回復期、生活期・終末期・緩和ケアにおける老年期理学療法について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 老年期理学療法の背景 田坂
 第2回 フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム（1）田坂
 第3回 フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム（2）田坂
 第4回 介護老人保健施設での理学療法士の役割 木上
 第5回 遷延性意識障害と理学療法 新家
 第6回 老年期における急性期・回復期の理学療法の実際 奥野
 第7回 終末期・緩和ケアにおける老年期理学療法 池田
 第8回 転倒予防 田坂

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）や態度、課題の未提出に関しては減点（-2点）対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学修した内容をしっかりと定着させて実習や国家試験で使える知識とするために、次回の授業までに次回の範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度復習すること。
 提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書 名：高齢者理学療法学テキスト

著者名：山田和政

出版社：南江堂

■ 留意事項

授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2点）対象とする。

欠席した場合には必ず担当教員を訪ね、講義資料を受け取ること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動器障害理学療法治療学Ⅰ						
担 当 者	佐藤 睦美・岡 智大・高木啓至（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	各担当者は、医療機関等での運動器障害に対する理学療法の経験を活かした授業展開をしている。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

運動器障害の疾患の概念および理学療法評価・治療について学ぶ

■ 到達目標

運動器障害に対する理学療法評価計画，治療プログラムが立案できる

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス，骨折の理学療法： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第2回 熱傷の理学療法： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第3回 上肢運動器障害の理学療法（肩関節）①： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第4回 上肢運動器障害の理学療法（肩関節）②： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第5回 上肢運動器障害の理学療法（肘・前腕・手関節）①： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第6回 上肢運動器障害の理学療法（肘・前腕・手関節）②： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第7回 がんに対する理学療法①： 高木啓至（実務経験者）
- 第8回 がんに対する理学療法②： 高木啓至（実務経験者）
- 第9回 中間まとめ： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第10回 脊椎・体幹運動障害の理学療法①： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第11回 脊椎・体幹運動障害の理学療法②： 佐藤睦美（実務経験者）
- 第12回 下肢運動器障害に対する理学療法（股・膝関節）①： 岡 智大（実務経験者）
- 第13回 下肢運動器障害に対する理学療法（股・膝関節）②： 岡 智大（実務経験者）
- 第14回 下肢運動器障害に対する理学療法（膝・足関節）①： 岡 智大（実務経験者）
- 第15回 下肢運動器障害に対する理学療法（膝・足関節）②： 岡 智大（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義で扱う疾患について事前に moodle に掲示するので、整形外科科学Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：Crosslink 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学

著者名：加藤浩（編）

出版社：メジカルビュー社

書 名：整形外科術後療法プログラム 第3版

著者名：島田洋一・高橋仁美（編）

出版社：三輪書店

書 名：病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科

著者名：医療情報科学研究所（編）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：標準整形外科学 第14版 ※対象学生が2年時に購入した版をお願いします。14以外の場合は見本をいただけませんか。

著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）

出版社：医学書院

書 名：病態動画から学ぶ臨床整形外科的テスト

著者名：吉田一也・隈元庸夫（編）

出版社：株式会社ヒューマンプレス

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

■ 留意事項

本科目は、対面講義と遠隔講義（オンデマンド）を併用して実施する

対面講義では実技を実施するので、動きやすい服装で出席すること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動器障害理学療法治療学Ⅱ						
担 当 者	佐藤睦美・境 隆弘（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	各担当者は、医療機関等での運動器障害に対する理学療法の経験を活かした授業展開をしている。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

スポーツ外傷・障害の疾患の概念および理学療法評価・治療について学ぶ

■ 到達目標

スポーツ外傷・障害に対する理学療法評価計画，治療プログラムが立案できる

■ 授業計画

第1回 ガイダンス，スポーツ傷害総論，下肢のスポーツ外傷①：佐藤 睦美（実務経験者）
 第2回 下肢のスポーツ外傷②：佐藤 睦美（実務経験者）
 第3回 下肢のスポーツ外傷③：佐藤 睦美（実務経験者）
 第4回 下肢のスポーツ外傷④：佐藤 睦美（実務経験者）
 第5回 下肢のスポーツ外傷⑤：佐藤 睦美（実務経験者）
 第6回 下肢のスポーツ障害①：佐藤 睦美（実務経験者）
 第7回 下肢のスポーツ障害②：佐藤 睦美（実務経験者）
 第8回 下肢のスポーツ障害③：佐藤 睦美（実務経験者）
 第9回 中間まとめ：佐藤睦美：佐藤 睦美（実務経験者）
 第10回 上肢のスポーツ外傷①：佐藤 睦美（実務経験者）
 第11回 上肢のスポーツ外傷②：佐藤 睦美（実務経験者）
 第12回 上肢のスポーツ障害①：佐藤 睦美（実務経験者）
 第13回 上肢のスポーツ障害②：佐藤 睦美（実務経験者）
 第14回 上肢のスポーツ障害③（投球障害）：境 隆弘（実務経験者）
 第15回 上肢のスポーツ障害④（投球障害）：境 隆弘（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	
レポート	◎	20	%	
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義で扱う疾患について事前に moodle に掲示するので、整形外科科学Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：Crosslink 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学

著者名：加藤浩（編）

出版社：メジカルビュー社

書 名：整形外科術後療法プログラム 第3版

著者名：島田洋一・高橋仁美（編）

出版社：三輪書店

書 名：病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科

著者名：医療情報科学研究所（編）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：標準整形外科学 第14版 ※対象学生が2年時に購入した版をお願いします。14以外の場合は見本をいただけませんか。

著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）

出版社：医学書院

書 名：スポーツ膝の臨床（第2版）

著者名：史野根生

出版社：金原出版

書 名：復帰を目指す スポーツ整形外科

著者名：宗田大（編）

出版社：メジカルビュー社

書 名：病態動画から学ぶ臨床整形外科的テスト

著者名：吉田一也・隈元庸夫（編）

出版社：株式会社ヒューマンプレス

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

■ 留意事項

本科目は、対面講義と遠隔講義（オンデマンド）を併用して実施する

対面講義では実技を実施するので、動きやすい服装で出席すること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	運動器障害理学療法治療学Ⅲ						
担 当 者	井上悟・加藤直樹（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	両名とも疼痛性疾患、関節リウマチの理学療法の実務経験が豊富にあり、これらを活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

疼痛性疾患、関節リウマチの理学療法治療の現在の臨床について解説する。

■ 到達目標

疼痛性疾患、関節リウマチの理学療法治療の実際を知る。

■ 授業計画

- 第1回 疼痛性疾患総論1（加藤）
- 第2回 疼痛性疾患総論2（加藤）
- 第3回 疼痛性疾患3：腰痛
- 第4回 疼痛性疾患4：肩痛
- 第5回 関節リウマチ1
- 第6回 関節リウマチ2
- 第7回 関節リウマチ3
- 第8回 関節リウマチ4

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前後には、教科書・資料の授業該当範囲を予習・復習すること

■ 教科書

書 名：運動器障害理学療法治療学1の教科書を流用します。昨年の教科書を一応記載➡運動器障害理学療法学
 著者名：加藤浩
 出版社：メジカルビュー社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 骨関節理学療法学
 著者名：吉尾雅春・小柳磨毅
 出版社：医学書院

■ 留意事項

各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。
 不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	物理療法学						
担 当 者	田坂厚志（実務経験者）、島雅人（実務経験者）、棚千磨（実務経験者）						
実務経験者の概要	理学療法士として、医療・福祉施設での臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

まずは、物理療法機器によってもたらされる身体への生理学的作用を理解する。その上で、それに伴うリスク・適応・禁忌などを考える。実際の機器の操作は、物理療法学演習で体験する。田坂厚志（実務経験者）、島雅人（実務経験者）、棚千磨（実務経験者）

■ 到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する。
2. 各物理療法の生理学的作用を理解する。
3. 各物理療法のリスクを想起できるようになる。
4. 生理学的作用、リスクを勘案して、適切な物理療法機器の選択ができるようになる。
5. 各物理療法機器の設定値の意味を理解する。

■ 授業計画

第1回	物理療法の基礎知識	田坂 厚志（実務経験者） オンデマンド講義
第2回	生理学的作用、炎症・痛みに対する作用	島 雅人（実務経験者）
第3回	温熱療法、寒冷療法の基礎	田坂 厚志（実務経験者） オンデマンド講義
第4回	温熱療法、寒冷療法の基本手順とリスク管理	島 雅人（実務経験者）
第5回	光線療法、電磁波療法の基礎	田坂 厚志（実務経験者） オンデマンド講義
第6回	光線療法、電磁波療法の基本手順とリスク管理	島 雅人（実務経験者）
第7回	超音波療法の基礎	田坂 厚志（実務経験者） オンデマンド講義
第8回	超音波療法の基本手順とリスク管理	田坂 厚志（実務経験者）
第9回	電気刺激療法の基礎	田坂 厚志（実務経験者） オンデマンド講義
第10回	牽引、マッサージ、水治療法の基礎	田坂 厚志（実務経験者） オンデマンド講義
第11回	電気刺激療法の基本手順とリスク管理	島 雅人（実務経験者）
第12回	水治療法の基本手順とリスク管理	島 雅人（実務経験者）
第13回	マッサージ療法の基本手順とリスク管理	棚 千磨（実務経験者）
第14回	牽引療法の基本手順とリスク管理	田坂 厚志（実務経験者）
第15回	物理療法学のまとめ	田坂 厚志（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	小テストは対面講義開始前に実施し、解説は各テスト終了後に行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

知識の積み重ねが重要であり、授業開始時に知識の確認テストを実施します。知識を積み重ねるため、事前に前回授業の復習をしておいてください（1時間程度）。また、講義内容を暗記するのではなく、より深く理解するために講義前には30分程度の予習をしておいてください。オンデマンド講義では、物理療法学に必要な基礎知識を学修します。理解できるまで繰り返し確認してください。対面講義については、オンデマンド講義の内容を理解したうえで実施しますので、対面講義前までにオンデマンド講義を1回は視聴して臨んでください。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習
著者名：総編集：石川 朗
出版社：中山書店

■ 参考図書

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	物理療法学演習						
担当者	島 雅人（実務経験者）、安延由紀子（実務経験者）、伊禮まり子（実務経験者）						
実務経験者の概要	理学療法士として、医療・福祉施設での臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

物理療法学演習では、実際に物理療法機器を操作し、生体の反応を体感する。実際の機器操作前には、出力や温度などの物理療法機器の設定、適応・禁忌などのリスク管理などを重点的に学習する。また、実際の機器操作時には、それを扱うに足る知識があることを確認した後に機器操作の許可を出す。実習はグループに分かれ、各物理療法機器をローテーションで実施する。手順および適用と禁忌が理解できている事を実技および口頭試問にて確認する。島雅人（実務経験者）、安延由紀子（実務経験者）、伊禮まり子（実務経験者）

■ 到達目標

1. 各物理療法の仕組みと生理学的作用を説明できる。
2. 各物理療法について、手順および適用と禁忌を説明できる。
3. 各物理療法の手順を理解し、リスク管理を行いながら模擬的に実施することができる。
4. 模擬的に実施した結果をまとめることができる。

■ 授業計画

第1回 物理療法の手順 ①ホットパック、②パラフィン、③超短波、④極超短波

島 雅人（実務経験者）安延由紀子（実務経験者）

第2回 物理療法の手順 ⑤寒冷療法 ⑥超音波 ⑦S-D 曲線 ⑧低周波

島 雅人（実務経験者）安延由紀子（実務経験者）

第3回 物理療法の手順 ⑨干渉波、⑩間欠的空気圧迫療法、⑪牽引〔頸椎・腰椎〕 ⑫水治療法〔渦流浴・交代浴〕

島 雅人（実務経験者）安延由紀子（実務経験者）

第4回 演習 第1回目 指定された各班が、ローテーションで物理療法治療介入の演習を行う。同時に必要となる知識を復習する。

結果・考察などをレポート用紙にまとめ翌週の授業開始時に提出する。2回目以後も同様とする。

島 雅人（実務経験者）安延由紀子（実務経験者）

第5回 演習 第2回目 島 雅人（実務経験者）安延由紀子（実務経験者）

第6回 演習 第3回目 島 雅人（実務経験者）安延由紀子（実務経験者）

第7回 演習 第4回目 島 雅人（実務経験者）安延由紀子（実務経験者）

第8回 演習 第5回目 島 雅人（実務経験者）安延由紀子（実務経験者）

第9回 演習 第6回目 島 雅人（実務経験者）伊禮まり子（実務経験者）

第10回 演習 第7回目 島 雅人（実務経験者）伊禮まり子（実務経験者）

第11回 演習 第8回目 島 雅人（実務経験者）伊禮まり子（実務経験者）

第12回 実技確認・口頭試問・知識のまとめ① 島 雅人（実務経験者）伊禮まり子（実務経験者）

*ホットパック、パラフィン、極超短波、超短波

第13回 実技確認・口頭試問・知識のまとめ② 島 雅人（実務経験者）伊禮まり子（実務経験者）

*低周波、干渉波

第14回 実技確認・口頭試問・知識のまとめ③ 島 雅人（実務経験者）伊禮まり子（実務経験者）

*牽引療法、寒冷療法

第15回 実技確認・口頭試問・知識のまとめ④ 島 雅人（実務経験者）伊禮まり子（実務経験者）

*超音波、水治療法

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
提出課題	◎	40	%	
実技確認・口頭試問	◎	60	%	
その他・備考	講義内に実技試験を実施する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「演習の手引き」をあらかじめ十分に熟読・予習し、実習開始後速やかに行動ができるようにしてください。演習第1回目から第8回目までのグループ演習では、8回の実習項目について全員が課題を提出してください。物理療法の手順および適用と禁忌事項に関する実技確認・口頭試問を実施します。各演習で実施した内容を必ず復習しておいてください。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習
著者名：総編集：石川 朗
出版社：中山書店

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	義肢装具学						
担当者	井上 悟（実務経験者）						
実務経験者の概要	病院等の施設にて義肢装具の実務経験が豊富にあり、この経験を活かした授業展開を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。

■ 到達目標

臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。

臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。

■ 授業計画

第1回 オリエンテーション（授業計画の概要と成績判定方法の説明）

義肢学1 切断総論1

第2回 義肢学2 切断総論2

第3回 義肢学3 義足総論1

第4回 義肢学4 義足総論2

第5回 義肢学5 下腿切断と下腿義足1（ソケット）

第6回 義肢学6 下腿義足2（ソケット）

第7回 義肢学7 下腿義足3（足部、足継手）

第8回 義肢学8 下腿義足4（適合とアライメント）

第9回 義肢学9 大腿切断と大腿義足1（ソケット）

第10回 義肢学10 大腿義足2（ソケットと懸垂）

第11回 義肢学11 大腿義足3（膝継手）

第12回 義肢学12 大腿義足4（適合とアライメント）

第13回 装具学1 装具総論（下肢装具を中心に）

第14回 装具学2 下肢装具の基本構造、アライメント

第15回 装具学3 靴と靴型装具（FO）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前後には、教科書・資料の授業該当範囲を予習・復習すること

■ 教科書

書 名：義肢装具学（第4版）

著者名：川村次郎・他編

出版社：医学書院、定価：7700円、2022年14刷（注：最新版で）

■ 参考図書

書 名：切断と義肢（第3版）

著者名：澤村誠志

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

義肢学と装具学の配分は変更することがあります。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	義肢装具学演習						
担 当 者	井上悟・境隆弘・高木啓至・西野誠一（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	各担当者が病院等の施設にて義肢装具の実務経験が豊富にあり、この経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。

■ 到達目標

臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。

■ 授業計画

- 第1回 義肢学演習1 股関節離断と股義足
- 第2回 義肢学演習2 膝離断と膝義足
- 第3回 義肢学演習3 サイム切断とサイム義足
- 第4回 義肢学演習4 足部切断と足部義足
- 第5回 義肢学演習5 切断者の理学療法1
- 第6回 義肢学演習6 切断者の理学療法2
- 第7回 義肢学演習7 切断者の理学療法3
- 第8回 義肢学演習8 切断者の理学療法4：（異常歩行とその対策）
- 第9回 装具学演習1 疾患・障害別装具1 対麻痺、二分脊椎の装具（足装具含）
- 第10回 装具学演習2 疾患・障害別装具2 小児疾患用装具、整形外科的治療用装具
- 第11回 装具学演習3 疾患・障害別装具3 体幹装具、側弯症装具
- 第12回 装具学演習4 疾患・障害別装具4 CVA 片麻痺の装具
- 第13回 装具学演習5 疾患・障害別装具5 スポーツ障害の装具療法（境教授）（実務経験者）
- 第14回 義肢装具学演習6 がんりハビリテーションと義肢・装具（高木 PT）（実務経験者）
- 第15回 義肢装具学演習7 義肢・装具の最新情報（西野 PO）（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前後には、教科書・資料の授業該当範囲を予習・復習すること

■ 教科書

書 名：義肢装具学（第4版）
 著者名：川村次郎・他編
 出版社：医学書院、定価：7700円、2022年14刷（注：最新版で）

■ 参考図書

書 名：切断と義肢（第3版）

著者名：澤村誠志

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

義肢学と装具学の配分は変更することがあります。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	日常生活活動学						
担 当 者	相原一貴（実務経験者）						
実務経験者の概要	理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院やデイサービスでのリハビリテーションに携わっており、これらの知見と経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

日常生活活動学では、我々が普段意識することなく行っている日常生活が、理学療法において重要な評価・介入対象であることを学びます。そして、理学療法士として専門的な視点における日常生活の捉え方を学びます。主な疾患や病態における日常生活の特徴並びに介助方法や指導方法について学習します。

■ 到達目標

- ・日常生活活動の定義や概念を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な ADL 評価方法を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な福祉用具の調整方法について理解する。
- ・各疾患の日常生活動作の特徴を理解する。
- ・疾患や障害と日常生活との関係を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 日常生活活動（ADL）の概念と範囲 - 、基本的 ADL と生活の質（QOL）（担当：相原）
第2回 ADL の評価①（代表的な評価方法について：Barthel Index）（担当：相原）
第3回 ADL の評価②（代表的な評価方法について：FIM）（担当：相原）
第4回 ADL の評価③（BI と FIM の模擬症例検討）（担当：相原）（遠隔授業：オンデマンド配信）
第5回 その他の ADL 評価と福祉用具（担当：相原）
第6回 移動・移乗に関する ADL（担当：相原）
第7回 片麻痺患者の ADL（担当：相原）
第8回 整形疾患患者の ADL（担当：相原）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	毎回講義の冒頭に前回講義の確認小テストを実施します。 その他上記以外に講義内提出物（課題プリント等）を 10% とします。なお正当な理由がない欠席や遅刻については減点とし（欠席：-3 点、遅刻：－ 1 点）また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 2 点）とします。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。各講義終了後に、復習用動画を掲示するので、それを用いて、次の講義の小テストに向け、1時間程度の復習を行う事が望ましいです。BI や FIM を代表とする ADL の評価は、単なる暗記ではなく、実際に自分で評価できるようになる必要があります。講義内で配布する国家試験類似問題等には、積極的に取り組んでください。また、ADL の分野は特に考え方・捉え方を応用できる様になることが求められるため、教科書や参考書で積極的に調べ学習を行い、予習をして講義に取り組んでください。なお、小テストの結果は、採点が終わり次第開示するので、聞きたい学生は共同研究室まで来てください。

■ 教科書

書 名：Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学
著者名：臼田 滋 編集
出版社：メジカルビュー社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学（第5版）
著者名：鶴見隆正編
出版社：医歯薬出版

書 名：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－
著者名：伊藤利之、江藤文夫／著
出版社：医歯薬出版

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト ADL
著者名：柴喜崇、下田信明／著
出版社：羊土社

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。
やむを得ず講義を欠席した場合は、必ず次の講義開始前までに共同研究室に講義資料を取りに来てください。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	日常生活活動学演習						
担 当 者	相原一貴（実務経験者）、植田翔介（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	・相原（理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院やデイサービスでのリハビリテーションに携わっている。） ・植田（理学療法士として脊髄損傷患者を専門とした施設に勤務している。） 各担当者それぞれの領域の知見と経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

日常生活活動学では、我々が普段意識することなく行っている日常生活が、理学療法において重要な評価・介入対象であることを学びます。そして、理学療法士として専門的な視点における日常生活の捉え方を学びます。主な疾患や病態における日常生活の特徴並びに介助方法や指導方法について学習します。

■ 到達目標

- ・日常生活活動の定義や概念を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な ADL 評価方法を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な福祉用具の調整方法について理解する。
- ・各疾患の日常生活動作の特徴を理解する。
- ・疾患や障害と日常生活との関係を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 姿勢と動作の基本理解、コーチングについて（担当：相原）
第2回 動作介助の基本、車椅子の理解（担当：相原）
第3回 起居動作の理解と介助法（担当：相原）
第4回 立ち上がり・移乗動作の理解と介助法（担当：相原）
第5回 歩行・段差昇降・階段昇降動作の理解と介助法（担当：相原）
第6回 各論 片麻痺患者の ADL 指導①（担当：相原）
第7回 各論 片麻痺患者の ADL 指導②（担当：相原）
第8回 各論 整形外科疾患患者（関節リウマチ、人工股関節置換術後）の ADL 指導（担当：相原）
第9回 各論 パーキンソン病患者の ADL 指導（担当：相原）
第10回 各論 神経難病疾患患者の ADL 指導、コミュニケーションツールについて①（担当：相原）
第11回 各論 神経難病疾患患者の ADL 指導、コミュニケーションツールについて②（担当：相原）
第12回 各論 脊髄損傷患者の ADL 指導①（担当：植田）
第13回 各論 脊髄損傷患者の ADL 指導②（担当：植田）
第14回 各論 呼吸循環器系疾患患者の ADL 指導（担当：相原）
第15回 トランスファー等の介助方法の実技確認（担当：相原）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	その他講義内提出物（課題、ノート等）30%、実技試験 30%とする。正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-3 点、遅刻：－ 1 点）また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 2 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

この科目は、第2Qで学修した日常生活活動学と深く関係しています。そのため、日常生活活動学で学んだ内容を、講義資料等で45分程復習することがこの講義の予習になります。しっかり準備して講義に望んでください。また各講義終了後は、講義内で扱った介助技術や指導方法の習熟のために学生同士で実技練習をすることを推奨します。疾患ごとの臨床症状に合わせた動作介助方法や指導方法を学ぶため、各疾患の病態について復習し、講義を受ける事も推奨します。なお、小テストの結果は、採点が終わり次第開示するので、聞きたい学生は共同研究室まで来てください。

■ 教科書

書 名：Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学
著者名：臼田 滋 編集
出版社：メジカルビュー社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学（第5版）
著者名：鶴見隆正編
出版社：医歯薬出版

書 名：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－
著者名：伊藤利之、江藤文夫／著
出版社：医歯薬出版

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト ADL
著者名：柴喜崇、下田信明／著
出版社：羊土社

■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。動作介助に関する実技を行うので、必ず動きやすい服装・靴（上下ジャージ等）で参加してください。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	地域理学療法学						
担 当 者	中村 彩（実務経験者）・田中 仁（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	理学療法士として地域理学療法を実践している、ないしはしていた。また訪問看護ステーション、通所介護、ケアマネ、訪問介護事業所、住宅型有料老人ホーム等の介護保険施設を運営し、また通所リハビリ、訪問リハビリを併設する診療所と児童発達、放課後等デイサービスを運営している。これらの知見と経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

地域リハビリテーションの概念を学ぶとともに、地域で実践されている理学療法について、理学療法士や関連職より業務の内容や必要な知識を学ぶ。

■ 到達目標

1. 地域リハビリテーションを理解できる
2. 地域における理学療法士の役割を知る事ができる
3. 理学療法士としての地域理学療法に携わるやりがいを知る事ができる
4. 地域に求められる理学療法士像についてイメージすることができる

■ 授業計画

- 第1回 地域リハビリテーションと地域理学療法（中村）
 第2回 地域理学療法の関連制度・関連法規（中村）
 第3回 地域包括ケアシステムと地域連携（中村）
 第4回 地域理学療法と介護保険制度（中村）
 第5回 介護保険制度におけるリハビリテーション（中村）
 第6回 介護保険制度におけるリハビリテーション（田中）
 第7回 健康増進・介護予防（中村）
 第8回 地域理学療法を実施するために必要な知識の整理（中村）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	提出課題：10% 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点）。 不良な学習態度（携帯端末の不必要な操作、必要な資料・教科書・物品の忘れなど）は減点対象（1 回：- 5 点）とする。 小テストについては、当日中にフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業後には必ず内容の振り返りを講義時間と同程度行ってください。
 質問などがあれば、その都度教員へと質問してください。

■ 教科書

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版
 著者名：重森 健太、横井賀津志／編
 出版社：羊土社

■ 参考図書

■ 留意事項

地域理学療法の重要性はますます広がっています。臨床実習においても経験する機会が設けられているため、まずは授業の復習を行い理解を深めることが求められます。

法や制度は改正されていくものです。講義を受講した後、数年後には制度が変わっている可能性があります。新たな制度が施行されるときには、自ら情報収集を行い知識のアップデートを図るようにしてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	生活環境論						
担当者	相原一貴（実務経験者）						
実務経験者の概要	理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院やデイサービスでのリハビリテーションに携わっており、これらの知見と経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

生活環境論では、リハビリテーションに関係が深い、生活環境について学びます。理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、また福祉用具の活用方法も含め、どのように考えるのかを学びます。

■ 到達目標

- ・医療保険制度と介護保険制度を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な福祉用具の特徴や使用方法について理解する。
- ・疾患や障害と生活環境の関係を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 日本の社会保障の概論（担当：相原）
 第2回 医療保険制度と介護保険制度①（担当：相原）
 第3回 医療保険制度と介護保険制度②（担当：相原）
 第4回 日本のリハビリテーションと地域包括ケアシステム（担当：相原）
 第5回 居住環境：移乗移動関係（担当：相原）
 第6回 居住環境：寝具関係（担当：相原）（遠隔授業：オンデマンド配信）
 第7回 居住環境：入浴・排泄関係（担当：相原）（遠隔授業：オンデマンド配信）
 第8回 住宅改修について（担当：相原）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	毎回、講義の冒頭に前回講義の内容を確認する小テストを実施します。 上記以外に講義内提出物（課題プリント等）10%とします。 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とし、(欠席:-3点、遅刻:-1点) また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回:-2点）とします。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。各講義終了後に、復習用動画を掲示するので、それを用いて、次の講義の小テストに向け、1時間程度の復習を行う事が望ましいです。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できる様になることが求められるため、教科書や講義資料で積極的に調べ学習等の予習を行い、講義に取り組んでください。なお、小テストの結果は、採点が終わり次第開示するので、聞きたい学生は共同研究室まで来てください。

■ 教 科 書

書 名：Crosslink リハビリテーションテキスト 生活環境学
著者名：臼田 滋 編集
出版社：メジカルビュー社

■ 参 考 図 書

書 名：生活環境論 - 生活支援の視点と方法 - 第6版
著者名：木村哲彦 監修
出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：生活場面から見た福祉用具活用法
著者名：浅井憲義、大熊明、奈良篤史 編著
出版社：中央法規

■ 留 意 事 項

やむを得ず講義を欠席した場合は、必ず次の講義開始前までに共同研究室に講義資料を取りに来てください。準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	国際リハビリテーション						
担 当 者	井口 知也・寺村 晃・辻 郁・PT 専任教員						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	自由		

■ 授業目的・内容

- 1) スタディツアーに参加し、他国の障害児者など人々と交流し、生活やリハビリテーションの現状に触れる。交流するための活動の準備をする。
- 2) 帰国後は、レポート作成を通して、ツアーを振り返り、人々の生活やリハビリテーションの現状を自国と比較しその相違を明らかにする。同時にセラピストのなるための自己課題を明らかにする。

■ 到達目標

- 1) 体調管理に努め、一連の活動に参加する。
- 2) 帰国後に活動全体を振り返りレポート作成ができる。

■ 授業計画

国際リハビリテーションは以下の内容で構成される
 スタディツアー準備
 スタディツアーへの参加（5泊6日程度）
 スタディツアーの振り返り，レポート作成

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	60	%	
小テスト				
その他・備考	40% は出席と準備から振り返りまでの取り組み態度で評価する。 ※ 1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－5 点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3 点とする）。 ※ 2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1 回につき - 5 点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

必要の応じて調べ物をしたり、期限までに準備等ができるよう取り組むこと

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。国外に出かけることは学生時代に与えられた良い機会です。多くの学生が参加することを期待する。参加する者は十分な体調管理に努めること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法管理学Ⅰ（職業教育）						
担 当 者	島 雅人・他（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	島 雅人：教育場面においては、大阪保健医療大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻において、専攻主任の実務経験を有している。現在も学科長として管理実務を行っている。また、臨床現場においては、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの実務経験を有している。現在も訪問看護ステーションにおいてスーパーバイザーとして管理実務を行っている。 外部講師：各分野において管理的立場の実務経験を有している理学療法士より講義を行う。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法を学び始めた時期に、職業教育の一環として理学療法士としてのプロフェッショナリズムを学ぶことを目的とします。様々な分野で活躍する理学療法士の話聞き、理学療法士の業務や役割、職業としてのやりがい、多様性、求められる知識・技能・態度、社会からどのように求められているのか、将来性等について学びます。

■ 到達目標

1. 理学療法士の仕事内容、役割を理解できる
2. 理学療法士の職業の多様性について理解できる
3. 理学療法士としてのプロフェッショナリズムとは何かを理解できる
4. 社会に求められる理学療法士像についてイメージすることができる

■ 授業計画

- 第1回 理学療法士を取り巻く社会状況、求められるセラピストとは何か？（島）
- 第2回 様々な分野で活躍する理学療法士：急性期医療（外部講師 実務経験者）
- 第3回 様々な分野で活躍する理学療法士：回復期医療（外部講師 実務経験者）
- 第4回 様々な分野で活躍する理学療法士：在宅医療（外部講師 実務経験者）
- 第5回 様々な分野で活躍する理学療法士：スポーツ分野（外部講師 実務経験者）
- 第6回 様々な分野で活躍する理学療法士：世界の医療・福祉（外部講師 実務経験者）
- 第7回 様々な分野で活躍する理学療法士：起業、経営（外部講師 実務経験者）
- 第8回 理学療法士としてのプロフェッショナリズムとは何か？（島）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	50	%	
小テスト				
その他・備考	課題提出 50%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容をメモし、メモした内容を次の授業までに整理し、少なくとも30分程度は見直しておくこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

様々な分野で活躍する理学療法士をお招きし、それぞれの分野の役割や、やりがいについて語っていただきます。講師の先生へは大変お忙しい中をお越しいただきますので、礼儀正しく感謝の気持ちを込めて受講してください。質問がある場合は適宜授業時間内に行ってください。講師の話聞き、メモを取り、次の授業までに整理し、理解を深めてください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法管理学Ⅱ（職業管理、教育、職業倫理）						
担 当 者	4年チューター・他（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	理学療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

現場の理学療法士に求められる管理・マネジメントや職業倫理の基本やについて学ぶ。具体的には、理学療法士の業務の流れや情報の管理、リスク管理、感染症の予防などである。医療・介護・福祉の各領域におけるマネジメントについて理解を深める。

■ 到達目標

- ・病院、施設、在宅、地域において理学療法士に求められるマネジメントについて理解する。
- ・情報の管理、リスク管理、感染症の予防などについて説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法士の職場管理・職業倫理について
第2回 理学療法業務と管理（1） 地域医療・福祉・生活支援事業
第3回 理学療法業務と管理（2） 病院・介護老人保健施設①
第4回 理学療法業務と管理（3） 病院・介護老人保健施設②
第5回 理学療法業務と管理（4） 病院・介護老人保健施設③
第6回 理学療法業務と管理（5） 病院・介護老人保健施設④
第7回 理学療法業務と管理（6） 訪問リハビリテーション
第8回 理学療法業務と管理（7） 通所リハビリテーション

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	1 月末に科目試験を実施します。 正当な理由の無い欠席（-4 点）、遅刻（-2 点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2 点）対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で学修した内容は30分程度復習すること。
提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法研究法						
担当者	伊禮まり子						
実務経験者の概要	理学療法士として、臨床現場において従事していた。また、リハビリテーション分野における基礎研究に従事している経験を活かし授業を進める。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

理学療法学における研究の意義、医学論文を読むために必要な知識、および研究を遂行する際に必要となる考え方について学ぶ。

■ 到達目標

理学療法学における研究の意義、医学論文を読むために必要な知識、および研究を遂行する際に必要となる考え方について理解することができる。
自身の興味のあるテーマについて文献検索を行い、論文を精読し、内容をまとめることができる。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法研究の必要性（EBM・EBPT）
- 第2回 研究デザイン
- 第3回 文献検索
- 第4回 研究計画・研究倫理
- 第5回 データの尺度・特性値・グラフ
- 第6回 Excelを使ったデータ処理演習
- 第7回 推測統計学①（推定と検定の考え方）
- 第8回 推測統計学②（検定手法の選択）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	30	%	
小テスト				
その他・備考	講義中の課題：70%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回で提示する課題に真摯に取り組んでください。
新たな専門用語が多く出てきます。授業後の復習では、用語の意味を理解し定着させることがポイントです。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書 名：理学療法研究法

著者名：対馬栄輝

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：PT・OT のための臨床研究ははじめの一步

著者名：山田 実 編集

出版社：羊土社

書 名：医療系研究論文の読み方・まとめ方

著者名：対馬栄輝

出版社：東京図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法演習Ⅰ（演習・調査・研究）						
担 当 者	PT 専任教員					（オムニバス）	
実務経験者の概要	理学療法士として、各担当者が病院や介護老人保健施設等での経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

ゼミナール形式で、領域を絞って疾患、理学療法について発展的内容を学ぶ。
実施内容の詳細については、各ゼミ担当教員より通知する。

■ 到達目標

当該領域の疾患、理学療法について理解を深め、臨床で応用できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 各領域における疾患の病態を理解する①
- 第2回 各領域における疾患の病態を理解する②
- 第3回 各領域における疾患の病態を理解する③
- 第4回 各領域における疾患の病態を理解する④
- 第5回 各領域における疾患の病態を理解する⑤
- 第6回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ①
- 第7回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ②
- 第8回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ③
- 第9回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ④
- 第10回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ⑤
- 第11回 計測・測定・検査の結果を解釈する①
- 第12回 計測・測定・検査の結果を解釈する②
- 第13回 計測・測定・検査の結果を解釈する③
- 第14回 計測・測定・検査の結果を解釈する④
- 第15回 計測・測定・検査の結果を解釈する⑤

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	演習への取り組み態度や理解度を反映した評価表 100% で判定する。 参加態度（正当な理由・連絡のない欠席 -4 点、遅刻・早退 -2 点の減点となる）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各ゼミ担当教員より指示する。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法演習Ⅱ（演習・調査・研究）						
担 当 者	PT 専任教員					（オムニバス）	
実務経験者の概要	PT 専任教員は、病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見と経験を基に学生指導にあたる予定である。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

ゼミナール形式で、領域を絞って疾患、理学療法について発展的内容を学ぶ。
実施内容の詳細については、各ゼミ担当教員より通知する。

■ 到達目標

当該領域の疾患、理学療法について理解を深め、臨床で応用できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法アプローチを学ぶ①
- 第2回 理学療法アプローチを学ぶ②
- 第3回 理学療法アプローチを学ぶ③
- 第4回 理学療法アプローチを学ぶ④
- 第5回 理学療法アプローチを学ぶ⑤
- 第6回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める①
- 第7回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める②
- 第8回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める③
- 第9回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める④
- 第10回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める⑤
- 第11回 まとめ①
- 第12回 まとめ②
- 第13回 まとめ③
- 第14回 まとめ④
- 第15回 まとめ⑤

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	参加態度（正当な理由・連絡のない欠席 -4 点、遅刻・早退 -2 点の減点となる）。 演習への取り組み、理解度確認テスト（筆記・実技）で総合的に(100%)判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各ゼミ担当教員より指示する。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法特別演習（卒業試験）						
担 当 者	PT 専任教員・外部講師						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

学内で学んだ基礎医学・臨床医学・各疾患の理学療法について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習等を通じて理解を深める

■ 到達目標

基礎医学・臨床医学・各疾患の理学療法の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行できる

■ 授業計画

- 第1回 運動器障害の理学療法
- 第2回 スポーツ障害の理学療法
- 第3回 脳血管障害の理学療法（評価）
- 第4回 脳血管障害の理学療法（治療）
- 第5回 神経・筋疾患の理学療法
- 第6回 呼吸器障害の理学療法
- 第7回 循環器障害の理学療法
- 第8回 発達障害
- 第9回 小児期の理学療法
- 第10回 理学療法評価①
- 第11回 理学療法評価②
- 第12回 運動療法
- 第13回 物理療法
- 第14回 日常生活活動
- 第15回 リハビリテーション医学

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	100	%	
その他・備考	小テストは毎回の講義終了時に実施する。 正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2点）対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

これまでに学んだ内容の総復習の内容である。
 学修について不足がある場合は適宜教員に相談し、助言を得ること。

■ 教科書

書 名：理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント
(専門基礎分野 基礎医学, 専門基礎分野 臨床医学, 基礎 PT 学, 障害別 PT 治療学)

著者名：医歯薬出版 (編)

出版社：医歯薬出版

書 名：国試の達人 (運動解剖生理学編, 臨床医学編, 理学療法編)

著者名：理学療法科学学会 (編)

出版社：理学療法科学学会

書 名：リハドリル (Web 版)

出版社：アイベック

■ 参考図書

書 名：理学療法士作業療法士 過去問題集 10年分 (共通問題, 専門問題)

著者名：電気書院編集部 (編)

出版社：電気書院 久美部門

書 名：PT・OT 国家試験共通問題 である・でたもん (基礎医学, 臨床医学)

著者名：「標準理学療法学・作業療法学」編集室 (編)

出版社：医学書院

書 名：基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編

著者名：ヒントレ研究所 (編)

出版社：南江堂

■ 留意事項

講義内容や回数は学生の状況により上記記載に限らない。

不測の事態 (災害等) が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム (Moodle) を通じて周知する。

授業科目	臨床見学						
担 当 者	棚 千磨（実務経験者）・1年チューター（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当者は、急性期病院～訪問リハビリテーションに至るまで、多岐にわたる臨床経験を積んでいる。現在も、矯正医療領域のリハビリテーションに携わっており、本実習においてはそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

専任教員と共に医療施設で臨床現場の見学を行う。事前にオリエンテーションと演習を行う。また、見学後も、演習を実施する。

■ 到達目標

- ・理学療法の実際を見学し、理学療法士の仕事を理解する。
- ・対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 学内演習〈事前〉
- ・本授業の内容、目標等について
 - ・医療現場におけるコミュニケーションについて（実技あり）
 - ・車椅子操作について（実技あり）
 - ・バイタル測定について（実技あり）
 - ・感染症について（実技あり）
 - ・身だしなみについて
- 学外実習
- ・理学療法の臨床現場を見学
- 学内演習〈事後〉
- ・見学で得られた経験、感想などを発表

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	・課題提出物、実習に取り組む姿勢等を基に判断する。 ・実習内容、態度及び提出物（90％）、経験報告会での発表等を基に学内で協議し、総合的に判断する。 ・課題物提出、実習に取り組む姿勢などを基に判断する。 ・学内演習、学外実習とも欠席、遅刻は減点とし、特に無断欠席の場合は大幅減点とする（無断欠席－6、遅刻－2）。 ・提出物の提出遅れ、内容不備は減点とする（-2）。 ・身だしなみ再チェックとなった場合は、減点とする（-2）。 ・適切な身だしなみ、期日までの教員への連絡、期日までの課題提出、期日までのワクチン接種など学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示に従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学内演習で学んだコミュニケーションに関する知識・経験を整理し、コミュニケーションの練習を積んで臨むこと。本科目終了後は、自身の課題を整理し、次の実習に繋げることができるように心がけておくこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	見学実習Ⅰ						
担 当 者	棚 千磨（実務経験者）・2年チューター（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当者は、急性期病院～訪問リハビリテーションに至るまで、多岐にわたる臨床経験を積んでいる。現在も、矯正医療領域のリハビリテーションに携わっており、本実習においてはそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

学生は、協力施設で病院実習もしくは地域リハビリテーション実習を行う。実習実施にあたっては、専任教員ーリハビリテーション科スタッフ指導の下、施設内で見学を行い、病院実習の場合は併設の臨学共同参画センターで準備・まとめ作業等を行う。

■ 到達目標

〔病院実習〕

1. スタッフ・教員の指導を受けながら「逸脱動作ー機能障害」の関連を理解する。
2. スタッフ・教員の指導を受けながら、「生活ー動作」の関連性を理解する。

〔地域リハビリテーション実習〕

地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。

■ 授業計画

第1回 学内オリエンテーション：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

- ・実習施設：協力施設（病院、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）
- ・実習期間：5日間
- ・実習形態：

〔病院実習〕

専任教員とリハビリテーション科スタッフの指導／監督の下、臨床における理学療法場面の見学を行う。また、臨学共同参画センターで、見学における準備やまとめ作業を行い、それらの経験を踏まえて発展的に学習を進めていく。専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、リハビリテーション科スタッフと綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

〔地域リハビリテーション実習〕

通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおける経験を通して、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割や地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割について学習する。

医療施設スタッフ・対象者の利益：

協力施設スタッフに於いても、当連携に参加することにより、その資質向上が得られることが期待されている。学生指導を通して対象者の障害像把握が明確化され、更には教員との情報交換も経て、より良いリハビリテーション提供に繋がるものと考えられる。これらの事項は結果的に対象者の利益にも繋がり、学生・スタッフ・対象者三者の利益を得るという点に、本科目は主眼を置いている。

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	・課題提出物、実習に取り組む姿勢等を基に判断する。 ・実習内容、態度及び提出物（80％）、経験報告会での発表（20％）等を基に学内で協議し、総合的に判定する。 ・学内演習、学外実習とも欠席、遅刻は減点とし、特に無断欠席の場合は大幅減点とする（無断欠席－6、遅刻－2）。 ・提出物の提出遅れ、内容不備は減点とする（-2）。 ・身だしなみ再チェックとなった場合は、減点とする（-2）。 ・適切な身だしなみ、期日までの教員への連絡、期日までの課題提出、期日までのワクチン接種など学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示に従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床見学を振り返り、自身の課題を明確化しておくこと。健常者同士での検査・測定技術はマスターしておくこと。

能力障害と機能障害との関係を理解していくために、解剖学・運動学等の知識を整理しておくこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

実習施設の配置については、別途発表する。

この実習で、病院実習を経験した学生は見学実習Ⅱで地域リハビリテーション実習を、地域リハビリテーション実習を経験した学生は病院実習を経験してもらう予定である。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	見学実習Ⅱ						
担 当 者	棚 千磨（実務経験者）・3年チューター（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当者は、急性期病院～訪問リハビリテーションに至るまで、多岐にわたる臨床経験を積んでいる。現在も、矯正医療領域のリハビリテーションに携わっており、本実習においてはそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

学生は、協力施設で病院実習もしくは地域リハビリテーション実習を行う。実習実施にあたっては、専任教員ーリハビリテーション科スタッフ指導の下、施設内で見学を行い、病院実習の場合は併設の臨学共同参画センターで準備・まとめ作業等を行う。

■ 到達目標

〔病院実習〕

1. スタッフ・教員の指導を受けながら「逸脱動作ー機能障害」の関連を理解する。
2. スタッフ・教員の指導を受けながら、「生活ー動作」の関連性を理解する。

〔地域リハビリテーション実習〕

地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。

■ 授業計画

第1回 見学実習Ⅱにおける学生配置は以下の通りとする。

見学実習Ⅰ

見学実習Ⅱ

病院実習履修

→地域リハビリテーション実習

地域リハビリテーション実習履修→

病院実習

学内オリエンテーション：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

- ・実習施設：協力施設（病院、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）
- ・実習期間：5日間
- ・実習形態：

〔病院実習〕

専任教員とリハビリテーション科スタッフの指導／監督の下、臨床における理学療法場面の見学を行う。また、臨学共同参画センターで、見学における準備やまとめ作業を行い、それらの経験を踏まえて発展的に学習を進めていく。専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、リハビリテーション科スタッフと綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

〔地域リハビリテーション実習〕

通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおける経験を通して、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割や地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割について学習する。

医療施設スタッフ・対象者の利益：

協力施設スタッフに於いても、当連携に参加することにより、その資質向上が得られることが期待されている。学生指導を通して対象者の障害像把握が明確化され、更には教員との情報交換も経て、より良いリハビリテーション提供に繋がるものと考えられる。これらの事項は結果的に対象者の利益にも繋がり、学生・スタッフ・対象者三者の利益を得るという点に、本科目は主眼を置いている。

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	・課題提出物、実習に取り組む姿勢等を基に判断する。 ・実習内容、態度及び提出物（80％）、経験報告会での発表（20％）等を基に学内で協議し、総合的に判定する。 ・学内演習、学外実習とも欠席、遅刻は減点とし、特に無断欠席の場合は大幅減点とする（無断欠席－6、遅刻－2）。 ・提出物の提出遅れ、内容不備は減点とする（-2）。 ・身だしなみ再チェックとなった場合は、減点とする（-2）。 ・適切な身だしなみ、期日までの教員への連絡、期日までの課題提出、期日までのワクチン接種など学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示に従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床見学を振り返り、自身の課題を明確化しておくこと。健常者同士での検査・測定技術はマスターしておくこと。

能力障害と機能障害との関係を理解していくために、解剖学・運動学等の知識を整理しておくこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

実習施設の配置については、別途発表する。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	評価実習						
担 当 者	3年チューター（すべて実務経験者）					(オムニバス)	
実務経験者の概要	理学療法士として、病院や介護保健施設などの臨床経験を活かした授業を展開する						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	4単位	講義 形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

実際の対象者を通し、理学療法評価の臨床思考過程およびスキルアップを目指すことが目的である。そのため、国内の医療施設または介護老人保健施設等で4週間の臨床実習を行う。

■ 到達目標

臨床実習指導者の監督や助言の下で、理学療法評価からプログラム立案までのプロセスを経験し、個々の理学療法場面について理解を深める。

■ 授業計画

第1回 実習施設：近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院、介護老人保健施設など
 実習期間：4週間
 実習形態：臨床実習指導者の監督や助言の下で、主に理学療法士が実施する理学療法評価（医療面接や検査・測定、結果の解釈など）について、臨床現場の見学や指導者の説明を通じ、理学療法士がどのようなことを考えているのか思考を含めて学習する。また、可能な範囲で理学療法過程を経験する。実習期間中は、専任教員が適宜訪問あるいは遠隔で実習指導者と面談を行い、学生の実習態度や進行状況を把握する。

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	出席（欠席-4点、遅刻・早退-2点）、実習内容及び態度（50%）、実習前後評価（50%）等を下に学内で協議し、総合的に判定する。 自己都合により、期日までに自己チャートを作成出来ない場合は、減点とする。（履修要件） 3年前期科目で留年が確定した場合は、評価実習を履修することが出来ない。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

自己チャートで作成した実習目標や実習前及び実習中の計画を踏まえた上で、予習・復習に取り組む。実習期間中に経験したことは、デイリーノートに記録をとる。また、経験した内容を踏まえ、文献を用いて学習した内容を記録する。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

評価実習の実習要綱には、評価実習を進めるにあたり必要事項が記載されているため、繰り返し目を通し、理解しておくこと。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	総合臨床実習						
担 当 者	4 年チューター・PT 専任教員（すべて実務経験者）					(オムニバス)	
実務経験者の概要	PT 専任教員は、病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 4 単位	講義 形式	実習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

国内の医療提供施設や介護保険施設等で7週間の臨床実習を2期間行う。

臨床実習指導者の監督・指導の下、様々な疾患・状態の対象者様に対する理学療法場面や様々な理学療法業務について理解を深めることを目的とする。

■ 到達目標

評価実習の内容に加え、理学療法士が実施する治療プログラム（治療目標および計画の立案、実践、効果判定など）について、臨床現場の見学や指導者の説明を通じ、理学療法士がどのようなことを考えているのか思考を含めて学ぶ。また、可能な範囲で基本的な検査・測定や治療技術等を適切に実施することで、理学療法過程を経験する。

■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の医療提供施設、介護保険施設、通所リハ、訪問リハなど

実習期間 7週間×2期間

実習の形態・進め方

臨床実習指導者の監督・指導の下、様々な疾患・状態の対象者様に対する理学療法場面や様々な理学療法業務について理解を深める。具体的には、診療録や医療面接からの情報収集、検査・測定と結果の解釈、治療目標の設定および計画の立案、実践、効果判定などを臨床実習指導者の監督・指導の下で経験する。また、可能な範囲で基本的な検査・測定や治療技術等を経験する。

実習期間中は、専任教員が適宜訪問あるいは遠隔で実習指導者と面談を行い、学生の実習態度や進行状況を把握する。専任教員は実習指導者とコミュニケーションをとり、問題や課題がある場合は調整を行う。本実習期間内に地域リハビリテーション実習を行う場合がある。

地域リハビリテーション実習を実施する場合は7週間のうち、計5日間とする。

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	出席（欠席 -4 点、遅刻・早退 -2 点）、実習内容及び態度等の評価表（70%）、実習後経験報告会での発表やデイリーノート成績表（30%）等を下に学内で協議し、総合的に判定する。 自己都合により、期日までに自己チャートを作成出来ない場合は、減点とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

自己チャートで作成した実習目標や実習前及び実習中の計画を踏まえた上で、予習・復習に取り組む。

実習期間中に経験したことは、デイリーノートに記録をとる。また、経験した内容を踏まえ、文献を用いて学習した内容を記録する。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書 名：３年次までに使用した教科書

■ 留意事項

実習施設の配置については、別途発表する。

実習に臨むにあたり実習要綱を熟読すること。

実習に向けて定期的に実技練習を実施します。無断での欠席は認められないのでご注意ください。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法概論						
担 当 者	辻 郁（実務経験者）						
実務経験者の概要	作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた。上記、実務経験を活かした授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

作業療法は生活機能の改善・向上や活動性の発達・拡大を通して、社会参加の可能性を引き出す働きかけをする。本科目では講義、グループ学習を通して作業療法の基礎を学ぶ。

■ 到達目標

- 1) 作業療法実践の枠組みがわかる
- 2) 作業療法実践の実際がわかる
- 3) 作業療法をわかりやすく説明できる

■ 授業計画

- 第1回 作業療法の概念と範囲 (1) 実践例を読み込む
 第2回 作業療法の概念と範囲 (2) 領域と病期別に実践例を整理する
 第3回 作業の仕組み
 第4回 作業の意味と分類 (1) 「作業」の意味
 第5回 作業の意味と分類 (2) 作業療法における「作業」の適応
 第6回 作業療法の歴史と原理／理論
 第7回 日本と世界の作業療法 既存データから把握する
 第8回 まとめ 作業療法の紹介パンフレットを作成する

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	※但し、連絡なしでの欠席・早退・遅刻は減点対象			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後のノート整理に十分取り組むこと
 今回の内容に相当するテキストのページ数を示すので、内容を大まかに確認しておくこと

■ 教科書

書 名：標準作業療法学 作業療法学概論第4版
 著者名：能登真一 編集
 出版社：医学書院

■ 参考図書

--

■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理に留意すること 教科書や資料を読む ノートをとる わからない点は積極的に質問すること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	基礎作業学Ⅰ						
担 当 者	大類 淳矢 (実務経験者)・林部 美紀 (実務経験者)・松尾 康宏 (実務経験者)・秋吉 有梨 (実務経験者)・北田 有沙 (実務経験者)・森本 かえで (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	各担当者は作業療法士として、医療・福祉施設にて臨床経験を有しており、この実務経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

人が作業をすることの効果について、経験し実践し思考することが重要である。この授業では、講義やグループワークや実技を通して、アクティブラーニング形式での作業分析の実践を行う。

■ 到達目標

1. 作業活動を構造的にとらえ、分析することができる。
2. 作業分析の観点から作業療法評価を体験する。
3. 作業療法における作業分析の重要性を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業の理解、工程分析理論と演習
 第2回 動作分析理論と演習
 第3回 動作分析理論と演習
 第4回 ADL 作業分析の演習
 第5回 ADL 作業分析の演習
 第6回 ADL 作業分析の演習
 第7回 IADL 作業分析の演習
 第8回 IADL 作業分析の演習
 第9回 就労に必要な技能に関する作業分析
 第10回 就労に必要な技能に関する作業分析
 第11回 就労に必要な技能に関する作業分析
 第12回 就労に必要な技能に関する作業分析
 第13回 障がい別の作業分析
 第14回 障がい別の作業分析
 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	80	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

演習後はレポートを提出すること。
 観察評価体験から小テストを実施するため、授業後は復習すること。

■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版
著者名：濱口 豊太
出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

書 名：メイクセラピー検定3級テキスト
著者名：岩井結美子
出版社：メイクセラピー検定事務局

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	基礎作業学Ⅱ						
担 当 者	吉田 文（実務経験者）・井口知也（実務経験者）・平河真未（実務経験者）・楠本涼介（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	担当教員全てが医療・福祉の施設において作業療法士として勤務した経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

教科書及び配布部資料を用いた講義と演習
非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示

■ 到達目標

集団作業療法実践に必要な基本的視点を理解し、基本的技術を習得する。
集団作業療法におけるウォーミングアップの計画を立て実践できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、集団の定義と構造（実務経験者：吉田 文）
 第2回 集団作業療法の治療因子（実務経験者：吉田 文）
 第3回 交流分析と集団（実務経験者：吉田 文）
 第4回 SST と集団（実務経験者：吉田 文）
 第5回 ウォーミングアップ（講義と演習）（実務経験者：吉田 文）
 第6回 集団作業療法の実際①高齢者に対する集団作業療法（実務経験者：井口知也、吉田 文）
 第7回 集団作業療法の実際①について解説と討論（実務経験者：吉田 文）
 第8回 集団作業療法の実際②精神障害のある方に対する集団作業療法（実務経験者：平河真未、吉田 文）
 第9回 集団作業療法の実際②について解説と討論（実務経験者：吉田 文）
 第10回 集団作業療法の実際③発達障害のある子どもに対する集団作業療法（実務経験者：楠本涼介、吉田 文）
 第11回 集団作業療法の実際③について解説と討論（実務経験者：吉田 文）
 第12回 ウォーミングアップ①（グループ発表）（実務経験者：吉田 文）
 第13回 ウォーミングアップ②（グループ発表）（実務経験者：吉田 文）
 第14回 ウォーミングアップ③（グループ発表）（実務経験者：吉田 文）
 第15回 まとめ（実務経験者：吉田 文）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	40	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	40	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	レポートはウォーミングアップ計画のレポート 20%、グループでの発表 10%とレポート以外の課題の提出 10%で合計 40% とする			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

集団作業療法の実際の授業後はレポートを提出すること
授業の内容から小テストを実施するため授業後には復習をすること

■ 教 科 書

書 名：新版 ひとと集団・場 治療や援助、支援における場と集団のもちい方

著者名：山根 寛

出版社：三輪書店

書 名：作業活動実習マニュアル

著者名：古川 宏

出版社：医歯薬出版

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法研究法						
担 当 者	井口知也（実務経験者）、渡部雄太（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	井口知也、渡部雄太：学会及び学術誌での研究の報告がある。それぞれの担当者が、研究経験を活かし、近年の作業療法研究に関する課題と具体的な事例を交えて、必要な思考力・実践力が身につけられるような授業を展開していく。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

作業療法の発展を支えるのは研究であることを理解し、研究に必要な基礎知識を学ぶ。また、演習を通じて、卒業論文実施計画書を作成する技術を身につける。各論の個々の内容は目標を参照。

■ 到達目標

- 1) 研究疑問を立て、研究を進める方法を理解する
- 2) 研究の種類やデザインを理解する
- 3) 研究計画の具体的な手順を学び、実践することができる

■ 授業計画

- 第1回 作業療法研究法の概論：井口知也（実務経験者）
- 第2回 研究とは何をするのか：井口知也（実務経験者）
- 第3回 研究の種類と論文構成：井口知也（実務経験者）
- 第4回 研究に関わる基礎知識：井口知也（実務経験者）
- 第5回 研究論文の発表と手続き：井口知也（実務経験者）
- 第6回 実際の作業療法研究事例について：井口知也（実務経験者）
- 第7回 研究疑問の立て方と解決法：井口知也（実務経験者）
- 第8回 文献検索（演習）：渡部雄太（実務経験者）
- 第9回 文献検索（演習）：渡部雄太（実務経験者）
- 第10回 研究計画の報告1：井口知也（実務経験者）
- 第11回 研究計画の報告2：井口知也（実務経験者）
- 第12回 研究計画書の作成（演習）井口知也（実務経験者）
- 第13回 研究計画書の作成（演習）井口知也（実務経験者）
- 第14回 研究計画書の作成（演習）井口知也（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	※1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－5点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。 ※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

研究計画書作成、作業療法研究との関係が密接な科目であるので、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましい。講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。
次回の授業までに指定された予習課題と範囲を 30 分程度予習しておき、授業で実施した内容を 30 分程度繰り返し、復習しておくこと。レポートの内容と提出期限も講義中にアナウンスする。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：標準作業療法学専門分野 作業療法研究法 第2版（標準作業療法学 専門分野）

著者名：山田 孝 編集

出版社：医学書院

書 名：作業で創るエビデンス

著者名：友利 幸之介 著

出版社：医学書院

■ 留意事項

「作業療法研究（卒業研究）」で必要になる研究計画書や研究活動などの基礎知識を「作業療法研究法」でしっかりと学習する。

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法総合演習Ⅰ						
担 当 者	OT 専任教員					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

- 1) 相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループ課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し、同時にリーダーシップ力を一部修得する。
- 2) 特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ。

■ 到達目標

- 1) 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている。
- 2) 積極的・主体的な学生生活を送っている。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 班編成とチームビルディング（ゲーム）、作業療法紹介媒体の作成
- 第2回 作業療法紹介媒体の作成
- 第3回 作業療法紹介媒体の作成
- 第4回 作業療法紹介媒体 報告会
- 第5回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する①
- 第6回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する②
- 第7回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する③
- 第8回 作業療法の話聞く（障害当事者から）
- 第9回 作業療法の話聞く（作業療法士から）
- 第10回 臨床での作業療法士の働きを考える
- 第11回 事例分析に挑戦しよう 事例を理解するための学修を深めよう
- 第12回 事例から国家試験問題とその解説を作成しよう
- 第13回 問題への調整、解説と事例紹介
- 第14回 作業療法と国際交流
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	※1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－5点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。 ※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。

次回の授業までに指定された予習課題と範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておくこと。

講義中の時間内に達成できなかった内容を復習の時間で完成させる。次回の課題遂行に必要な情報を終始し、資料等の準備を行う。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディングに努めること。

授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく。

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法総合演習Ⅱ						
担 当 者	OT 専任教員					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

- 1) 相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し、同時にリーダーシップ力を一部修得する。
- 2) 特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ。

■ 到達目標

- 1) リーダーシップに必要な知識と技術を一部修得できている。
- 2) 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている。
- 3) 積極的・主体的な学生生活を送っている。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 班編成とチームビルディング（ゲーム）、作業療法紹介媒体の作成
- 第2回 作業療法紹介媒体の作成
- 第3回 作業療法紹介媒体の作成
- 第4回 作業療法紹介媒体 報告会
- 第5回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する①
- 第6回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する②
- 第7回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する③
- 第8回 作業療法の話を聞く（障害当事者から）
- 第9回 作業療法の話を聞く（作業療法士から）
- 第10回 臨床での作業療法士の働きを考える
- 第11回 事例分析に挑戦しよう 事例を理解するための学修を深めよう
- 第12回 事例から国家試験問題とその解説を作成しよう
- 第13回 問題への調整、解説と事例紹介
- 第14回 作業療法と国際交流
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	※１ 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－５点、事前連絡のある遅刻・欠席は－３点とする）。 ※２ 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（１回につき－５点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。

次回の授業までに指定された予習課題と範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておくこと。

講義中の時間内に達成できなかった内容を復習の時間で完成させる。次回の課題遂行に必要な情報を終始し、資料等の準備を行う。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディングに努めること。

授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく。

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法総合演習Ⅲ						
担 当 者	OT 専任教員					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

- 1) 相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し、同時にリーダーシップ力を修得する。
- 2) 特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ。

■ 到達目標

- 1) リーダーシップに必要な知識と技術を修得できている。
- 2) 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている。
- 3) 積極的・主体的な学生生活を送っている。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 班編成とチームビルディング（ゲーム）、作業療法紹介媒体の作成
- 第2回 作業療法紹介媒体の作成
- 第3回 作業療法紹介媒体の作成
- 第4回 作業療法紹介媒体 報告会
- 第5回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する①
- 第6回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する②
- 第7回 生活行為にマッチする自助具、福祉用具の作成を企画する③
- 第8回 作業療法の話を聞く（障害当事者から）
- 第9回 作業療法の話を聞く（作業療法士から）
- 第10回 臨床での作業療法士の働きを考える
- 第11回 事例分析に挑戦しよう 事例を理解するための学修を深めよう
- 第12回 事例から国家試験問題とその解説を作成しよう
- 第13回 問題への調整、解説と事例紹介
- 第14回 作業療法と国際交流
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	※１ 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－５点、事前連絡のある遅刻・欠席は－３点とする）。 ※２ 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（１回につき－５点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。

次回の授業までに指定された予習課題と範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておくこと。

講義中の時間内に達成できなかった内容を復習の時間で完成させる。次回の課題遂行に必要な情報を終始し、資料等の準備を行う。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディングに努めること。

授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく。

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法管理学						
担 当 者	辻 郁（実務経験者）・西田 裕希（実務経験者）・葉山 靖明（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	辻 郁・西田 裕希：作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。 葉山 靖明：デイサービス等の施設を経営しており、管理者・障害当事者として幅広い知見を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

講義により、作業療法及び作業療法士が勤務する施設等の管理の在り方や、作業療法士を取り巻く社会制度、さらに、作業療法の職域と職業倫理に学び、理解を深める内容である。
臨床見学実習の事前基礎学習となる

■ 到達目標

- 1) マネジメントの視点と方法がわかる
- 2) 作業療法士の職業倫理を理解する
- 3) 作業療法を取り巻く諸制度がわかる
- 4) 自己管理上の課題と解決策を認識できる

■ 授業計画

- 第1回 職業倫理 (1)
- 第2回 職業倫理 (2)
- 第3回 マネジメント概論
- 第4回 情報のマネジメント・個人情報保護
- 第5回 社会保障制度の理解 (1)
- 第6回 社会保障制度の理解 (2)
- 第7回 作業療法部門の管理運営 (1) 組織マネジメント・位置づけ
- 第8回 作業療法部門の管理運営 (2) サービス・設備・モノ
- 第9回 作業療法士の養成・教育
- 第10回 多職種連携・チームマネジメント
- 第11回 リスクマネジメント 医療安全・感染対策
- 第12回 職能団体の役割 日本作業療法士協会・世界作業療法士連盟
- 第13回 自己マネジメント タイムマネジメント・ストレスマネジメント、目標マネジメント
- 第14回 作業療法管理の実際 (1)
- 第15回 作業療法管理の実際 (2)

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	※但し、連絡なしでの欠席・早退・遅刻は減点対象			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：次回授業予定部分のテキストを読んでおくこと
復習：講義内容をまとめ、十分に理解できていなかった部分を適宜確認すること

■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学 作業療法学概論第 4 版
著者名：能登真一 編集
出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

書 名：作業療法管理学入門
著者名：大庭潤平
出版社：医歯薬出版

■ 留 意 事 項

欠席しないように日頃の健康管理に留意すること
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法評価学概論						
担 当 者	辻 郁（実務経験者）						
実務経験者の概要	当該科目の専門を用いて、臨床現場で障害児、障害者、高齢者に対して作業療法の実践経験を有し、幅広い知見を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法評価の枠組みを学習する。
生活機能の把握方法を学ぶ。

■ 到達目標

- 1) 作業療法評価とは何かを説明できる
- 2) 作業療法評価の過程を説明できる
- 3) 作業療法評価における記録と責任について説明できる
- 4) 情報収集の方法とポイントがわかる 一部実践できる

■ 授業計画

- 第1回 作業療法評価の意味と目的 作業療法プロセスにおける位置づけ
 第2回 情報収集方法 面接・観察・検査・測定
 第3回 収集すべき情報 (1) ICF の側面
 第4回 収集すべき情報 (2) 具体的枠組み
 第5回 情報収集と記録 (1)
 第6回 情報収集と記録 (2)
 第7回 事例分析 (1)
 第8回 事例分析 (2)

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	※但し、連絡なしでの欠席・早退・遅刻は減点対象			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要
 単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できる様になることが求められるので、積極的に予習・復習する

■ 教科書

書 名：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版
 著者名：能登真一 編集
 出版社：医学書院

■ 参考図書

--

■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理につとめる。授業には主体的に参加する

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法評価学Ⅰ						
担当者	岡山友哉（実務経験者）・澤田浩基（実務経験者）・橋元和泉（実務経験者）・日高茉実（実務経験者）・山本清治（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	担当者はそれぞれ身体障害領域・老年期障害領域・発達障害領域領域における作業療法実践の経験があり、各領域の実務経験を活かした授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

本科目は作業療法評価で用いる身体機能に関わる検査・測定についての知識と技術を理解し、演習を繰り返して正確な検査・測定方法を身につけることを目的とする。具体的には関節可動域測定と徒手筋力検査を中心に身体機能の検査・測定を、見学・模倣する。

■ 到達目標

- 1 作業療法評価で用いる検査・測定が理解できる。
- 2 作業療法評価で用いる検査・測定を正しい方法で実施できる。
（オリエンテーション・フィードバックを含む）
- 3 作業療法評価で用いる検査・測定を正確な方法で判断し、記載することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション / 身体機能の検査・測定について
- 第2回 関節可動域測定（上肢）
- 第3回 関節可動域測定（上肢・下肢）
- 第4回 関節可動域測定（下肢・体幹・頸部・手指）
- 第5回 関節可動域測定（体幹・頸部・手指）・徒手筋力テスト（上肢）
- 第6回 徒手筋力テスト（上肢）
- 第7回 徒手筋力テスト（下肢）
- 第8回 徒手筋力テスト（下肢・肩甲帯・体幹）
- 第9回 徒手筋力テスト（肩甲帯・体幹）
- 第10回 片麻痺機能検査
- 第11回 実技試験（関節可動域測定・徒手筋力テスト・運動麻痺の検査）
- 第12回 実技試験（関節可動域測定・徒手筋力テスト・運動麻痺の検査）
- 第13回 バランス検査・感覚検査
- 第14回 握力とピンチ力・上肢機能検査
- 第15回 反射検査・筋緊張の検査

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	40	%	
レポート	◎	10	%	
小テスト				
その他・備考	実技試験 50%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学における筋骨格系の位置と名称について、運動学における運動方向と作用について復習しておくこと。また、授業時間内で十分な演習時間を設けることが難しいため、自主的に授業以外での練習が必要となる。

■ 教科書

書 名：作業療法評価学 第3版

著者名：矢谷玲子監修

出版社：医学書院

書 名：新・徒手筋力検査法 第10版

著者名：Helen J.Hislop、Dale Avers ら

出版社：三輪書店

■ 参考図書

書 名：臨床 ROM 測定からエクササイズまで 第2版

著者名：隈元庸夫 編集

出版社：株式会社ヒューマン・プレス

書 名：MMT ナビ―臨床で役立つ徒手筋力検査法

著者名：青木主税ら

出版社：round Flat

■ 留意事項

①準備物等の連絡は Moodle を通じて行いますので、各自必ず登録して確認すること。

②原則、授業出席時はケーシーで、実習と同様の服装とし、髪の毛や爪について実技に適した状態にしておくこと。

③中ゴニオ、打腱器を持参すること。

④教室内の換気や各自手洗い、消毒など感染対策を各自で心掛けること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法評価学Ⅱ（画像診断を含む）						
担 当 者	山本清治・吉田文・寺村晃（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	山本清治：身体障害領域における作業療法士としての実務経験を有する。 吉田文：精神障害領域における作業療法士としての実務経験を有する。 寺村晃：発達障害領域における作業療法士としての実務経験を有する。 各担当者が、それぞれの領域の経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域のそれぞれの作業療法対象者の特徴を講義や動画などで学ぶ。
また事例を検討しながら評価から統合と解釈の流れを学ぶ。

■ 到達目標

1. 身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域の作業療法対象者の特徴が理解できる。
2. 面接・観察・情報収集・検査測定の実施方法が分かる。
3. 全体像が分かる（ICF で整理し、情報を統合し解釈できる）。
4. 作業療法ニーズが抽出でき、その理由を説明できる。
5. 作業療法計画（長期・短期目標、具体的なプログラム）が立案できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション ICF 復習
 第2回 身体障害の特徴説明と評価計画
 第3回 身体障害の評価（観察・情報収集・面接・検査測定）
 第4回 身体障害の評価（検査測定）
 第5回 身体障害の評価（検査測定・観察）
 第6回 身体障害の統合と解釈（ICF で整理）
 第7回 身体障害の統合と解釈（問題点の焦点化と ICF で整理・目標設定）
 第8回 身体障害の統合と解釈（作業療法プログラム立案・統合と解釈）
 第9回 身体障害の統合と解釈（統合と解釈）
 第10回 身体障害の統合と解釈（統合と解釈）
 第11回 精神障害の特徴説明
 第12回 精神障害の分析
 第13回 精神障害の統合と解釈
 第14回 発達障害の特徴説明
 第15回 発達障害の分析・統合と解釈

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	70	%	
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。小テスト・レポートについては、翌週の授業でフィードバックを行う。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各領域の授業について予習を行なっておくこと（指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）。次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。指定されたレポートについては必ず期日までに提出すること。

■ 教科書

書 名：標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学
著者名：岩崎テル子 他（編集）
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

他者に説明できるまで、調べて熟考すること。わからないままにしないこと。遅刻・欠席に注意すること。不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	身体障害治療学Ⅰ						
担 当 者	岡山友哉（実務経験者）・田中陽一（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	総合病院で、中枢神経疾患や運動器疾患の対象者に対する作業療法実践の経験があり、各担当者がそれぞれの実務経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

本科目の目的は身体障害領域の作業療法実践の特徴について理解することである。具体的に脳血管疾患と脊髄損傷の疾患特有の障害構造を理解し、適した作業療法評価やプログラムを講義やグループワーク、実技を交えて学習する。最後に、本科目で学習した各疾患の事例を通して作業療法実践における思考過程を経験する。

■ 到達目標

1. 身体障害領域の作業療法実践の基礎的知識や治療原理を理解して説明できる。
2. 脳血管疾患と脊髄損傷の作業療法評価の特徴や介入方法を理解して説明できる。
3. 脳血管疾患と脊髄損傷の作業療法実践における思考過程を理解できる。
4. 脳血管疾患と脊髄損傷の作業療法実践における実技方法を模倣できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション / 身体障害領域の作業療法実践の基礎・治療原理
- 第2回 脳血管疾患の概要
- 第3回 脳血管疾患の作業療法評価・目標
- 第4回 脳血管疾患の作業療法評価（実技）
- 第5回 脳血管疾患の作業療法プログラム
- 第6回 摂食・嚥下障害 / 頭部外傷の作業療法
- 第7回 協調運動障害とその治療（実技）
- 第8回 痛みの基礎と臨床対応：田中先生
- 第9回 脊髄損傷の概要
- 第10回 脊髄損傷の基本動作・日常生活活動（動画視聴）
- 第11回 脊髄損傷の作業療法評価
- 第12回 脊髄損傷の作業療法評価（実技）
- 第13回 脊髄損傷の作業療法アプローチ
- 第14回 中枢疾患の事例検討（事例提示）
- 第15回 中枢疾患の事例検討（グループディスカッション）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	10	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	小テストは全授業において2回程度実施し、原則は実施日の翌週の授業で返却する（事情により遅れることがある）。また、レポートはコメントを記載して返却する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法評価において推論された障害構造から、個別のプログラムを立案するために重要な科目である。「作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ」や身体障害領域の臨床実習で必要となるため積極的な学習態度を期待する。臨床神経学で学習した「脳血管障害」と、整形外科で学習した「脊髄損傷」の復習が必要である。毎回各自で、授業後に該当する教科書の範囲を読了し、30分程度の復習を行って、小テストを理解度の確認に活用する。

■ 教科書

書 名：標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学
著者名：編集：岩崎テル子他
出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：脳卒中治療ガイドライン2021〔改訂2023〕
著者名：日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会（編集）
出版社：協和企画

書 名：脊髄損傷リハビリテーションマニュアル 第3版
著者名：神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷リハビリテーションマニュアル編集委員会（編集）
出版社：医学書院

書 名：動画でわかる 摂食・嚥下リハビリテーション
著者名：藤島一郎、柴本 勇 監修
出版社：中山書店

■ 留意事項

- ①準備物等の連絡は Moodle を通じて行いますので、各自必ず登録して確認すること。
 - ②遅刻・欠席の際に配布した資料あるいは実施された小テストへの対応については、必ず自ら担当教員に相談すること。
- 不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	身体障害治療学Ⅱ						
担 当 者	山本 清治・福岡 千枝・熊野 宏治（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	各担当者は、作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者がそれぞれの臨床経験（身体障害領域）を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法の領域は近年広がりつつある。内部障害や神経筋疾患においても同様である。この授業では内部障害・神経筋疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。また、内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。

■ 到達目標

1. 内部障害・神経筋疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 内部障害や神経筋疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 内部障害や神経筋疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・内部障害の概要・心疾患の概要・作業療法評価
- 第2回 心疾患の作業療法アプローチ
- 第3回 呼吸器疾患の概要と作業療法評価
- 第4回 呼吸器疾患の作業療法アプローチ
- 第5回 呼吸器疾患の作業療法評価とアプローチ例
- 第6回 糖尿病の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第7回 悪性腫瘍の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第8回 悪性腫瘍の作業療法評価とアプローチ例
- 第9回 神経筋疾患の概要
- 第10回 パーキンソン概要と評価と作業療法アプローチ
- 第11回 脊髄小脳変性症・ギランバレーの概要と作業療法評価とアプローチ
- 第12回 筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症の概要と作業療法評価とアプローチ
- 第13回 内部障害・神経筋疾患の症例検討
- 第14回 内部障害・神経筋疾患の症例検討
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	10	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・生理学・内科学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内で全てを網羅することは困難である。そのため、各疾患に共通する解剖学・生理学や内科学等の知識の整理、復習を行なっておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。

■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版

著者名：矢谷 令子（監修）

出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	身体障害治療学Ⅲ（吸引を含む）						
担 当 者	山本 清治・林部 美紀・松永 伸志・西出 義明（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法の領域は多岐に渡る。整形外科は上肢だけではなく下肢や体幹も作業療法対象疾患に入る。この授業では、整形外科疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。手の整形外科疾患ごとの作業療法のける思考過程を事例を通して学ぶ。整形外科疾患ごとの作業療法に 応じて実践を学ぶ。

■ 到達目標

1. 整形外科疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 整形外科疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 整形外科疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・手の骨折の概要
- 第2回 手の骨折の作業療法評価とアプローチ
- 第3回 末梢神経障害の概要
- 第4回 末梢神経障害の作業療法評価とアプローチ
- 第5回 腱損傷の概要
- 第6回 腱損傷の作業療法評価とアプローチ
- 第7回 手の整形外科評価とアプローチ例
- 第8回 痰の吸引
- 第9回 関節リウマチの概要
- 第10回 関節リウマチの作業療法評価とアプローチ
- 第11回 熱傷と切断の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第12回 大腿骨頸部骨折の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第13回 大腿骨頸部骨折の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第14回 変形性膝関節の概要・作業療法評価とアプローチ・体幹の骨折の概要・作業療法アプローチ
- 第15回 整形外科疾患の症例検討

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内で全てを網羅することは困難である。そのため、各疾患に共通する解剖学・生理学や内科学等の知識の整理、復習を行なっておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。

■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版

著者名：矢谷 令子（監修）

出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	精神障害治療学Ⅰ						
担 当 者	吉田 文（実務経験者）・大類淳矢（実務経験者）・松田匡弘（実務経験者）・櫛田理彩（実務経験者）・堀内勇志（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	担当教員全てが精神障害関連の医療・福祉の施設において作業療法士として勤務した経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

教科書及び配布資料を用いた講義と演習
 非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示
 精神障害当事者との交流演習

■ 到達目標

精神障害のある方に対する作業療法評価・治療に必要な基本的視点を理解し、その介入方法を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、精神科疾患、精神障害とは？（実務経験者：吉田 文）
 第2回 精神科治療（実務経験者：吉田 文）
 第3回 精神保健医療福祉の現状と歴史、施策（実務経験者：吉田 文）
 第4回 精神障害リハビリテーション、精神障害領域の作業療法（実務経験者：吉田 文）
 第5回 統合失調症の作業療法①（疾患の復習）（実務経験者：吉田 文）
 第6回 統合失調症の作業療法②（評価・治療）（実務経験者：吉田 文）
 第7回 気分障害の作業療法（障害の復習、評価・治療）（実務経験者：吉田 文）
 第8回 神経症性障害の作業療法、パーソナリティ障害の作業療法（障害の復習、評価・治療）（実務経験者：吉田 文）
 第9回 精神障害作業療法の実際①精神科病院における作業療法（実務経験者：松田匡弘、吉田 文）
 第10回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田 文）
 第11回 精神障害作業療法の実際②精神科クリニックデイケアにおける作業療法（実務経験者：櫛田理彩、吉田 文）
 第12回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田 文）
 第13回 精神障害作業療法の実際③精神障害のある方に対する就労支援（実務経験者：堀内勇志、吉田 文）
 第14回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田 文）
 第15回 まとめ（実務経験者：吉田 文）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

精神障害作業療法の実際の授業後はレポートを提出すること。
 歴史と施策、疾患・障害別の作業療法の内容から小テスト（または課題）を実施するため、授業後は復習すること。

■ 教科書

書 名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2 精神障害
著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集
出版社：協同医書出版社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修
出版社：医学書院

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	精神障害治療学Ⅱ						
担当者	大類淳矢（実務経験者）・吉田 文（実務経験者）・芳賀大輔（実務経験者）・櫛田理彩（実務経験者）・南庄一郎（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	担当教員全てが精神障害関連の医療・福祉の施設において作業療法士として勤務した経験に基づき、授業を進める。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

教科書及び配布資料を用いた講義と演習
 非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示
 精神障害当事者との交流演習

■ 到達目標

精神障害のある方に対する作業療法評価・治療に必要な基本的視点を理解し、その介入方法を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、精神障害治療学Ⅰの復習・確認（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第2回 精神作用物質による精神および行動の障害の作業療法（疾患の復習）（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第3回 精神作用物質による精神および行動の障害の作業療法（評価・治療）（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第4回 発達障害の作業療法（障害の復習、評価・治療）（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第5回 器質性精神障害の作業療法（障害の復習、評価・治療）（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第6回 精神障害作業療法評価演習（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第7回 精神障害作業療法評価演習（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第8回 精神障害領域における地域生活支援（訪問・就労・就学・家族支援）（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第9回 精神障害作業療法の実際（実務経験者：芳賀大輔・大類淳矢・吉田 文）
 第10回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第11回 精神障害作業療法の実際（実務経験者：櫛田理彩・大類淳矢・吉田 文）
 第12回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第13回 精神障害作業療法の実際（実務経験者：南庄一郎・大類淳矢・吉田 文）
 第14回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）
 第15回 まとめ（実務経験者：大類淳矢・吉田 文）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

--

■ 教 科 書

書 名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2 精神障害
著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集
出版社：協同医書出版社

■ 参 考 図 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修
出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	発達障害治療学Ⅰ						
担当者	寺村晃（実務経験者）						
実務経験者の概要	当該科目の専門知識を活用し、臨床現場で障害児や障害者に対する作業療法を実践している。また、その家族に対して助言を提供し、就学支援や就労支援においても経験を有している。この幅広い知見を活かして授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

小児分野における身体的、心理的、社会的な変化や発達障害に対する評価、治療に関する基礎知識は、本科目で学ぶ重要な内容である。また、発達期特有の障害に適応する作業療法アプローチの概要やマネジメントも学習する。

■ 到達目標

- 1) 発達障害児が置かれている背景を理解する。
- 2) 発達障害児の心身機能、その特性について理解する。
- 3) 発達障害の生活・障害構造、社会資源を理解し、それらに対する具体的援助を考えられる。
- 4) 事例を感覚・知覚・認知・行動の発達とライフステージごとの活動、環境因子・個人因子との相互関係で説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・フリーライティング
- 第2回 発達障害領域の作業療法の概要 / 発達障害児の置かれている背景
- 第3回 定型発達1 / 反射と反応
- 第4回 定型発達2 / 発達段階
- 第5回 脳性麻痺1 / 疾患特徴
- 第6回 脳性麻痺2 / 評価と介入
- 第7回 自閉症、ADHD 1 / 疾患特徴
- 第8回 自閉症、ADHD 2 / 評価と介入
- 第9回 学習障害1 / 疾患特徴
- 第10回 学習障害2 / 評価と介入
- 第11回 筋ジストロフィー1 / 疾患特徴
- 第12回 筋ジストロフィー2 / 評価と介入
- 第13回 症例検討1 / 目標設定・評価のまとめ
- 第14回 症例検討2 / ICF・介入の検討
- 第15回 振り返りと質疑応答

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。

作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。

単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

また、グループワークがあるため、積極的に授業に参加し、意見を交換してください。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための発達障害ガイド

著者名：新田 収

出版社：金原出版

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	発達障害治療学Ⅱ						
担 当 者	寺村晃（実務経験者）						
実務経験者の概要	当該科目の専門を用いて、臨床現場で障害児、障害者に対して作業療法の実践し、またその家族に対して助言を行い、就学支援や就労支援の経験を有する。これらの知見をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

障害児の特性に合わせた評価の方法や使用頻度の高い生活評価、身体機能評価、認知機能評価の情報を事例検討をもとにまとめる。評価から得られた情報をもとに全体像を把握する方法を学び、個々の文脈に沿った意味ある作業を提供し実践できる手だてを教授する。

自宅や学校、地域内といった活動の場所が違うことで生じる作業の違いを推察する。

■ 到達目標

- 1) 発達分野での作業療法実践に必要な基本的知識と技術の習得する。
- 2) 発達障害児を対象とした作業療法の目標を立案できる。
- 3) 発達障害児を対象とした作業療法プログラムの立案ができる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・フリーライティング
- 第2回 事例検討：脳性麻痺の評価の情報整理
- 第3回 事例検討：脳性麻痺の評価のICFの整理と目標の検討
- 第4回 事例検討：脳性麻痺の介入の検討
- 第5回 事例検討：自閉症スペクトラムの評価の情報整理
- 第6回 事例検討：自閉症スペクトラムの評価のICFの整理と目標の検討
- 第7回 事例検討：自閉症スペクトラムの介入の検討
- 第8回 前半の振り返りとまとめ・事例報告の読み方
- 第9回 事例検討：筋ジストロフィーの評価の情報整理
- 第10回 事例検討：筋ジストロフィーの評価のICFの整理と目標の検討
- 第11回 事例検討：筋ジストロフィーの介入の検討
- 第12回 事例検討：ADHDの評価の情報整理
- 第13回 事例検討：ADHDの評価のICFの整理と目標の検討
- 第14回 事例検討：ADHDの介入の検討
- 第15回 後半の振り返りとまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。

作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。

単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

また、グループワークがあるため、積極的に授業に参加し、意見を交換してください。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための発達障害ガイド

著者名：新田 収

出版社：金原出版

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	老年期障害治療学Ⅰ						
担 当 者	井口 知也（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）・森本かえで（実務経験者）・ 嵯山 泰志（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者への健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供。 渡部雄太：高齢者施設で高齢期の方への作業療法を担当、地域で健康増進プログラムを提供。 森本かえで：高齢者施設で高齢期の方への外来作業療法と訪問リハビリテーションを担当、精神科病院で青年期・高齢期の方への就労支援プログラムを提供。 嵯山 泰志：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、デイサービス施設で地域在住高齢者への健康増進と認知症予防プログラムを提供。それぞれの担当者が高齢者施設での臨床経験を活かし、高齢者が抱えている課題と具体的な事例を交えて、必要な思考力・実践力が身につけられるような授業を展開していく。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

高齢者の加齢による身体的、心理的、社会的な変化や老年期障害に対する評価、治療に関する基礎知識を学ぶ。老年期特有の障害に対する作業療法アプローチの概要やマネジメントを教授する。各論の個々の内容は目標を参照。

■ 到達目標

- 1) 高齢者が生きてきた時代背景と社会の推移を理解する
- 2) 高齢者の心身機能、その特性について理解する
- 3) 老年期障害の生活・障害構造、社会資源を理解し、それらに対する具体的援助を考えられる
- 4) 老年期作業療法で活用できる検査・測定方法を理解して実践できる

■ 授業計画

- 第1回 高齢社会に伴う諸問題：井口知也（実務経験者）
- 第2回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について：井口知也（実務経験者）
- 第3回 高齢期の特徴、介護保険制度：渡部雄太（実務経験者）
- 第4回 老年期作業療法の実践（基本的枠組み）1：井口知也（実務経験者）
- 第5回 老年期作業療法の実践（基本的枠組み、評価）2：井口知也（実務経験者）
- 第6回 老年期作業療法の実践（評価）3：井口知也（実務経験者）
- 第7回 老年期作業療法の実践（評価、実践例）4：井口知也（実務経験者）
- 第8回 老年期作業療法の実践（評価、実践例）5：渡部雄太（実務経験者）
- 第9回 老年期障害のマネジメント1：嵯山 泰志（実務経験者）
- 第10回 老年期疾患別作業療法（中枢神経疾患）：渡部雄太（実務経験者）
- 第11回 老年期疾患別作業療法（認知症）①：渡部雄太（実務経験者）
- 第12回 老年期疾患別作業療法（認知症）②：渡部雄太（実務経験者）
- 第13回 老年期疾患別作業療法（整形疾患）：渡部雄太（実務経験者）
- 第14回 老年期障害のマネジメント2：森本かえで（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	
レポート	◎	30	%	
小テスト				
その他・備考	※１ 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－５点、事前連絡のある遅刻・欠席は－３点とする）。 ※２ 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（１回につき－５点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法実践との関係が密接な科目であるので、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましい。講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。
次回の授業までに指定された予習課題と範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておくこと。

■ 教科書

書名：高齢期障害領域の作業療法 第2版
著者名：山田 孝 編集
出版社：中央法規

■ 参考図書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期
著者名：村田 和香 編集
出版社：協同医書出版社

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学
著者名：太田 睦美 編集
出版社：協同医書出版社

書名：認知症の作業療法 第2版
著者名：小川 敬之、竹田 徳則 編集
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

「老年期障害治療学Ⅰ」は「老年期障害治療学Ⅱ」「作業療法治療学実習Ⅰ、Ⅱ」「臨床評価学実習Ⅱ」「総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の基礎となる高齢期の方への作業療法を学ぶ。個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	老年期障害治療学Ⅱ						
担 当 者	井口 知也（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）・森本かえで（実務経験者）・ 嵯山 泰志（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者への健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供。 渡部雄太：高齢者施設で高齢期の方への作業療法を担当、地域で健康増進プログラムを提供。 森本かえで：高齢者施設で高齢期の方への外来作業療法と訪問リハビリテーションを担当、精神科病院で青年期・高齢期の方への就労支援プログラムを提供。 嵯山 泰志：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、デイサービス施設で地域在住高齢者への健康増進と認知症予防プログラムを提供。それぞれの担当者が高齢者施設での臨床経験を活かし、高齢者が抱えている課題と具体的な事例を交えて、必要な思考力・実践力が身につけられるような授業を展開していく。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

高齢者の特性に合わせた評価の方法、高齢者に対して使用頻度の高い生活評価、身体機能評価、認知機能評価、心理機能評価の実施方法などについて演習を実施する。評価から得られた情報をもとに全体像を把握する方法を学び、個々の文脈に沿った意味ある作業を提供し実践できる手だてを教授する。各論の個々の内容は目標を参照。

■ 到達目標

- 1) 老年期での作業療法実践に必要な知識と技術の習得を目指す
- 2) 高齢者を対象とした作業療法プログラムを立案できる
- 3) 高齢者を対象とした作業療法プログラムの効果判定ができる

■ 授業計画

- 第1回 老年期障害治療学Ⅰの振り返りと老年期障害治療学Ⅱのオリエンテーション：井口知也（実務経験者）
- 第2回 老年期作業療法の実際（プロセス）：井口知也（実務経験者）
- 第3回 老年期作業療法の実際（検査測定）：渡部雄太（実務経験者）
- 第4回 老年期作業療法の実際（計画立案と実施，統合と解釈，解決策の絞り込み）1：井口知也（実務経験者）
- 第5回 老年期作業療法の実際（計画立案と実施，統合と解釈，解決策の絞り込み）2：井口知也（実務経験者）
- 第6回 老年期作業療法の実際（統合と解釈，解決策の絞り込み，再評価）3：井口知也（実務経験者）
- 第7回 施設系（入所）サービスにおける作業療法：渡部雄太（実務経験者）
- 第8回 施設系（通所）サービスにおける作業療法：嵯山 泰志（実務経験者）
- 第9回 認知症高齢者に対する事例検討1：渡部雄太（実務経験者）
- 第10回 認知症高齢者に対する事例検討2：渡部雄太（実務経験者）
- 第11回 中枢神経疾患に対する事例検討1：渡部雄太（実務経験者）
- 第12回 中枢神経疾患に対する事例検討2：渡部雄太（実務経験者）
- 第13回 整形疾患，がんに対する事例検討：熊野宏治（実務経験者）
- 第14回 終末期に対する事例検討：森本かえで（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%
レポート	◎	30	%
小テスト			

その他・備考	※1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－5点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。 ※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。
--------	---

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法実践との関係が密接な科目であるので、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましい。講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回の授業までに指定された予習課題と範囲を30分程度予習しておき、授業で実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておくこと。

■ 教科書

書名：高齢期障害領域の作業療法 第2版
 著者名：山田 孝 編集
 出版社：中央法規

■ 参考図書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期
 著者名：村田 和香 編集
 出版社：協同医書出版社

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学
 著者名：太田 睦美 編集
 出版社：協同医書出版社

書名：認知症の作業療法 第2版
 著者名：小川 敬之、竹田 徳則 編集
 出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

「老年期障害治療学Ⅱ」は「作業療法治療学演習Ⅰ、Ⅱ」「臨床評価学実習Ⅱ」「総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の基礎となる高齢期の方への作業療法を学ぶ。個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法治療学演習Ⅰ						
担 当 者	山本清治（実務経験者）・寺村晃（実務経験者）・OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当者は病院や在宅など様々な領域で、多様な疾患や障害の対象者に対する作業療法実践の経験をもとに授業を進める。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	2 単位	講義 形式	演習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

本科目は臨床実習に必要な「知識」・「技術」・「態度」を習得することが目的である。授業内容は、実際の対象者（演習協力者）に対し、作業療法評価・実践するために必要な面接や検査・測定の技術と知識を学習する。また、対象者と向き合う姿勢や態度についても理解を深め、実践する。

■ 到達目標

教員の指導のもとで下記項目を模擬対象者に実践することができる。

- 1 作業療法評価計画が立案できる。
- 2 面接や検査・測定の目的について対象者に説明できる。
- 3 面接や検査・測定を目的に沿って実施できる。
- 4 面接や検査・測定の実施結果について記録ができる。
- 5 対象者に適切な態度で接することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・作業療法のプロセス
- 第2回 実技練習（面接）
- 第3回 実技練習（面接）
- 第4回 実技練習（ROM・MMT・感覚検査・BRS）
- 第5回 実技練習（ROM・MMT・感覚検査・BRS）
- 第6回 実技試験（ROM・MMT・感覚検査・BRS）
- 第7回 実技試験（ROM・MMT・感覚検査・BRS）
- 第8回 実技試験のフィードバック・実技練習
- 第9回 演習準備（面接）
- 第10回 演習①（面接） 協力者来学
- 第11回 演習②（面接） 協力者来学
- 第12回 面接の振り返り・評価計画立案
- 第13回 実技練習
- 第14回 実技試験（臨床技能）
- 第15回 実技試験（臨床技能）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	実技試験 50%（授業内で提示する評価表を基準に評価する。）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ①面接、検査・測定、観察など評価に必要な知識や技術について復習や練習しておくこと。
- ②態度面において5月末までに対象者が不快にならないような身だしなみを整えておくこと。

■ 教 科 書

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

- ①健康に留意し、実践に影響が出ないように十分な自己管理をすること。
 - ②協力者のご協力により成り立つ授業であるため、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、あるいは無断欠席や正当な理由がない欠席については原則演習を中止とする。
- 不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法治療学演習Ⅱ						
担 当 者	山本清治（実務経験者）・寺村晃（実務経験者）・OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当者は病院や在宅など様々な領域で多様な疾患や障害の対象者に対する作業療法実践の経験をもとに授業を進める。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	2 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

本科目は臨床実習に必要な「知識」・「技術」・「態度」を習得することが目的である。授業内容は、実際の対象者（演習協力者）に対し、作業療法評価・実践するために必要な面接や検査・測定 of 技術と知識を学習する。また、対象者と向き合う姿勢や態度についても理解を深め、実践する。

■ 到達目標

教員の指導のもとで下記項目を模倣することができる。

- 1 対象者に関連する医学的情報が十分理解できる。
- 2 作業療法評価計画が立案できる。
- 3 対象者に即した評価が実施できる。
- 4 情報を統合し、ICF の枠組みで対象者を理解できる。
- 5 対象者に適した目標の設定・プログラムを実施できる。
- 6 実践結果をまとめて報告できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業療法評価準備
- 第2回 作業療法評価の実施（演習1回目） 協力者来学
- 第3回 実習計画および記録の整理と評価計画立案
- 第4回 知識の整理と検査・測定の練習
- 第5回 作業療法評価の実施（演習2回目） 協力者来学
- 第6回 実習計画および記録の整理と評価計画立案
- 第7回 知識の整理と検査・測定の練習
- 第8回 作業療法評価の実施（演習3回目） 協力者来学
- 第9回 評価結果の整理とまとめ、作業療法プログラム立案
- 第10回 知識の整理と作業療法プログラム準備・練習
- 第11回 作業療法プログラムの実施（演習4回目） 協力者来学
- 第12回 報告書の作成
- 第13回 演習の振り返り
- 第14回 報告会（グループディスカッション形式）
- 第15回 全体での振り返り、教員からのフィードバック

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	30	%	
レポート	◎	30	%	
小テスト				
その他・備考	報告会・報告書 40%（授業内で提示する評価表を基準に評価する。）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ①面接、検査・測定、観察など評価に必要な知識や技術について復習や練習しておくこと。
- ②演習における各担当教員と演習に向けて計画的に報告・連絡・相談を行うこと。
- ③対象者が不快にならないような身だしなみを心がけること。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

- ①健康に留意し、実践に影響が出ないように十分な自己管理をすること。
 - ②協力者のご協力により成り立つ授業であるため、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、あるいは無断欠席や正当な理由がない欠席については原則演習を中止とする。
- 不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法技術論Ⅰ						
担 当 者	渡部雄太 足立一 森田将史（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	渡部雄太、足立一：医療・福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する。 森田将史：ダウン症サッカースクールに携わる経験を有する。 各担当が、それぞれの知見、経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

- ・障がい児・者（ダウン症）の社会参加の現状について紹介し、作業療法の役割について検討する。
- ・障がい児・者（ダウン症）の社会参加を支える作業療法場面で実習を行う。

■ 到達目標

作業療法士として障がい児・者の社会参加に役立つ作業療法（作業活動の活用）について検討することの重要性を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 障がい児・者（ダウン症）の社会参加の現状と作業活動
- 第2回 障がい児・者の自己決定
- 第3回 障がいのある子供たちへのサッカー教室① 体験
- 第4回 障がいのある子供たちへのサッカー教室① 体験
- 第5回 障がいのある子供たちへのサッカー教室① 体験
- 第6回 障がいのある子供たちへのサッカー教室② 企画・運営
- 第7回 障がいのある子供たちへのサッカー教室② 企画・運営
- 第8回 障がいのある子供たちへのサッカー教室② 企画・運営
- 第9回 障がいのある子供たちへのサッカー教室③ 企画・運営
- 第10回 障がいのある子供たちへのサッカー教室③ 企画・運営
- 第11回 障がいのある子供たちへのサッカー教室③ 企画・運営
- 第12回 障がいのある子供たちへのサッカー教室④ 企画・運営
- 第13回 障がいのある子供たちへのサッカー教室④ 企画・運営
- 第14回 障がいのある子供たちへのサッカー教室④ 企画・運営
- 第15回 まとめ 障がい児・者の社会参加に役立つ作業療法の視点

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義授業では、グループディスカッションを中心に行います。事前に資料を提示するので、予習して望んでください。

実習は土日に行います。スケジュール調整をお願いします。初回のオリエンテーションで案内します。

■ 教科書

--

■ 参考図書

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法技術論Ⅱ						
担 当 者	吉田 文（実務経験者）・木村佳友（介助犬使用者）・水上 言（実務経験者）・黒川晶平（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	黒川晶平（実務経験者）：獣医として動物リハビリテーションに携わる 水上 言（実務経験者）：介助犬トレーナーとして介助犬の育成・啓発、障害者の支援に携わる 吉田 文（実務経験者）：作業療法士として介助犬の導入、合同訓練への協力など介助犬使用者のリハビリテーションに携わる、また精神科病院、認知症デイケアで動物介在療法を実施 各担当は、それぞれの領域の経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

ひとの作業の中でもひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を学ぶ。動物介在療法・身体障害者補助犬（介助犬）を中心に、健康な生活をつくり、社会参加を促進するために動物との関わりをどのように活かすことができるのかを学習する。作業療法の中で実践できるように当事者の講義や実務経験者による事例紹介や臨床を再現した体験学習を含めて授業を展開する。

■ 到達目標

1. ひとと動物の関わる作業の分類と作業療法との関係について説明できる
2. ひとと動物の関わる作業が人の生活にどのように影響するか説明できる
3. ひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を実践するための計画が立てられる

■ 授業計画

- | | | | |
|------|-------------------------------------|---|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション | 人と動物の関わり、動物介在療法、動物リハビリテーション、身体障害者補助犬の概要 | 吉田 文（実務経験者） |
| 第2回 | 動物リハビリテーション①（概要） | | 黒川晶平（実務経験者） |
| 第3回 | 動物リハビリテーション②（疾患と評価） | | 黒川晶平（実務経験者） |
| 第4回 | 動物介在療法①（概要） | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第5回 | 動物介在療法②（作業療法と動物介在療法） | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第6回 | 動物介在療法③（作業療法における展開例および計画） | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第7回 | 動物介在療法④（演習） | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第8回 | 動物介在療法⑤（まとめ） | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第9回 | 身体障害者補助犬①（盲導犬・聴導犬・介助犬の概要、身体障害者補助犬法） | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第10回 | 身体障害者補助犬②（介助犬と作業療法） | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第11回 | 身体障害者補助犬③（介助犬育成の実際、育成事業者と作業療法士の連携） | | 水上 言（実務経験者） |
| 第12回 | 身体障害者補助犬④（介助犬使用者の生活、社会参加を促進するために） | | 木村佳友（介助犬使用者） |
| 第13回 | 身体障害者補助犬⑤（介助犬使用者の自助具作製のポイント、まとめ） | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第14回 | 授業のまとめ レポート作成 | | 吉田 文（実務経験者） |
| 第15回 | レポート作成・提出 | | 吉田 文（実務経験者） |

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	50	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	最終レポート以外の課題提出 30% 出席を基本とする授業のため遅刻・早退 - 2 点、欠席 - 5 点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。 またリアクションペーパー、課題提出の遅れや不備は減点対象。遅れは当日中であれば 2/3 点、翌日は 1/3 点。2 日目以降加点なし。但し提出すれば FB は行う。 また、不備があった場合、軽微なもの -1 点～重大なもの -3 点で判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A 4 で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書 名：作業活動実習マニュアル
著者名：古川 宏
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書 名：別冊総合ケア 医療と福祉のための 動物介在療法
著者名：高柳友子他
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

参考書は多数図書館に用意されているので、随時紹介する。人と動物の関わる作業の理解と同時に、この科目は作業療法の基本である作業活動分析や段階付け、作業活動の治療的応用 について学習する。作業療法での利用にむすびつけられるように学習してほしい。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法技術論Ⅲ						
担 当 者	吉田 文（実務経験者）・石橋奈美（実務経験者）・有賀喜代子（実務経験者）・橋本弘子（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	吉田文・有賀喜代子・橋本弘子に関しては作業療法士として医療・福祉施設に勤務していた。石橋奈美はアロマセラピーの実務経験者としてアロマセラピーワークショップ講師等の経験を有する。各担当者は領域ごとの経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

「芸術」にはこれまでに様々な解釈があるが、この科目では芸術を広く解釈し作業療法にどのように用いるかを中心に学習する。芸術活動の意味・価値、自己表現としての芸術、人の生活に芸術はどのような影響を及ぼすのか、芸術はどのように治療に生かされるかなどをグループ活動などにより学ぶ。障害当事者と活動を共有し、各実務経験者の指導や臨床での応用を体験する方法を用いる。

■ 到達目標

1. 芸術に分類される作業活動と人の生活にどのような影響を及ぼすのかを述べることができる
2. 芸術を用いた作業療法の実践について説明できる
3. 芸術活動を作業療法の中でどのように展開していくか計画が立てられる
4. 芸術活動を障害当事者とその目的に合わせて提供できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、アロマセラピー概論
- 第2回 アロマセラピー演習（石橋奈美：実務経験者）
- 第3回 ダンスセラピー概論・演習（橋本弘子：実務経験者）
- 第4回 ダンスセラピー計画①（吉田 文：実務経験者）
- 第5回 ダンスセラピー計画②、実施準備（吉田 文：実務経験者）
- 第6回 ダンスセラピー計画③、実施準備（吉田 文：実務経験者）
- 第7回 ダンスセラピー計画実施（吉田 文：橋本弘子・実務経験者）
- 第8回 ダンスセラピーのまとめ（吉田 文：実務経験者）
- 第9回 絵画療法概論・演習（有賀喜代子：実務経験者）
- 第10回 絵画療法計画①、観察記録の書き方（吉田 文：実務経験者）
- 第11回 絵画療法計画②、実施準備（吉田 文：実務経験者）
- 第12回 絵画療法計画③、実施準備（吉田 文：実務経験者）
- 第13回 絵画療法実施 障害当事者参加（有賀喜代子・吉田 文：実務経験者）
- 第14回 絵画療法のまとめ（吉田 文：実務経験者）
- 第15回 全体のまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	50	%	
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	レポートは 30%、計画実施当日の運営 20%を含め、合計 50% とする。 レポート以外の課題提出 20%。 出席を基本とする授業のため遅刻・早退 - 2 点、欠席 - 5 点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。 また課題提出の遅れや不備は減点対象。遅れは当日中であれば 2/3 点、翌日は 1/3 点。2 日目以降加点なし。但し提出すれば FB は行う。 また、不備があった場合、軽微なもの -1 点～重大なもの -3 点で判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A 4 で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書 名：作業活動実習マニュアル
 著者名：古川 宏
 出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書 名：パーキンソン病はこうすれば変わる！ 日常生活の工夫とパーキンソンダンスで生活機能を改善
 著者名：高畑，進一[編] 宮口，英樹[編] 橋本，弘子[ダンス制作]・めさき，せいこ[イラスト]
 出版社：三輪書店
 ：続 パーキンソン病はこうすれば変わる！一病気の理解とパーキンソン・ダンス＜DVD 付き＞
 ：橋本 弘子（著，編集），高畑 進一（著），宮口 英樹（著），中西 一（著）
 ：三輪書店

■ 留意事項

参考書は図書館に用意されているので、随時紹介する。芸術に関わる作業活動の理解と同時に、この科目は作業療法の基本である作業活動分析や段階付け、作業の治療的応用、対象者とのかわり方について学習する。作業療法での利用にむすびつけられるように学習してほしい。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法技術論Ⅳ						
担 当 者	井口知也（実務経験者）、渡部雄太（実務経験者）、林部美紀（実務経験者）、松田靖史（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	井口知也、渡部雄太、林部美紀：医療、福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する。 松田靖史：義肢や装具、福祉用具の開発、選択に携わる経験を有する。 各担当者がそれぞれの領域の実務経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

障害を持つ方々が社会生活を送る際、社会参加する際に、それぞれの置かれている環境や提供できるサービスや使用している道具により、可能になる作業には差が生じる。

本講義では、社会生活の課題別に環境調整を行うための生活評価や環境調整方法を学び、理解を深める。事例を通して、課題解決策を学ぶ。

■ 到達目標

- 1) 障がいを持つ方々の社会生活について理解する
- 2) 障がいを持つ方々が社会生活を送る上での課題について理解する
- 3) 障がいを持つ方々への環境調整方法を理解する
- 4) 障がいを持つ方々へ環境調整方法を検討する

■ 授業計画

- 第1回 福祉用具概論：法制度とシステム（実務経験者：渡部雄太）
- 第2回 自助具作成のための基礎知識とプロセス（実務経験者：渡部雄太）
- 第3回 車椅子の理解と適合①（実務経験者：松田靖史）
- 第4回 車椅子の理解と適合②（実務経験者：松田靖史）
- 第5回 義肢の理解とスポーツに関わる義肢①（実務経験者：松田靖史）
- 第6回 義肢の理解とスポーツに関わる義肢②（実務経験者：松田靖史）
- 第7回 義手のつくりの理解および義手の適合①（実務経験者：松田靖史）
- 第8回 義手のつくりの理解および義手の適合②（実務経験者：松田靖史）
- 第9回 福祉機器について（実務経験者：松田靖史）
- 第10回 装具とスプリントの概論（実務経験者：松田靖史）
- 第11回 福祉用具を活用した事例検討①（実務経験者：渡部雄太）
- 第12回 福祉用具を活用した事例検討②（実務経験者：井口知也）
- 第13回 スプリントの理解及び適合及び作成①（実務経験者：林部美紀）
- 第14回 スプリントの理解及び適合及び作成②（実務経験者：林部美紀）
- 第15回 まとめ（実務経験者：井口知也）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	
レポート	◎	20	%	
課題提出	◎	20	%	
その他・備考	※１ 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－５点、事前連絡のある遅刻・欠席は－３点とする）。 ※２ 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（１回につき－５点）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法実践との関係が密接な科目であるので、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましい。
講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。
次回の授業までに指定された予習課題と範囲を 30 分程度予習しておき、授業で実施した内容を 30 分程度繰り返し、復習しておくこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：生活環境学テキスト
著者名：監修 細田多穂
出版社：南江堂

■ 留意事項

福祉用具と作業療法は、特に「作業療法治療学実習Ⅱ」「臨床実習」「国家試験」と関連が深い科目で、福祉用具等基礎的な科目の知識が必要となる。
無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床ゼミナールⅠ						
担 当 者	大類 淳矢（実務経験者）・吉田 文（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法士の基本的な技術を身につけることは実習に向けて重要である。この科目では、作業療法に欠かせないコミュニケーションスキルや観察・面接を中心に学習を行う。臨床見学実習でその知識・技術を活用できるようにグループワークや実技による演習を行い、事例を基にディスカッションする。他の科目で学んだ知識・技術も使いながら、作業療法場面における情報を掴み、作業療法と対象者について概説できる力をつける。

■ 到達目標

1. 作業療法学生として対象者・スタッフとコミュニケーションができる
2. 面接により作業療法評価に必要な情報を収集する
3. 観察により作業療法評価に必要な情報を収集する
4. 作業療法支援についての基本実技が習得できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 臨床実習の環境、社会人・医療人としての基本的資質 デイリーノートの書き方
- 第2回 記録（デイリーノート・ケースノート）の書き方
- 第3回 作業療法評価に関する概説
- 第4回 作業療法評価に関する概説
- 第5回 作業療法評価（観察）に関する概説・体験
- 第6回 コミュニケーションスキル
- 第7回 作業療法評価（面接）に関する概説・体験
- 第8回 作業療法評価（作業面接）に関する概説・体験
- 第9回 情報収集に関する概説
- 第10回 車いす介助に関する実技
- 第11回 車いす介助に関する実技
- 第12回 実習に向けた態度・スキルの習得
- 第13回 実習に向けた態度・スキルの習得
- 第14回 作業療法場面の捉え方
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート	◎	60	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	レポート 60%、発表・聴講時の態度 20%、小テスト 20%で評価する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で提示する課題（復習や予習、記録物）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教 科 書

■ 参 考 図 書

書 名：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版

著者名：濱口 豊太

出版社：医学書院

書 名：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版

著者名：能登 真一 山口 昇 ほか

出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

講義受講にあたって、実技内容を含むことがあるため指定された日は学校指定のジャージを着用すること。
PCを用いたプレゼンテーション課題を実施するため、各自PCを用意しておくこと。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床ゼミナールⅡ						
担 当 者	OT 専攻教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当者は作業療法士として医療福祉関連施設での臨床経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

臨床評価学実習Ⅰの記録等を利用しながら学習を進める。評価内容（観察・面接・検査・測定など）のより深い理解、記録の書き方の復習、記録の修正点と次回の実習のための対策を考える。
また、実技を実践、文献等を調べ、作業療法対象者への理解を深め、3年次の評価・治療の理解へとつなげていく。適宜、グループでのディスカッションを用い、相互に学習を深める。

■ 到達目標

1. 記録等から、評価内容（観察・面接・検査・測定など）と学生自身の関わり方の課題を説明することができる。
2. 文献等を参考に臨床実習で経験した作業療法をどのように理解できたかを説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、実習の振り返り
- 第2回 担当事例についてまとめる
- 第3回 担当事例について発表、事例検討
- 第4回 担当事例について発表、事例検討
- 第5回 担当事例について発表、事例検討
- 第6回 担当事例についての記録の補足
- 第7回 担当事例について再度まとめる
- 第8回 担当事例について再度まとめる
- 第9回 評価の実践
- 第10回 評価の実践
- 第11回 評価の実践
- 第12回 まとめ
- 第13回 まとめ
- 第14回 報告会（グループディスカッション）
- 第15回 報告会（グループディスカッション）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	70	%	
小テスト				
その他・備考	報告書・報告会 30% 無断での欠席・遅刻は 1 回につき－ 5 点とする（授業当日を含む前後 3 日以内の連絡可）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で提示する課題を次回授業時または定められた期限内に提出すること。レポートのフィードバックは翌週の授業開始時に行う。

■ 教 科 書

書 名：国際生活機能分類 国際障害分類改訂版
著者名：世界保健機関（WHO）
出版社：中央法規

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床ゼミナールⅢ						
担当者	寺村 晃（実務経験者）						
実務経験者の概要	医療福祉現場で、障害児および障害者を対象に、5年以上にわたる作業療法を実施した経験を活かして授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法治療学実習、地域作業療法実習、臨床評価学実習Ⅱに必要な知識や技術を整理し、習得する。講義形式ではなく個別或いはグループ学習で、国家試験対策を行う。

■ 到達目標

- 1) 専門基礎科目領域の知識が定着している。
- 2) 情報の統合と解釈および臨床推論の方法がおおよそわかっている。
- 3) 地域作業療法実習・臨床評価学実習Ⅱの準備が整っている。
- 4) 国家試験問題に慣れる。

■ 授業計画

- 第1回 国家試験問題；専門領域1
- 第2回 国家試験問題；専門領域2
- 第3回 治療学演習の知識／実技の整理1
- 第4回 治療学演習の知識／実技の整理2
- 第5回 小テスト①
- 第6回 国家試験問題；専門領域3
- 第7回 国家試験問題；専門領域4
- 第8回 治療学演習の知識／実技の整理3
- 第9回 治療学演習の知識／実技の整理4
- 第10回 小テスト②
- 第11回 国家試験問題；専門領域5
- 第12回 国家試験問題；専門領域6
- 第13回 治療学演習の知識／実技の整理5
- 第14回 治療学演習の知識／実技の整理6
- 第15回 小テスト③

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

これまでに学修した知識や実技を基に、専門基礎科目領域の知識が定着していることが望ましい。実習や国家試験と密接に関連するこの科目では、講義時間と同等の復習時間を確保することが重要である。次の授業までには30分程度予習し、授業で学んだ内容を30分程度繰り返し復習することが推奨される。単なる暗記に留まらず、考え方や捉え方を理解し、それを応用できるようになることが求められるため、積極的に予習・復習に取り組むことが必要である。

■ 教 科 書

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床ゼミナールⅣ						
担 当 者	山本 清治（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱで担当したケースの理解を深めると同時に作業療法に関連する知識を深め整理する。同様に Paper Patient についても同様の内容を行う。講義形式ではなく個別或いはグループ学習で行う。適宜、関連する国家試験対策を行う。また、講義の後半は OSCE（Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験）に向けて実技試験を行う。

■ 到達目標

- 1) 専門基礎科目領域の知識が定着している。
- 2) 情報の統合と解釈及び臨床推論の方法がおおよそわかっている。
- 3) 臨床評価学実習Ⅱの準備が整っている。
- 4) 事例に関する国家試験問題に慣れる。
- 5) 事例に合わせた評価を選定し実技が行える。

■ 授業計画

- 第1回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の事例分析1
- 第2回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の事例分析2
- 第3回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の事例分析3
- 第4回 事例：Paper Patient 分析 臨床推論1
- 第5回 事例：Paper Patient 分析 臨床推論2
- 第6回 事例：Paper Patient 分析 臨床推論3
- 第7回 分析事例報告と共有 統合と解釈
- 第8回 Basic OSCE 対策1 オリエンテーション
- 第9回 Basic OSCE 対策2 実技練習、起居動作の介助
- 第10回 Basic OSCE 対策3 実技練習、起居動作の介助
- 第11回 Basic OSCE 対策4 実技練習、面接
- 第12回 Basic OSCE 対策5 実技練習、面接
- 第13回 Basic OSCE 対策6 実技練習、検査測定
- 第14回 Basic OSCE 対策7 実技練習、検査測定
- 第15回 Basic OSCE 対策8 実技練習、まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	Basic OSCE の評価表に基づく評価 100%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

事例に関する教科書や文献を適宜確認し、レポートに反映することを心掛ける。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

これまでのすべての学修が基盤となって進みます。臨地実習に出る前の最終準備として取り組んで下さい。必要な参考図書、文献を準備して臨むこと。それぞれの自己課題を掲げ、授業経過の中で自己課題を明確化すること。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	総合作業療法学						
担 当 者	OT 専任教員（すべて実務経験者）					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

今まで得て来た知識を総動員し、国家試験の知識が身につくように、小テスト・講義・グループワークを主に行う授業である。

■ 到達目標

国家試験合格に到達できる知識を整理し、統合することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、基礎医学の復習
- 第2回 基礎医学の復習
- 第3回 基礎医学の復習
- 第4回 基礎医学の復習
- 第5回 基礎医学の復習
- 第6回 臨床医学の復習
- 第7回 臨床医学の復習
- 第8回 臨床医学の復習
- 第9回 臨床医学の復習
- 第10回 臨床医学の復習
- 第11回 臨床医学の復習
- 第12回 臨床医学の復習
- 第13回 臨床医学の復習
- 第14回 作業療法専門の復習
- 第15回 作業療法専門の復習

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	小テストは毎週 1 回程度実施する。 なお、欠席は 1 回につき 1 点、遅刻は 3 回で 1 点を合計点から減点する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

国家試験に関連する書籍、問題等について見直すこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	地域作業療法学Ⅰ						
担 当 者	辻 郁・田中 歩・小野 稿樹・多崎 沙耶香・葉山 靖明（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	（辻 郁）作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた。 （田中 歩）老人保健施設において長年、作業療法士として入所・在宅の身体・認知症高齢者及び家族等に対する生活支援を経験されている。老人保健施設における作業療法士の機能・役割について学ぶ （小野 稿樹）進行性の神経難病の方々を中心とした訪問リハビリテーション領域において長年、作業療法士として活躍されている。神経難病の方々に対する作業療法の実際（機能と役割）を学ぶ （多崎 紗耶香）重度の精神障害がある方々に対して作業療法士として ACT（包括型地域生活支援プログラム）を使った地域生活支援を長年経験されている。 （葉山 靖明）デイサービス等の施設を運営しており、管理者・障害当事者として幅広い知見を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 授業目的・内容

様々なニーズをもつ障害児・者や高齢者等が地域社会の中で《いきいき》と、そして質の高い生活を送ることができるために作業療法（士）は、何を提供することができるのか？当事者の豊かな生活を支えるために必要な作業療法の機能・役割について学ぶ。また、ライフステージごとにおける生活の変化に関連づけながら生活支援という視点から作業療法について考察する。

■ 到達目標

- 1) 地域作業療法のフレームワーク（理念や目的）を理解する。
- 2) ライフタスクと健康課題を理解する
- 3) 地域作業療法の実際がわかる
- 4) 環境因子としての地域の概況を把握できる・把握する視点がわかる

■ 授業計画

- 第1回 地域作業療法のフレームワーク・地域作業療法のモデル、CBR
- 第2回 地域作業療法の2つのアプローチ CMOP モデルから
- 第3回 ライフタスクと健康課題
- 第4回 健康課題を解決する制度と社会資源 (1)
- 第5回 健康課題を解決する制度と社会資源 (2)
- 第6回 生活者を理解する視点 構造的理解 (1)
- 第7回 生活者を理解する視点 構造的理解 (2)
- 第8回 個別支援・集団支援とマネジメント (1)
- 第9回 個別支援・集団支援とマネジメント (2) 生活行為向上マネジメント
- 第10回 実践例 (1) 精神障害者への訪問による作業療法の実際 多崎 沙綾香先生
- 第11回 実践例 (2) 介護老人保健施設を基盤とした作業療法の実際 田中 歩先生
- 第12回 実践例 (3) クリニックを基盤とした難病患者への作業療法の実際 小野 稿樹 先生
- 第13回 地域概況の把握 (1)
- 第14回 地域概況の把握 (2)
- 第15回 地域概況の把握 (3)

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%
レポート	◎	40	%
小テスト			

その他・備考	無断欠席・遅刻・早退は減点対象
--------	-----------------

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後のノート整理に十分取り組むこと

次回の内容に相当するテキストのページ数や関連資料を示すので、内容を大まかに事前に確認しておくこと

■ 教科書

書 名：地域作業療法概論 第4版

著者名：大熊明他編集

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理に留意すること 教科書や資料を読む ノートをとる わからない点は積極的に質問すること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	地域作業療法学Ⅱ						
担 当 者	辻 郁（実務経験者）・酒井 京子（実務経験者）・堀内 勇志（実務経験者）・寺山 依代（実務経験者）木戸 俊介・山河 正裕（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	酒井京子：身体・知的・精神・発達障害者の方たちへの就労支援を約30年行ってきた経験を元に就労支援の現状と作業療法の可能性について学ぶ（元：サテライトオフィス平野所長（発達障害者支援）、現：大阪市職業リハビリテーションセンター所長） 辻 郁・堀内 勇志・寺山 依代・山河 正裕：作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験があり、各担当者が臨床経験を活かした授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

様々なニーズをもつ障害児・者や高齢者等が地域社会の中で《いきいき》と、そして質の高い生活を送ることができるために作業療法（士）は、何を提供することができるのか？当事者の豊かな生活を支えるために必要な作業療法の機能・役割について学ぶ。また、ライフステージごとにおける生活の変化に関連づけながら生活支援という視点から作業療法について考察する。

■ 到達目標

- 1) 就労支援の枠組みと実際を説明できる。
- 2) 就労支援における作業療法（士）の役割が説明できる。
- 3) 地域を対象とした作業療法計画が立案できる
- 4) 地域作業療法の実践の場を開拓する意味を理解できる

■ 授業計画

- 第1回 介護予防と健康増進
- 第2回 地域の健康課題の抽出と解決策立案 (1)
- 第3回 地域の健康課題の抽出と解決策立案 (2)
- 第4回 地域の健康課題の抽出と解決策立案 (3) QUEST を活用した評価体験
- 第5回 就労支援概要
- 第6回 実践例 (1) 職業リハビリテーションの基礎
障害者職業リハセンター所長 酒井 京子先生
- 第7回 実践例 (2) 障害者職業リハセンターにおける OT の実際
障害者職業センター 寺山 依代 先生
- 第8回 実践例 (3) 一般企業における作業療法の実際
堀内 勇志先生
- 第9回 実践例 (4) 福祉制度による就労支援 工房羅針盤 施設長 山河 正裕 先生
- 第10回 職務分析 CUDBAS 体験 (1)
- 第11回 職務分析 CUDBAS 体験 (2)
- 第12回 就園・就学における作業療法実践
- 第13回 地域作業療法実践事例の分析
- 第14回 地域作業療法実践事例の分析・作業療法が貢献できる領域
- 第15回 当事者の視点から地域作業療法を考える 葉山 晴明 先生

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	
レポート	◎	40	%	
小テスト				
その他・備考	無断欠席・遅刻・早退は減点対象			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後のノート整理に十分取り組むこと

次回の内容に相当するテキストのページ数や関連資料を示すので、内容を大まかに事前に確認しておくこと

■ 教科書

書 名：地域作業療法概論 第4版

著者名：大熊明他編集

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：就労支援の作業療法

著者名：中村俊彦他編

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理に留意すること 教科書や資料を読む ノートをとる わからない点は積極的に質問すること

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	日常生活活動学						
担 当 者	寺村晃（実務経験者）、山本清治（実務経験者）、渡部雄太（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療福祉施設で脳卒中や骨折患者の評価・介入、住宅環境の支援に従事した経験をもとに授業を行う。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法は、社会の様々な場面で人々の生活行為を支援することを目的とする。この支援を行うためには、ADL（日常生活動作）の概念を理解し、ADL の支援には患者の生活機能を評価し、生活行為への支援方法を検討して実施することが重要である。本講義では、ADL の支援過程について学ぶ。

■ 到達目標

- 1.ADL についての理解を深める。
- 2.ADL 評価の一連の手順について理解する。
3. 事例を基に、ADL 支援計画立案の構造を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 日常生活活動学の概論：評価と支援；渡部雄太
 第2回 食事動作、排泄動作①；渡部雄太
 第3回 食事動作、排泄動作②；渡部雄太
 第4回 整容動作、更衣動作①；渡部雄太
 第5回 整容動作、更衣動作②；渡部雄太
 第6回 FIM・BI を含む ADL 評価；寺村晃
 第7回 FIM・BI を含む ADL 評価；寺村晃
 第8回 移動手段①（屋内外の歩行）；寺村晃
 第9回 移動手段②（屋内外の車椅子駆動）；寺村晃
 第10回 ADL を見据えた目標設定の検討；寺村晃
 第11回 事例検討：在宅生活を営む対象者の課題分析 1；山本清治
 第12回 事例検討：在宅生活を営む対象者の課題分析 2；山本清治
 第13回 事例検討：整形疾患を持つ対象者の生活行為の分析 1；山本清治
 第14回 事例検討：整形疾患を持つ対象者の生活行為の分析 2；山本清治
 第15回 全体の振り返りとまとめ；山本清治

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－1 点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－5 点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出るため、講義後の復習は非常に重要です。作業療法と密接に関連する科目であるため、講義時間と同等の復習時間を確保することが推奨されます。単なる暗記だけでなく、考え方や捉え方を理解し、それを応用できる必要性があるため、積極的に予習・復習に取り組んでください。また、授業にはグループワークが含まれていますので、積極的に参加し、意見交換を行ってください。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学
著者名：編集 濱口豊太
出版社：医学書院

■ 留意事項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	作業療法研究						
担 当 者	OT 専任教員					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	4 単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

作業療法領域における具体的なテーマを設定し、研究計画を立て、それに沿って必要な情報や資料を収集し、整理し、結果を導き出す。

研究の基本手法を実践から学ぶ。その集大成を卒業論文として完成させる。

研究の結果を報告する。

■ 到達目標

- 1) 作業療法における問題を科学的根拠に基づいて解決する姿勢と能力を高める。
- 2) 卒業論文を完成させ、報告できる。

■ 授業計画

第1回～15回 ゼミ単位で進行する
 オリエンテーション
 研究テーマの決定／先行研究論文の抄読
 研究計画書の作成
 研究データの収集
 研究計画書の作成
 研究データの収集
 収集したデータの整理・解析
 結果についての考察
 論文作成
 報告準備

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
課題の提出と内容	◎	50	%	
論文内容	◎	50	%	
その他・備考	1. 研究計画書は卒業研究実施許諾分科会にて承認を受け、研究を実施すること。 2. 研究計画書及び卒業研究論文の提出期限を必ず守ること、締め切りを守らない場合は原則として評価の対象とならない。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

研究の進行に沿って、課題を仕上げ、ゼミではディスカッションによって考えをまとめることができるように準備すること。

ゼミの最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回のゼミまでに指定された予習課題と範囲を60分程度予習・準備しておき、ゼミで実施した内容を30分程度繰り返し、復習しておくこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書 名：標準作業療法学専門分野 作業療法研究法 第2版（標準作業療法学 専門分野）

著者名：山田 孝 編集

出版社：医学書院

書 名：作業で創るエビデンス

著者名：友利 幸之介 著

出版社：医学書院

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。研究計画書及び卒業研究論文の提出期限を必ず守ること。

自らが興味を持って取り組んでいることなので、積極的に行動をすること。

研究の大変さと楽しさ、達成感、さらには作業療法の面白さ、大切さを実感できることを期待する。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床見学実習						
担 当 者	OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として各領域の病院での勤務経験がある。また、そこで臨床実習学生を受け入れ、指導した経験をもとに授業を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

1. 実習前学習、臨床見学実習、終了後のまとめと報告会、で構成する。
2. 実習施設は一般病院やリハビリテーション病院、精神科病院など、大学が依頼し決定した施設とする。
3. 臨床現場での実習時間は5日間（1月～2月）とする。
4. 実習形態は、同一施設での臨床実習指導者の指導体制のもと、作業療法実践現場や関係部署の見学を行うこととする。

■ 到達目標

1. 作業療法の実施状況を見学し、記録できる。
2. リハビリテーションの流れの中の作業療法（士）の役割を理解できる。
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みができる。

■ 授業計画

全体オリエンテーション
実習前準備（講義・演習・レポート）
臨床見学実習（5日間）
実習の振り返り・まとめ
実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 20%、実習地での成績 60%、実習終了後の報告及び報告書内容 20% 実習前後の課題や実習地での成績、実習終了後の報告及び報告書の内容をもとに総合的に判定する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員及び臨床実習指導者の指示に従って予習・復習を行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の厚意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと。
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること。
3. 全体を通して身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床評価学実習Ⅰ						
担 当 者	OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験をもとに実習指導を行う。						
専攻(科)		学 年	2 年	総単位数	1 単位	講義 形式	実習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会（実習後学習）で構成する。
2. 実習施設：一般病院、リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：5日間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法評価の実践を行う。

■ 到達目標

1. 作業療法評価の実践と実施状況を観察し、記録、報告できる。
2. 作業療法評価の位置づけを理解できる。
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る。

■ 授業計画

第1回 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 臨床評価実習 I（5日間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	臨床実習施設での成績 60% 学内での実習前後の課題と事例報告 40% 実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

必ず実習ガイダンスを熟読し、参照すること。
 不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	臨床評価学実習Ⅱ						
担 当 者	OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関等で勤務している。これらの作業療法の経験をもとに実習を展開する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	3 単位	講義 形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設。
3. 臨床現場での実習期間：3 週間（1 月末～2 月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法評価を行う。

■ 到達目標

1. 作業療法評価の位置づけと過程がわかる。
2. 対象者の作業療法評価（情報収集、検査測定、統合と解釈、作業療法プログラムの立案）が出来る。
3. 上記を適切に記録できる。

■ 授業計画

全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 臨床評価学実習Ⅱ（3 週間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 20% 実習地での成績 60% 実習終了後の報告・報告書の内容 20% 実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後のまとめと報告・報告書の内容を基に総合的に判定する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	地域作業療法実習						
担 当 者	OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として身体障害領域の病院（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。また、そこで臨床実習学生を多数受け入れ、指導していた経験をもとに進めていく。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	2 単位	講義 形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーションなど大学が依頼し決定した施設。
3. 臨床現場での実習期間：10日間（8月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもとに生活支援の在り方や問題解決に向けて実践される作業療法を経験する。

■ 到達目標

1. 地域作業療法の位置づけと過程がわかる。
2. 指導者とともに対象者の作業療法評価（情報収集、検査測定、統合と解釈、作業療法プログラムの立案）が出来る。
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る。

■ 授業計画

全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 地域作業療法実習（10日間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 20% 実習地での成績 60% 実習終了後の報告・報告書の内容 20% 実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後のまとめと報告・報告書の内容を基に総合的に判定する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	総合臨床実習Ⅰ						
担 当 者	OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として身体障害領域の（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。 また、そこで臨床実習学生を多数受け入れ、指導していた経験をもとに進めていく。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	9 単位	講義 形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：一般病院、リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設。
3. 現場での実習期間：9 週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う。

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得できる。
2. 指導者の指導のもと、一連の作業療法を実践できる。
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる。
4. 義務と責任及び倫理観を修得できる。

■ 授業計画

第1回～第15回 全体オリエンテーション（講義・演習・レポート）
 実習前課題のフィードバック
 客観的臨床能力試験（OSCE）
 総合臨床実習（臨地実習9週間）
 総合臨床実習の振り返り
 総合臨床実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 20% 実習地での成績 60% 実習終了後の報告・報告書の内容 20% 実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後のまとめと報告・報告書の内容を基に総合的に判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、あるいは無断欠席や正当な理由がない欠席については原則実習を中止とする。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	総合臨床実習Ⅱ						
担 当 者	OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として身体障害領域の（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。 また、そこで臨床実習学生を多数受け入れ、指導していた経験をもとに進めていく。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	7 単位	講義 形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：一般病院、リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設。
3. 現場での実習期間：7 週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う。

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得できる。
2. 指導者の指導のもと、一連の作業療法を実践できる。
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる。
4. 義務と責任及び倫理観を修得できる。

■ 授業計画

第1回～第15回 全体オリエンテーション（講義・演習・レポート）
 実習前課題のフィードバック
 客観的臨床能力試験（OSCE）
 総合臨床実習（臨地実習7週間）
 総合臨床実習の振り返り
 総合臨床実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 20% 実習地での成績 60% 実習終了後の報告・報告書の内容 20% 実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後のまとめと報告・報告書の内容を基に総合的に判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、あるいは無断欠席や正当な理由がない欠席については原則実習を中止とする。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	総合臨床実習Ⅲ						
担 当 者	OT 専任教員（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として身体障害領域の（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。 また、そこで臨床実習学生を多数受け入れ、指導していた経験をもとに進めていく。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	2 単位	講義 形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：一般病院、リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設。
3. 現場での実習期間：2 週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う。

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得できる。
2. 指導者の指導のもと、一連の作業療法を実践できる。
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる。
4. 義務と責任及び倫理観を修得できる。

■ 授業計画

第1回～第15回 全体オリエンテーション（講義・演習・レポート）
 実習前課題のフィードバック
 客観的臨床能力試験（OSCE）
 総合臨床実習（臨地実習2週間）
 総合臨床実習の振り返り
 総合臨床実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 20% 実習地での成績 60% 実習終了後の報告・報告書の内容 20% 実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後のまとめと報告・報告書の内容を基に総合的に判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、あるいは無断欠席や正当な理由がない欠席については原則実習を中止とする。

不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

授業科目	理学療法特別演習基礎						
担 当 者	PT 専任教員・他						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位	講義 形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 授業目的・内容

学内で学んだ基礎医学・臨床医学・各疾患の理学療法について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習等を通じて理解を深める

■ 到達目標

基礎医学・臨床医学・各疾患の理学療法の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行できる

■ 授業計画

- 第1回 運動器障害の理学療法
- 第2回 スポーツ障害の理学療法
- 第3回 脳血管障害の理学療法（評価）
- 第4回 脳血管障害の理学療法（治療）
- 第5回 神経・筋疾患の理学療法
- 第6回 呼吸器障害の理学療法
- 第7回 循環器障害の理学療法
- 第8回 発達障害
- 第9回 小児期の理学療法
- 第10回 理学療法評価①
- 第11回 理学療法評価②
- 第12回 運動療法
- 第13回 物理療法
- 第14回 日常生活活動
- 第15回 リハビリテーション医学

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該科目を無効とし、失格とする。
レポート				
小テスト	◎	100	%	
その他・備考	小テストは毎回の講義終了時に実施する。 正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。 授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2点）対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

これまでに学んだ内容の総復習の内容である。
学修について不足がある場合は適宜教員に相談し、助言を得ること。

■ 教科書

書 名：理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント
(専門基礎分野 基礎医学, 専門基礎分野 臨床医学, 基礎 PT 学, 障害別 PT 治療学)

著者名：医歯薬出版 (編)

出版社：医歯薬出版

書 名：国試の達人 (運動解剖生理学編, 臨床医学編, 理学療法編)

著者名：理学療法科学学会 (編)

出版社：理学療法科学学会

書 名：リハドリル (Web 版)

出版社：アイベック

■ 参考図書

書 名：理学療法士作業療法士 過去問題集 10年分 (共通問題, 専門問題)

著者名：電気書院編集部 (編)

出版社：電気書院 久美部門

書 名：PT・OT 国家試験共通問題 である・でたもん (基礎医学, 臨床医学)

著者名：「標準理学療法学・作業療法学」編集室 (編)

出版社：医学書院

書 名：基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編

著者名：ヒントレ研究所 (編)

出版社：南江堂

■ 留意事項

講義内容や回数は学生の状況により上記記載に限らない。

不測の事態 (災害等) が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム (Moodle) を通じて周知する。